

年
報

年報

2014



東北大学病院がんセンター

東北大学病院
がん診療相談室

受付時間月曜日～金曜日 8時30分から16時まで
TEL 022-717-7115 (直通)
FAX 022-717-7132

東北大学病院がんセンター

平成27年3月

巻 頭 言



東北大学病院
がんセンター長 石岡千加史

東北大学病院は平成 18 年度に全国の大学病院に先駆けて都道府県がん診療連携拠点病院に指定されました。この指定にともない当院にがんセンターが設置され、化学療法センター、緩和ケアチーム、がん医療相談室、がん登録室などのがんセンター直属の組織をはじめ、関連診療科や部署が協力して拠点病院の機能強化に努めてきました。以来、東北地方のがん医療に中心的な医療機関として、最新医療の普及、医療従事者の養成、高度がん医療の推進と提供、院内がん登録の推進、がんの臨床試験の推進などに貢献しています。

平成 24 年 6 月にわが国の第 2 期がん対策推進基本計画が策定され、第 1 期の基本計画に盛り込まれた内容に加えて、がん患者の就労の問題、小児がん対策、がんの教育・普及啓発が新たに計画に盛り込まれました。この国の基本計画の改訂にともない第 2 期宮城県がん対策推進計画が平成 25 年 3 月に発表され、東北大学病院は都道府県がん診療連携拠点病院としての機能強化が一層求められています。とりわけ、宮城県内の地域がん医療水準の向上や地域がん医療連携に関する本院への期待は大きく、平成 24～26 年度には宮城県医療再生事業により当センターに先進包括的がん医療推進室を設置し、県内の地域がん医療の実態調査と他職種かつ医療・介護連携のセミナーを地方開催いたしました。平成 27 年度以降も継続して地域がん医療の推進に取り組みます。また、平成 24 年度には全国に初めて 15 カ所指定された小児がん診療拠点病院の 1 つに指定され、当センターに平成 26 年度に小児腫瘍センターを設置しました。さらに、平成 24 年度から文部科学省補助金事業である東北がんプロフェッショナル養成推進プラン（東北がんプロ）が採択され、平成 19 年度から引き続きがん専門医療従事者の養成を推進しています。東北がんプロの事業の 1 つとして平成 25 年度に本学医学系研究科に地域がん医療推進センターが設置され、当センターの先進包括的がん医療推進室と連携して地域がん医療の推進に取り組んでいます。

平成 26 年 1 月 10 日、厚生労働省健康局長通知「がん診療提供体制の整備に関して」では、がん診療連携拠点病院の在り方について新たな指針（新指針）が示され、その中で、都道府県がん診療連携拠点病院における一層の診療機能強化が求められています。新指針に沿って、当院では緩和ケアセンターと放射線治療センターを新たに設置する準備を進め

ています。また、新指針では臨床試験のより一層の推進が求められています。当がんセンターは院内の他部署と協力し、がん医療の新しい医学的エビデンスを創成するための臨床研究の支援にも積極的に取り組む予定です。年々進歩する最新のがん治療を患者に優しく安全に提供するために、今後も様々な課題に取り組みます。今後とも関係各位の御協力をお願い申し上げます。

目 次

I 組織概要

- 1. 設立の経緯 1
 - ・沿革等
- 2. 組織等 2
 - ・組織図、センター概念図等

II 事業報告

- 1. がん診療連携拠点病院関連事業 3
 - (1) 概要 3
 - (2) ダブルトップについて 4
 - (3) 事業内容 4
- 2. 東北大学病院内事業
 - (1) 部会からの報告
 - 診療部会 7
 - 研究部会 10
 - 教育部会 24
 - 相談支援・情報部会 27
 - がん登録部会 36
 - (2) 診療科・部署からの報告
 - 放射線関係 40
 - 化学療法センター 42
 - 薬剤部 55
 - 緩和ケアチーム 57
 - 先進包括的がん医療推進室 60
- 3. がんプロフェッショナル養成事業 68
- 4. 東北大学病院化学療法センター看護業務概要 70

III 資料編

- 1. 関係規程、内規等（院内、県協議会等） 73

I 組織概要

1. 設立の経緯

沿革

平成18年 8月	「都道府県がん診療連携拠点病院」に指定
平成18年10月	東北大学病院がんセンター開設 腫瘍評議会の設置 診療部会、研究部会、教育部会、広報部会の設置
平成18年12月	平成18年度宮城県がん診療連携協議会総会の開催
平成19年 1月	緩和ケアチーム運用開始 院内がん登録開始
平成19年 2月	第1回がん会議（全体会議）の開催
平成19年12月	がん登録部会の設置
平成20年 4月	第1回がんセミナーの開催
平成20年 6月	がん相談支援室の設置
平成20年10月	第1回臨床病理カンファレンスの開催
平成21年12月	第1回地域連携クリティカルパス部会の開催
平成22年 4月	第1回地域連携クリティカルパスWGの開催
平成23年10月	宮城県地域連携クリティカルパス(5大がん)運用開始
平成24年 4月	先進包括的がん医療推進室の設置
平成25年 2月	「小児がん拠点病院」に指定
平成25年 4月	医学物理室の設置
平成26年 2月	宮城県がん診療連携協議会に宮城県がん診療提供体制委員会の設置
平成26年12月	小児腫瘍センターの設置

設立の経緯

平成16年に開始された第三次がん十ヵ年総合戦略の基本方針として「がん医療の均てん化」が挙げられたが、当初、均てん化を担うべき厚生労働省の指定するがん拠点病院に大学病院は含まれてはいなかった。しかし、平成18年2月、厚生労働省が定めるがん拠点病院の枠組みが大きく変わり、がん対策が本格化する中、平成18年8月東北大学病院は宮城県立がんセンターと共に「都道府県がん診療連携拠点病院」に指定された。

「がん診療連携拠点病院」の指定要件として、院内各種のがん診療体制はもとより、放射線治療体制、化学療法体制、緩和ケアチームの整備と専門医療職の配置のほか、地域に対して、研修事業、ネットワーク事業、院内がん登録事業、がん相談支援事業、普及啓発・情報提供事業が求められており、さらに、「都道府県がん診療連携拠点病院」の場合は、地域のがん診療連携拠点病院に対する研修や診療支援が求められ、本院でも、「都道府県がん診療連携拠点病院」として、院内機能の整備と研修や人材交流を通じたほかの拠点病院に

対する指導力が求められることとなった。

このような中、院内整備、地域や地域のがん拠点病院との交流の基点として、平成18年10月、院内にがんセンターが開設されることとなった。同時に、がんセンターの業務の総括、企画、立案及び自己評価を行うため、腫瘍評議会を設置し、また、業務を円滑に進めるため、下部組織として4つの部会を立ち上げた。

一方、平成18年12月には宮城県内の拠点病院の連携を図るため県立がんセンターとともに宮城県がん診療連携協議会を設置し、第1回総会を開催するなど、対外的にも、がん診療連携拠点病院としてスタートを切った。

さらに、院内においても、平成19年1月に、緩和ケアチームの運用と院内がん登録が開始され、同年12月には、院内がん登録業務の進展、拡大に伴い、研究部会よりがん登録分野を「がん登録部会」として独立・新設させた。

また、平成20年4月に第1回がんセミナーを開催、平成20年6月には、がん相談支援室の設置を行い、平成20年10月に第1回臨床病理カンファレンスを開催した。

22年4月以降も引き続きがん診療連携拠点病院として、地域連携クリティカルパスの作成に当り、県内全域で使用できる効率的かつ機能性の高い統一パスを作成するため、「地域連携クリティカルパス部会」の中にさらに、5大がん各部位のワーキンググループを設置し、地域連携クリティカルパスの作成・運用に向けて作業を進め、23年9月に仙台医療圏と大崎地方でパスの説明会を開催し、10月から運用している。

24年4月にがん医療の空白地域の解消に向けて、先進包括的がん医療推進室が設置され、全県下に標準的がん医療の普及と最新のがん医療の提供に努めている。また、25年2月には、診療の実績のほか、緩和ケアの実施体制や地域医療機関との連携、患者の長期フォローアップ、相談支援体制などが評価され、東北ブロックとして「小児がん拠点病院」に指定されました。

25年4月に医学物理室が設置され、放射線治療における精度管理を行っています。

26年1月に厚労省から、「がん診療連携拠点病院等の整備について」新指針が示され、都道府県拠点病院は宮城県におけるがん診療の質の向上及びがん診療の連携協力体制の構築、PDCA サイクルの確保に関し中心的役割を担うことになり、宮城県がん診療連携協議会の下に宮城県がん診療提供体制検討委員会を設置し、検討を始めたところです。

26年12月にがんセンター内に「小児腫瘍センター」を組織化し、入院から外来までの包括的な小児がん医療を提供することを目的とし、各科の協力に基づいた診療と長期フォローアップや緩和医療、成人診療科との連携を強化しています。

2. 組織等

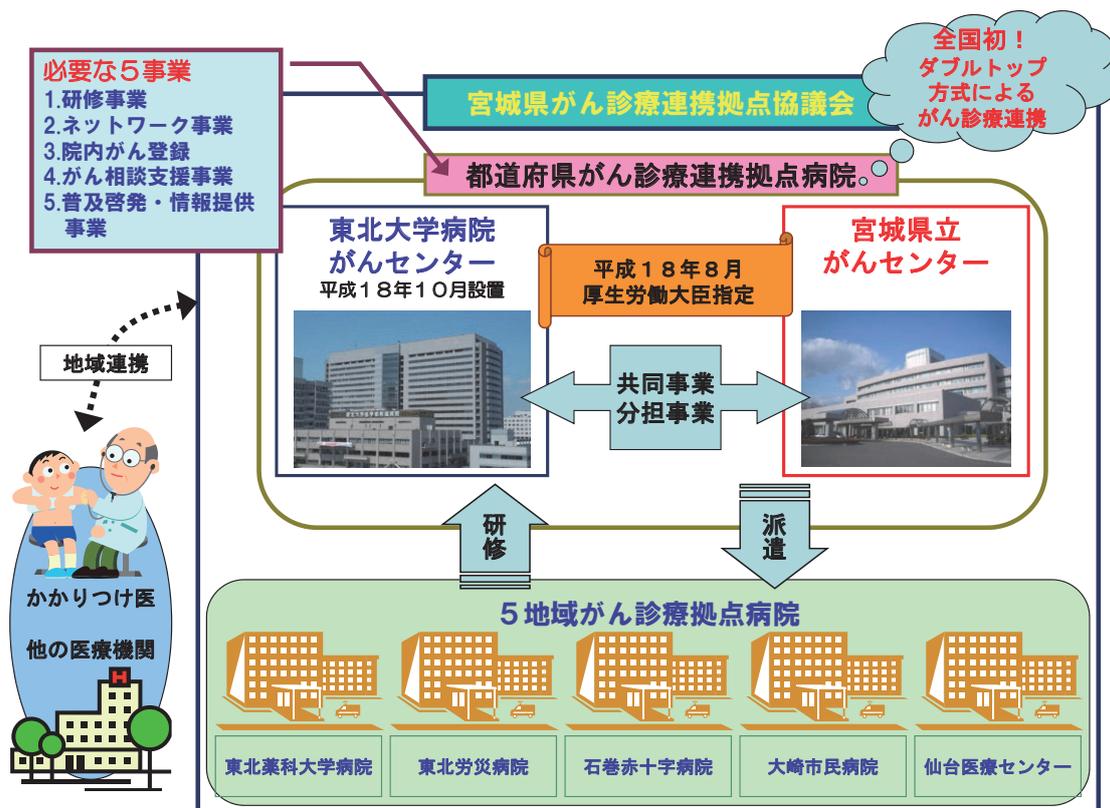


II 事業報告

1. がん診療連携拠点病院に係る事業

(1) 概要

- 本院は、平成18年8月に厚生労働大臣から県立がんセンターと共に1県2拠点（ダブルトップ）として全国初の「都道府県がん診療連携拠点病院」の指定を受けた。
- がん診療連携拠点病院はがん医療の均てん化を図ることを目標として整備されたものであり、指定要件において「診療体制」、「研修体制」、及び「情報提供体制」を整備し、併せて院内がん登録事業、がん相談支援事業等を実施することとなっており、県立がんセンター及び地域がん診療連携拠点病院と連携を図りながら諸事業を実施している。
- 宮城県においては、県内のがん診療の質向上及び拠点病院事業の円滑を図るため、平成18年12月に「宮城県がん診療連携協議会」を設置し、その下部組織に3つの部会（化学療法、放射線治療、緩和ケア医療）を設け、平成21年7月には新たに、がん診療連携拠点病院の指定要件を充足させるため、3つの部会（がん登録、地域連携パス、患者相談）を設け、医師、コ・メディカルを対象とした研修事業等を行っている。



(2) ダブルトップ体制(2拠点)について

- ・ 本院と県立がんセンターによるダブルトップ体制の主な役割分担は、概ね次のとおりとなっている。
- 東北大学病院 : 人材育成・教育面、医師派遣・診療支援メイン
※協議会部会担当:化学療法部会、放射線治療部会、地域連携クリティカルパス部会及びがん登録部会
- 県立がんセンター : がん医療ネットワーク化の推進、がん情報提供の拠点、緩和ケア、相談支援のネットワーク化の拠点
※協議会部会担当:緩和ケア医療部会、患者相談部会及び口腔ケア部会

(3) 事業内容

事業内容は次のとおりとなっている。

1) 教育研修事業

- ・ 宮城県がん診療連携協議会の7部会については、化学療法部会、放射線治療部会、地域連携クリティカルパス部会及びがん登録部会は本院、緩和ケア医療部会、患者相談部会及び口腔ケア部会については県立がんセンターがそれぞれ担当し、次表のような研修等を実施している。

【化学療法部会】

開催日	研修会等名	対象	参加者数
H27.1.20-1.21	がん薬物療法研修	医師、看護師、薬剤師	5名
H27.1.27-1.28	がん薬物療法研修	医師、看護師、薬剤師	6名
H27.2.24-2.25	がん薬物療法研修	医師、看護師、薬剤師	6名
H27.3. 3-3. 4	がん薬物療法研修	医師、看護師、薬剤師	6名
H27.3.17-3.18	がん薬物療法研修	医師、看護師、薬剤師	6名
H26.4.3	平成26年度第1回東北大学病院化学療法カンファレンス	医師、薬剤師、看護師	55名
H26.5.1	平成26年度第2回東北大学病院化学療法カンファレンス	医師、薬剤師、看護師、放射線技師	54名
H26.6.5	平成26年度第3回東北大学病院化学療法カンファレンス	医師、薬剤師、放射線技師	54名
H26.7.3	平成26年度第4回東北大学病院化学療法カンファレンス	医師、薬剤師、看護師、放射線技師	48名
H26.8.7	平成26年度第5回東北大学病院化学療法カンファレンス	医師、薬剤師、看護師、放射線技師	50名
H26.9.4	平成26年度第6回東北大学病院化学療法カンファレンス	医師、薬剤師、看護師、放射線技師	59名
H26.10.2	平成26年度第7回東北大学病院化学療法カンファレンス	医師、薬剤師、看護師	45名
H26.11.6	平成26年度第8回東北大学病院化学療法カンファレンス	医師、薬剤師、看護師	39名
H26.12.4	平成26年度第9回東北大学病院化学療法カンファレンス	医師、薬剤師、看護師	48名
H27.1.8	平成26年度第10回東北大学病院化学療法カンファレンス	医師、薬剤師	36名

H27.2.4	平成26年度第11回東北大学病院化学療法カンファレンス	医師、薬剤師、看護師	44名
H27.3.5	平成26年度第12回東北大学病院化学療法カンファレンス	医師、薬剤師、看護師	45名
H26.6.18	宮城県がん診療提供体制の評価(化学療法)	医師、薬剤師、看護師、事務	16名
H26.12.15	宮城県がん診療連携協議会化学療法部会	医師、薬剤師、看護師、事務	17名
H27.1.30	宮城県がん診療提供体制現地調査(化学療法)	医師、薬剤師、看護師	6名
H27.3.14	市民公開講座「知っておきたい抗がん剤治療」	一般市民、がん患者、がん経験者及び家族	243名

【緩和ケア医療部会】

開催日	研修会等名	対象	参加者数
H26. 6. 7-6. 8	第42回宮城県緩和ケア研修会	医師、看護師	38名
H26. 7. 5-7. 6	第43回宮城県緩和ケア研修会	医師、看護師	33名
H26. 9. 27-9. 28	第44回宮城県緩和ケア研修会	医師、看護師、薬剤師、MSW	20名
H26. 10. 18-10. 19	第45回宮城県緩和ケア研修会	医師、看護師	16名
H26. 11. 2-11. 3	第46回宮城県緩和ケア研修会	医師、看護師	34名
H26. 12. 6-12. 7	第47回宮城県緩和ケア研修会	医師、看護師、薬剤師	21名
H27. 1. 24-1. 25	第48回宮城県緩和ケア研修会	医師、看護師	18名
H27. 2. 14-2. 15	第49回宮城県緩和ケア研修会	医師、看護師、薬剤師	33名
H27. 3. 14-3. 15	第50回宮城県緩和ケア研修会	医師、看護師	40名

【放射線治療部会】

開催日	研修会等名	対象	参加者数
H26.6.16	宮城県がん診療提供体制の評価(放射線療法)	医師、医学物理士、診療放射線技師、事務	17名
H27.3.14	放射線治療・がん医療従事者勉強会	医師、医学物理士、診療放射線技師	27名

【地域連携パス部会】

開催日	研修会等名	対象	参加者数
H26.5.30	地域連携クリティカルパスコーディネーター担当者会議	看護師、MSW、事務	18名
H26.6.10	宮城県がん診療提供体制の評価(がんパス)	医師、看護師、MSW、事務	17名
H26.12.18	地域連携クリティカルパスコーディネーター担当者会議	看護師、MSW、事務	15名

2) がん登録事業

- ・ 平成 21 年 7 月に新たに宮城県がん診療連携協議会にがん登録部会を設置し、本院が担当し、第 1 回がん登録部会を平成 21 年 10 月 20 日に開催し、宮城県におけるがん診療連携拠点病院内がん登録データの分析及び評価等について検討している。

○ 本院

病院全体としての統一かつ効率的ながん登録を支援する「院内がん登録システム」を開発し、平成 19 年 2 月から運用に供している。

今後、県内拠点病院に同システムを提供し普及させることにより、県内における院内がん登録の統一推進を図る予定である。

○ 県立がんセンター

宮城県地域がん登録の集計、分析作業等を（財）対がん協会がん登録室と連携し実施しているほか、地域拠点病院を対象に院内がん登録の導入及び運用について、助言・指導を行っている。

3) 相談支援事業

- ・ 平成 21 年 7 月に新たに宮城県がん診療連携協議会に患者相談部会を設置し、県立がんセンターが担当し、平成 21 年 8 月にはセカンドオピニオン・患者相談窓口調査を、平成 21 年 12 月にはがん診療に関するアンケートの実施を行っている。

○ 本院

地域医療連携センター内に「がん診療相談室」を設置し、専任の相談員を配置し、病院内外の患者、家族及び地域医療機関等からの相談に対応している。

4) 地域連携クリティカルパス事業

- ・ 平成 21 年 7 月に新たに宮城県がん診療連携協議会に地域連携クリティカルパス部会を設置し、本院が担当し、第 1 回地域連携クリティカルパス部会を平成 21 年 12 月 4 日に開催し、がん診療連携拠点病院の指定要件を充足させるため、県内の地域連携クリティカルパスの作成に向けて取り組み、23 年 10 月から県内全域で使用できる 5 大がん統一パスの運用を開始した。

5) 情報・ネットワーク事業

○ 本院

県外医療機関との情報交換及び東北地方規模でのネットワーク体制の整備を図るため「東北がん評議会」、「東北 6 大学による意見交換会」及び「東北ネットワーク協議会」を開催、あるいは参加している。

○ 県立がんセンター

県内拠点病院による相談支援センター連絡協議会を設置し、情報の共有化、相互相談、相談事例の照会等を行っている。

2. 東北大学病院内事業

(1) 部会からの報告

診療部会

荒井陽一（部会長）

診療部会は、がん関連のカンファレンス、がん相談、地域連携クリティカルパス事業などを通じて、高度で先進的ながん診療をスムーズに提供するための活動を行っています。

【東北大学病院臨床病理カンファレンス】

初期研修医の教育カリキュラムの機能とアドバンスド講義科目「がんプロ合同セミナー」の講義も兼ねています。2014年12月からは初期研修医の参加を義務づけており、毎回多くの出席者による活発な議論が行われています。

開催日	発表者	症例	病理指導医	臨床指導医	参加人数
第1回 H26. 6. 2	鎌田 裕基 田中 祥朗	肺がん治療中に消化管出血を来し死亡した一例	村上 圭吾 柴原 裕紀子	玉田 勉 (呼吸器内科)	95名
	佐藤 遼佑 中村 貴彬	顔面感覚障害で発症し、約25年の経過で呼吸筋麻痺から死亡に至った一例	深谷 佐智子 藤島 史喜	青木 正志 (神経内科)	
第2回 H26. 9. 1	金 沙織 中嶋 優太	感染性心内膜炎から脳、心、腎に敗血症性梗塞を生じた多臓器不全にて死亡した一例	谷内 真司 山崎 有人	鈴木 秀明 (循環器内科)	75名
	北川 祐一 小林 洋樹 山本 圭佑	右精巣腫瘍に対する化学療法、外科的切除後に、高度の腹膜播種を伴う多発転移を来し、急速に進行して死亡した一例	及川 麻理子 藤島 史喜	山田 成幸 (泌尿器科)	
第3回 H26. 12. 1	田中 健子 三浦 舞子	20年以上にわたり緩徐ながら増大し続けた難治性の腹腔内巨大腫瘍と6か月で急速に増大した腹腔内腫瘍により死亡した一例	勝嵐 浩紀 村上 圭吾	高橋 信 (腫瘍内科)	88名
	内藤 恵里佳 山崎 龍一	感染を合併し急性の経過で死亡した、診断に苦慮した間質性肺炎の一例	齊藤 涼子 深谷 佐智子	玉井 ときわ (呼吸器内科)	
第4回 H27. 2. 2	張 曄 星 陽介	乳がん術後15年に転移・再発を来し化学放射線療法を行うもがんの増殖により死亡した一例	佐藤 聡子 臼淵 肇	多田 寛 (乳腺・内分泌外科)	81名
	古知 龍三郎 吉田 真彰	劇症型心筋炎から多臓器不全に至り死亡した一例	谷内 真司 山崎 有人	松本泰治、杉村宏一朗 (循環器内科) 安達理、秋山正年 (心臓血管外科)	

【がん相談室・セカンドオピニオン外来の活動】

詳細については、がん相談室からの報告を参照してください。

【その他の活動】

宮城県がん診療協議会地域連携クリティカルパス部会にて、地域連携クリティカルパス事業を推進しています。2014年度からは新たに前立腺がん地域連携クリティカルパスの運用が開始され、順調に症例数が伸びています。

平成 26 年度 前立腺がん地域連携クリティカルパス運用実績報告

● 前立腺がん地域連携クリティカルパスの導入

前立腺全摘除術を施行した患者の多くは長期予後が良好であり、術後の経過観察（PSA 値測定）に関しては、泌尿器科非専門医であっても実施できる可能性が高い。そこで、当院では前立腺がん地域連携クリティカルパス（以下、地域連携パス）を作成し、平成 26 年度より運用を開始した。

● 前立腺がん地域連携パスの運用内容

前立腺がん地域連携クリティカルパス 前立腺全摘除術施行後 P S A 経過観察

【対象者】

前立腺全摘除術施行後の病状が安定し、再発リスクが低く根治が期待される患者。

【内容】

連携医療機関が行うこと：

3～6 ヶ月に 1 回、定期的な問診と採血による PSA 値の確認。測定した PSA 値を当院へ報告。

当院が行うこと：

連携先から届く PSA 値の確認。PSA 値が 0.2ng/ml を超えた場合、泌尿器科的な症状が出現した場合など、連携医療機関先からの問い合わせや紹介に対し、速やかに対応する。

- ・前立腺がん地域連携パス共同診療計画書

前立腺がん地域連携クリティカルパス 「P S A 経過観察」前立腺全摘除術施行後

地域医療機関とがん診療連携拠点病院が連携して、前立腺全摘除術施行後の患者さんの経過観察を行うシステムです。対象者と概要は以下の通りです。

【対象者】術後の病状が安定し、再発のリスクが低く、根治が期待される患者さん
【地域医療機関の先生方へお願いしたいこと】

3～6 ヶ月に 1 回、定期的な問診と採血

→ P S A（前立腺特異抗原）の値を確認していただくのみです。

* 可能であれば、がん診療拠点病院に P S A 値ご報告の F A X をいただきますと診療報酬の算定が可能です。

<再紹介のめやす> ① P S A 値が 0.2 n g / m l を超えた場合
② 泌尿器科的な症状が出現した際

がん診療連携拠点病院へご紹介ください。

* P S A 値の報告の度、がん治療連携指導料（B005-6-2/300点）の算定が可能です。
* スムーズな運用のため、算定にあたる事務手続き（東北厚生局への届け出）は当院が行います。



拠点病院／担当者名

東北大学病院 泌尿器科 / 〇〇〇〇

連絡先

022-717-7000



● **運用件数** (平成 26 年 5 月～平成 27 年 3 月)

地域連携パスの説明を行なった患者：45 名

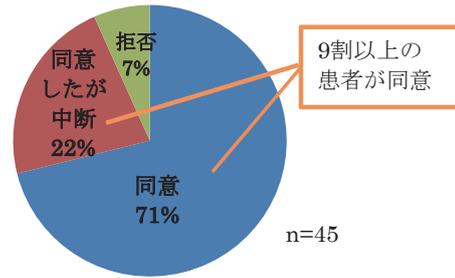
同意した患者：32 名

同意したが中断：10 名 (病理結果および医師の判断)

拒否した患者：3 名 (手術した病院で診てほしいとの理由)

⇒**地域連携パス運用中の患者：32 名**

地域連携パスを利用した経過観察に同意しますか



● 地域連携パス患者 32 名の居住地

地域	仙台					亶理	栗原	気仙沼	多賀城	岩沼	青森 (八戸)
	青葉区	泉区	太白区	若林区	宮城野区						
人数	7	4	4	2	1	6	3	1	1	1	2

● **地域連携パス参加医療機関** (平成 27 年 3 月現在)

前立腺がん地域連携パス参加医療機関：90 施設

⇒ (泌尿器科専門：20 施設、泌尿器科非専門：70 施設)

地域連携パスで紹介した医療機関：27 施設

⇒ (泌尿器科：10 施設、内科：13 施設、内科・外科：3 施設、小児科：1 施設)

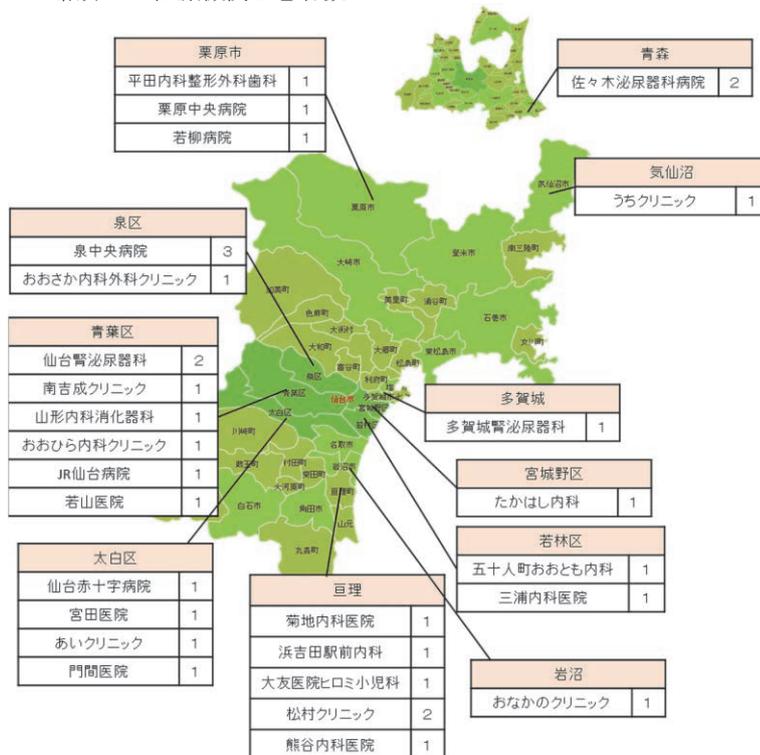
● **地域連携パス患者の紹介先**

地域連携パス患者 32 名の紹介先医療機関⇒紹介元へ逆紹介：10 名 (紹介元がかかりつけ医：2 名)

かかりつけ医へ紹介：20 名

登録医療機関の中から選択：2 名

● 地域連携パスで紹介した医療機関と患者数



がん研究部会

海野倫明 (部会長)

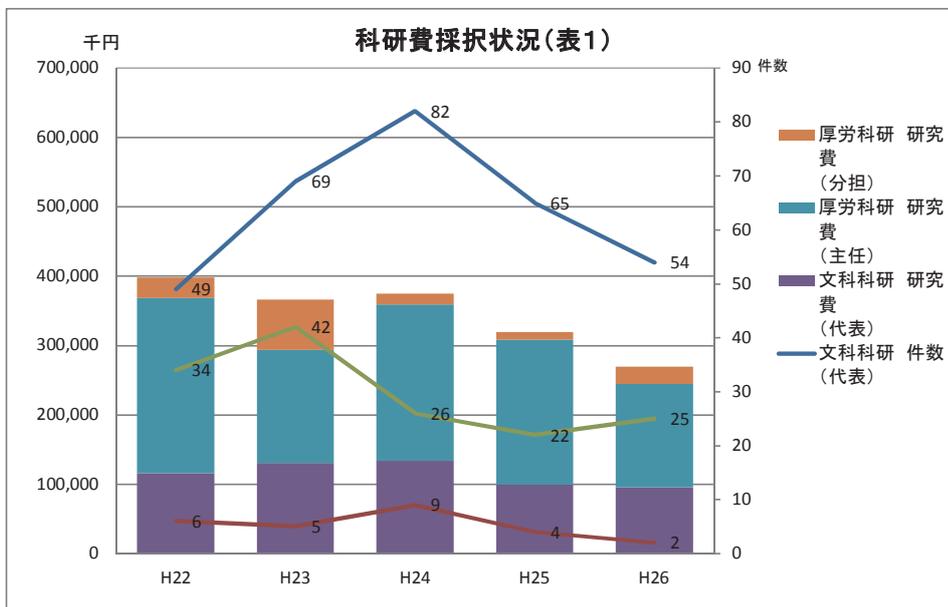
がん研究部会は、東北大学病院における「がん研究及びがん臨床試験の活動状況」を把握することを目的に、平成19年度から、がん研究及びがん臨床試験等に関する活動状況調査(アンケート調査)を実施している。

- 表1. がん研究に関する科学研究費採択状況
- 表2. がんの臨床試験に関する活動状況
- 表3. がんに関する受託研究、共同研究、治験の契約状況
 - ▶ アンケート依頼先：病院の各診療科・部、臨床試験推進センター、医学系研究科（保健学専攻を含む）、加齢医学研究所（臨床系）、歯学研究科の各分野

癌の臨床研究に関する科学研究費の採択状況の推移を見ると、平成22年度～24年度に比べて採択件数および金額は平成25年度、平成26年度ともにやや減少している。競争的資金獲得が厳しい時代ではあるが、がんの臨床研究に力を入れ、より大型の予算の獲得を目指したい。また、がんの臨床研究（自主研究）の件数は若干減少した。平成26年度は、マスコミを賑わせた事件が数多くあり臨床研究に関して逆風の年であった。本学もその影響もあったものとする。その一方で、治験や受託研究・共同研究は順調に推移しており、がんセンターとして今後も推進していきたい。

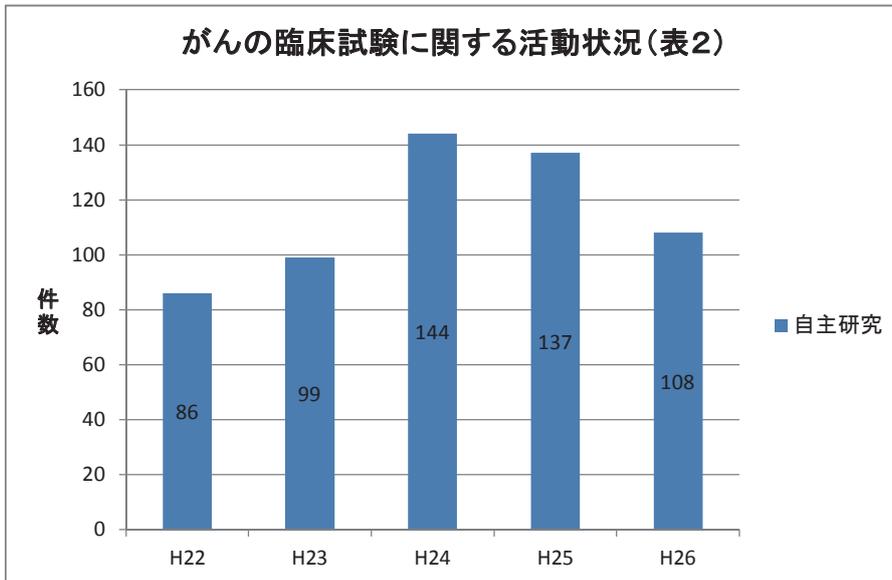
◎ 科研費採択状況(表1)

年度	H22	H23	H24	H25	H26
文科科研 件数 (代表)	49	69	82	65	54
厚労科研 件数 (主任)	6	5	9	4	2
厚労科研 件数 (分担)	34	42	26	22	25
文科科研 研究費 (代表)	115,640	130,430	133,200	99,100	95,600
厚労科研 研究費 (主任)	252,642	162,790	225,541	209,208	148,508
厚労科研 研究費 (分担)	29,750	72,893	15,570	10,660	24,928



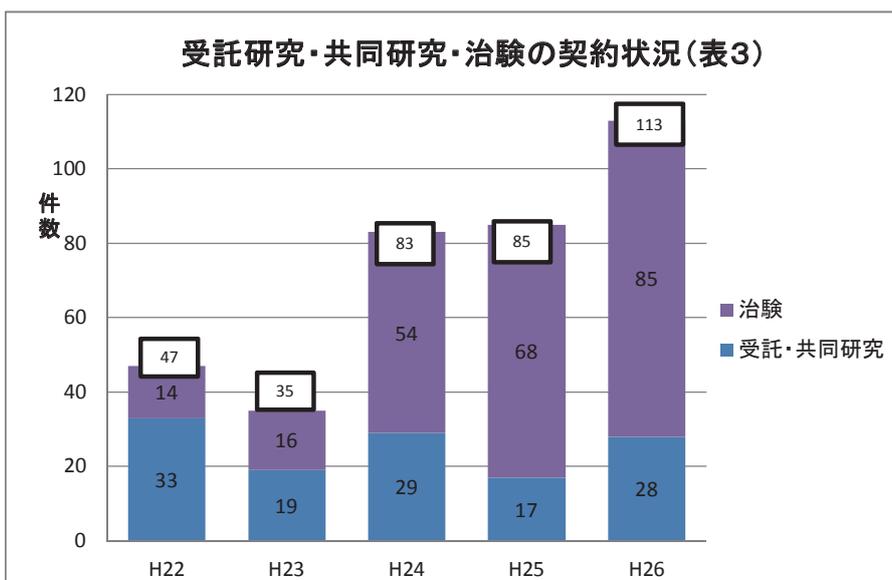
◎ がんの臨床試験に関する活動状況(表2)

種別 \ 年度	H22	H23	H24	H25	H26
自主研究	86	99	144	137	108



◎ 受託研究・共同研究・治験の契約状況(表3)

種別 \ 年度	H22	H23	H24	H25	H26
受託・共同研究	33	19	29	17	28
治験	14	16	54	68	85
合計	47	35	83	85	113



(表1)平成26年度がんに関する科学研究費補助金採択状況

番号	研究種目	代表分担の別	研究代表者名	課題番号	所属部局	所属診療科・分野	研究課題名
1	基盤研究(C)	代表	近藤 泰輝	25460970	病院	消化器内科	ウイルス肝癌微小環境のMDSC、TAM、Treg誘導機構解明による治療法開発
2	基盤研究(C)	代表	小暮 高之	25460971	病院	消化器内科	肝癌増殖におけるエキソソームを介した機能性RNA輸送機構の解明と治療応用
3	若手研究(B)	代表	宇野 要	24790675	医学系研究科	消化器病態学分野	除菌後胃癌発がんのメカニズム:MUC5AC・MUC6発現におけるHNEの役割
4	基盤研究(C)	代表	岡崎 達馬	26461176	病院	呼吸器内科	抗血管新生及び抗リンパ管新生療法による抗腫瘍免疫療法の効果増強作用の検討
5	若手研究(B)	代表	小林 誠	25860633	病院	呼吸器内科	M-CSF誘発性リンパ管新生刺激因子VEGF-C,D産生の細胞内シグナル解析
6	挑戦的萌芽研究	代表	菊地 利明	24659399	医学系研究科	呼吸器内科学分野	EGFR(上皮成長因子受容体)遺伝子変異陽性肺癌の分子遺伝学的発生母地の解明
7	基盤研究(C)	代表	大塚 英郎	25462045	病院	肝・胆・膵外科	癌微小環境におけるRhoA関連蛋白質GCF2の発現制御と転移浸潤メカニズムの解析
8	若手研究(B)	代表	益田 邦洋	26861058	病院	肝・胆・膵外科	ユビキチンリガーゼFbxw7と基質タンパク質を標的とした胆道癌個別化治療の確立
9	基盤研究(C)	代表	元井 冬彦	24592013	医学系研究科	消化器外科学分野	定量プロテオミクス・メタボロミクスアーカイブに基づく肺癌オーダーメイド治療の確立
10	挑戦的萌芽研究	代表	海野 倫明	26670594	医学系研究科	消化器外科学分野	循環系細胞から見た肺癌の上皮間葉転換(EMT)の制御と治療への応用
11	若手研究(B)	代表	羽根田 祥	25861169	医学系研究科	消化器外科学分野	抗TNF- α 交代の発癌に与える影響 —大腸癌を抑制する?—
12	若手研究(B)	代表	工藤 克昌	25861149	病院	胃腸外科	抗癌剤耐性関連ABCトランスポーターに対するクルクミン誘導体の抑制効果の研究
13	基盤研究(C)	代表	大沼 忍	24591895	病院	胃腸外科	消化器癌に発現する抗癌剤耐性ABCトランスポーターのスプライニングの機能解析
14	基盤研究(C)	代表	中野 徹	24591931	病院	乳腺・内分泌外科	パルスジェットメスによる内視鏡的治療技術の応用開発
15	基盤研究(C)	代表	多田 寛	26460639	病院	乳腺・内分泌外科	乳癌術前化学療法後の転移リンパ節での乳癌幹細胞の量・機能の高感度蛍光ナノ解析
16	若手研究(B)	代表	佐藤 章子	26830093	病院	乳腺・内分泌外科	解糖系亢進に基づく乳癌新規治療法の探索と事前効果予測に関する研究
17	若手研究(B)	代表	宮下 穰	26830094	病院	乳腺・内分泌外科	トリプルネガティブ乳癌における治療アルゴリズムの構築:臓器横断的アプローチ
18	基盤研究(A)	代表	大内 憲明	25253039	医学系研究科	腫瘍外科学分野	乳癌HER familyの高感度ナノ定量化による分子標的治療効果予測の基盤整備
19	基盤研究(C)	代表	桜田 晃	25462170	病院	呼吸器外科	喀痰中のマイクロRNAを用いた肺癌の早期発見に関する研究
20	基盤研究(C)	代表	遠藤 俊毅	26462197	病院	脳神経外科	パルスジェットメスによる脊髄神経機能温存下脊髄腫瘍摘出法の開発
21	基盤研究(C)	代表	川口 奉洋	26462196	病院	脳神経外科(高度救命救急センター)	パルスジェットメスによる深部頭蓋底腫瘍摘出法の開発
22	基盤研究(C)	代表	園田 順彦	26462175	医学系研究科	神経外科学分野	幹細胞分化誘導薬を用いたCED法による膠芽腫新規治療法の開発
23	挑戦的萌芽研究	代表	齋藤 竜太	25670613	医学系研究科	神経外科学分野	免疫誘導・作用の場を考慮した脳腫瘍に対する新規免疫治療法の開発
24	基盤研究(B)	代表	富永 悌二	26282116	医学系研究科	神経外科学分野	微弱衝撃波を用いた中枢神経系精密治療技術の開発
25	基盤研究(B)	代表	齋藤 竜太	26293319	医学系研究科	神経外科学分野	局所広範囲ドラッグデリバリー技術の安定化と汎用化に向けた研究
26	基盤研究(C)	代表	小川 武則	26462595	病院	耳鼻咽喉・頭頸部外科	質量分析計を用いた新規頭頸部癌唾液、血液マーカーの検出
27	基盤研究(C)	代表	石田 英一	25462673	病院	耳鼻咽喉・頭頸部外科	マイクロアレイを用いたHPV関連頭頸部発癌と予後に関わるマイクロRNA異常解析
28	若手研究(B)	代表	森 菜緒子	25861058	病院	放射線診断科	乳癌biomarkerとしての3テスラMRI拡散強調画像の撮像法、評価法の確立

(表1)平成26年度がんに関する科学研究費補助金採択状況

番号	研究種目	代表分担の別	研究代表者名	課題番号	所属部局	所属診療科・分野	研究課題名
29	若手研究(B)	代表	嶋内 亜希子	26860972	病院	放射線診断科	マイクロバブルを用いた血管密度解析による、乳癌微小リンパ節転移診断法の確立
30	基盤研究(C)	代表	津田 雅視	24591744	医学系研究科	放射線診断学分野	3T高磁場MRIによる膝の非侵襲的機能画像の開発:ASL手法を用いた新しい試み
31	基盤研究(C)	代表	高澤 千晶	26461783	医学系研究科	放射線診断学分野	マイクロバブル造影超音波とMRI画像の3次元融合による乳癌微小環境の定量化
32	基盤研究(C)	代表	表倉 俊司	26461877	医学系研究科	放射線診断学分野	小児白血病長期生存患者の認知機能障害とMRI機能的画像の関係:照射群VS非照射群
33	基盤研究(B)	代表	阪本 真弥	25293382	病院	口腔診断科	超音波画像による頸部リンパ節転移診断のためのポリュームレジストレーション法の開発
34	挑戦的萌芽研究	代表	森 士朗	26670856	病院	歯科顎口腔外科	口腔癌リンパ節転移に対する金ナノ粒子と近赤外線光を用いた低侵襲治療法の開発
35	若手研究(B)	代表	阿部 陽子	26861700	病院	歯科顎口腔外科	リンパ節間質液圧特性に基づいた口腔癌リンパ節転移早期診断法の開発
36	基盤研究(B)	代表	森 士朗	26293425	病院	歯科顎口腔外科	造影高周波超音波画像による口腔癌微小転移リンパ節の検出およびマッピング法の開発
37	基盤研究(C)	代表	橋元 亘	24593023	病院	歯科顎口腔外科	口腔癌、前癌病変の効果的診断・治療法の開発基盤
38	若手研究(B)	代表	神宮 啓一	26860970	医学系研究科	放射線腫瘍学分野	放射線治療における経皮的挿入型体内緩徐吸収性スペースターの基礎的研究と臨床応用
39	基盤研究(C)	代表	豊島 将文	26462509	医学系研究科	婦人科学分野	がん患者の血栓症予防を目的としたMET-PAI1経路阻害による分子標的治療開発
40	基盤研究(C)	代表	新倉 仁	26462510	医学系研究科	婦人科学分野	子宮体癌センチネルリンパ節転移の腫瘍量、形態による2次リンパ節転移のリスク評価
41	基盤研究(C)	代表	原 康之	25460450	医学系研究科	先進外科学分野	チロシンキナーゼ型受容体の超高精度蛍光イメージングによる肝細胞がん組織診断法開発
42	基盤研究(C)	代表	藤村 卓	25461682	医学系研究科	皮膚科学分野	骨髄由来抑制細胞をターゲットとした悪性黒色腫新規免疫療法の開発
43	挑戦的萌芽研究	代表	菊地 史子	25670942	医学系研究科	保健学科 成人看護学分野	緩和ケア病棟における終末期リハビリテーション導入体制確立に関する研究
44	基盤研究(B)	代表	宮下 光令	25293165	医学系研究科	保健学科 緩和ケア看護学分野	がん患者に対する緩和医療の質の評価方法の確立
45	挑戦的萌芽研究	代表	宮下 光令	25670941	医学系研究科	保健学科 緩和ケア看護学分野	終末期ケアに関わる看護師主導型の各種クリニカル・パスの評価
46	若手研究(B)	代表	佐藤 一樹	24792424	医学系研究科	保健学科 緩和ケア看護学分野	在宅緩和ケアの質の簡便な評価方法の開発
47	基盤研究(C)	代表	高木 清司	26461373	医学系研究科	保健学科 分子機能解析学分野	乳癌の可塑性、ホルモン療法耐性の起源と癌幹細胞性
48	基盤研究(C)	代表	鈴木 貴	25460410	医学系研究科	保健学科 病理検査学分野	転移・再発乳癌におけるエストロゲン作用の解明:内分泌療法の向上をめざして
49	若手研究(B)	代表	高木 清司	26860229	医学系研究科	保健学科 病理検査学分野	腫瘍内免疫細胞による乳癌のエストロゲンシグナル修飾作用の解明
50	挑戦的萌芽研究	代表	辻 一郎	25670310	医学系研究科	公衆衛生学分野	被災者における高リスク群の同定:前向きコホート研究
51	基盤研究(C)	代表	山口 拓洋	24590595	医学系研究科	医学統計学分野	PRO-CTCAE日本語版の開発と普及に関する研究
52	挑戦的萌芽研究	代表	勝山 綾	26670763	医学系研究科	細胞治療分野	網膜芽細胞腫治療の新しい試み
53	基盤研究(C)	代表	鈴木 昭彦	24590781	医学系研究科	乳癌画像診断学寄附講座	マンモグラフィ検診における中間期乳癌の生物学的特性と検診間隔の妥当性に関する研究
54	基盤研究(C)	代表	石田 志子	22592515	東北メディカル・メガバンク機構	予防医学・疫学部門	婦人科疾患の治療前後における性機能、排尿機能およびQOLの変化に関する研究
55	厚生労働科学研究委託費	分担	福原 規子	H26-革新的がん一般-074	病院	血液・免疫科	高齢者多発性骨髄腫患者に対する至適分子標的療法の確立と治療効果および有害事象を予測するバイオマーカーの探索的研究
56	厚生労働科学研究費補助金	分担	近藤 泰輝	H25-B型・肝炎一般-005	病院	消化器内科	C型肝炎の新規診断法や新規治療法を開発するためのゲノムワイド関連解析の手法を用いた宿主因の解析に関する研究

(表1)平成26年度がんに関する科学研究費補助金採択状況

番号	研究種目	代表分担の別	研究代表者名	課題番号	所属部局	所属診療科・分野	研究課題名
57	厚生労働科学研究費補助金	分担	井上 彰	H24-臨研推(生習)-一般-013	病院	呼吸器内科	進展型小細胞肺癌に対する予防的全脳照射の実施の有無を比較するランダム化比較第Ⅲ相試験
58	厚生労働科学研究費補助金	分担	井上 彰	H24-臨研推-一般-003	病院	呼吸器内科	肺動脈硬化の吸入治療のための新規GM-CSF製剤の非臨床試験
59	厚生労働科学研究費補助金	分担	井上 彰	H25-創薬-一般-005	病院	呼吸器内科	BIM遺伝子多型に起因するEGFR変異肺癌のEGFRチロシンキナーゼ阻害薬耐性をポリノスタッド併用で克服する研究
60	厚生労働科学研究費補助金	分担	井上 彰	H25-創薬-一般-011	病院	呼吸器内科	高速シーケンサーを用いた包括的臨床遺伝子検査システムの構築
61	厚生労働科学研究費委託費	分担	井上 彰	H26-革新的がん-一般-113	病院	呼吸器内科(臨床研究推進センター)	BIM遺伝子多型陽性癌におけるHDAC阻害薬の耐性克服効果を最適化する薬力学的効果の指標を探索する研究
62	厚生労働科学研究費委託費	分担	井上 彰	H26-革新的がん-一般-135	病院	呼吸器内科(臨床研究推進センター)	高悪性度神経内分泌肺癌切除術に対する術後補助化学療法の標準治療確立のための研究
63	厚生労働科学研究費委託費	分担	高野 忠夫	H26-革新的がん-一般-049	病院	婦人科(臨床研究推進センター)	早期子宮頸がんに対する機能温存低侵襲手術の確立に関する研究
64	厚生労働科学研究費委託費	分担	高野 忠夫	H26-革新的がん-一般-054	病院	婦人科(臨床研究推進センター)	上皮性卵巣癌の妊孕性温存治療の対象拡大のための非ランダム化検証的試験
65	厚生労働科学研究費委託費	分担	菊地 克子	H26-革新的がん-一般-058	病院	皮膚科	がん治療に伴う皮膚変化の評価方法と標準的ケア確立に関する研究
66	厚生労働科学研究費補助金	分担	高野 忠夫	H24-臨床推-一般-007	病院	臨床研究推進センター	進行卵巣癌・卵管癌・腹膜癌に対する腹腔内化学療法確立のための研究
67	厚生労働科学研究費補助金	分担	高野 忠夫	H24-臨床推-一般-008	病院	臨床研究推進センター	再発卵巣癌・卵管癌・腹膜癌の予後改善のための新たな治療法確立のための研究
68	厚生労働科学研究費補助金	代表	大内 憲明	H26-革新的がん-一般-015	医学系研究科	腫瘍外科学分野	乳がん検診における超音波検査の有効性検証に関する研究
69	厚生労働科学研究費補助金	分担	保坂 正美	H26-革新的がん-一般-084	医学系研究科	整形外科科学分野	高悪性度骨軟部腫瘍に対する標準治療確立のための研究
70	厚生労働科学研究費補助金	代表	海野 倫明	H24-被災地域-一般-009	医学系研究科	消化器外科学分野	切除可能胃癌の術前化学療法の有効性・安全性に関する臨床試験
71	厚生労働科学研究費補助金	分担	荒井 陽一	H24-実用化(国際)-指定-004	医学系研究科	泌尿器科学分野	標準的治療の確立が望まれる難治性疾患に対する新規治療法の開発
72	厚生労働科学研究費補助金	分担	富永 梯二	H26-革新的がん-一般-083	医学系研究科	神経外科学分野	標準治療抵抗性神経膠芽腫に対するペプチドワクチンの第Ⅲ相臨床研究
73	厚生労働科学研究費補助金	分担	園田 順彦	H26-革新的がん-一般-139	医学系研究科	神経外科学分野	予後不良の神経膠腫に対する標準治療の確立と希少癌組織のバイオバンクを目的とした多施設共同研究
74	厚生労働科学研究費補助金	分担	宮下 光令	H25-がん臨床-指定-003	医学系研究科	緩和ケア看護学分野	がん対策における緩和ケアの評価に関する研究
75	厚生労働科学研究費補助金	分担	宮下 光令	H25-がん臨床-指定-004	医学系研究科	緩和ケア看護学分野	がん診療拠点病院におけるがん疼痛緩和に対する取り組みの評価と改善に関する研究
76	厚生労働科学研究費補助金	分担	宮下 光令	H25-統計-一般-005	医学系研究科	緩和ケア看護学分野	受療行動調査による患者の満足度と意識・行動等の現状と推移、相互の関連性およびその規定要因に関する研究
77	厚生労働科学研究費補助金	分担	宮下 光令	H26-がん政策-一般-018	医学系研究科	緩和ケア看護学分野	働くがん患者の職場復帰支援に関する研究—病院における離職予防プログラム開発評価と企業文化づくりの両面から
78	厚生労働科学研究費補助金	分担	宮下 光令	H26-医療-指定-040	医学系研究科	緩和ケア看護学分野	被災地に展開可能ながん在宅緩和医療システムの構築に関する研究
79	厚生労働科学研究費補助金	分担	山口 拓洋	H24-難治等(免)-一般-008	医学系研究科	医学統計学分野	適応拡大に向けた臍帯血移植の先進化による成績向上と普及に関する研究
80	厚生労働科学研究費委託費	分担	山口 拓洋	H26-革新的がん-一般-140	医学系研究科	医学統計学分野	成人T細胞白血病に対する標準治療としての同種造血幹細胞移植法の確立およびゲノム解析に基づく治療法の最適化に関する研究
81	厚生労働科学研究費補助金	分担	森 隆弘	H23-実用化(がん)-一般-005	医学系研究科	地域がん医療推進センター	標準治療法不応の肺がんに有効な新規がんペプチドワクチン療法の開発と創薬展開

(表2)平成26年度 がんの臨床試験に関する活動状況

番号	氏名	区分 (科研費、 自主研究等)	代表・ 分担の別	分担者の場合の代表者の 所属機関・職・氏名	研究名称・課題名	臨床試験の 対象地域・施設	フェーズ	期間	UMIN等への 登録の有無	左記登録WebサイトURL
1	張替 秀郎	科研費	分担	愛知県がんセンター 中央病院 血液・細胞療法部 森島 泰雄	高リスクDLBCLに対する導入化学療法(bi-R-CHOP療法またはbi-R-CHOP/CHASER療法)と大量化学療法(LEE D)の有効性に関するランダム化第II相試験	JCOG	II		有	https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&action=brows&type=summary&recptno=R000004501&language=J
2	張替 秀郎	科研費	分担	国立がん研究センター東 病院 血液腫瘍科 塚崎 邦弘	成人T細胞白血病・リンパ腫に対する骨髄移植の術後療法を用いた同種造血幹細胞移植療法を組み込んだ治療法に関する第II相試験	JCOG	II		有	https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&action=brows&type=summary&recptno=R000004838&language=J
3	張替 秀郎	科研費	分担	愛知県立がんセンター 血液・細胞療法部 部長 木下 朝博	未治療進行期低リスク群のびまん性大細胞型Bリンパ腫に対するR-CHOP療法におけるRituximabの投与スケジュールの検討を目的としたランダム化第II/III相試験	JCOG	II/III		有	https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&action=brows&type=summary&recptno=R000001100&language=J
4	張替 秀郎	科研費	分担	国立がん研究センター東 病院 血液腫瘍科 塚崎 邦弘	成人T細胞白血病・リンパ腫に対するインターフェロンα/ジドブジン併用療法とWatchful Waiting療法の第III相ランダム化比較試験	JCOG	III		有	https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&action=brows&type=summary&recptno=R000013709&language=J
5	張替 秀郎	科研費	分担	名古屋市立大学病院 血液・膠原病内科 飯田 真介	高齢者または移植拒否若年者の未治療慢性骨髄腫患者に対するmelphalan+prednisolone+bortezomib (MPB) 導入療法のランダム化第II相試験	JCOG	II		有	https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&action=brows&type=summary&recptno=R000013023&language=J
6	近藤 丘		分担	順天堂大学 教授・鈴木健司	胸部薄切CT所見に基づくすりガラス影優位のcT1N0肺癌に対する区域切除の非ランダム化検証的試験(JCOG1211)	JCOG			有	
7	近藤 丘		分担	国立がんセンター東病院 科長・坪井正博	高悪性度神経内分泌腫瘍完全切除例に対するイリノテカン+シスプラチン療法とエトポシド+シスプラチン療法のランダム化比較試験(JCOG1205/1206)	JCOG			有	
8	近藤 丘		分担	国立がんセンター東病院 科長・坪井正博	胸部薄切CT所見に基づく肺野型早期肺癌に対する縮小切除の第II相試験(JCOG0804)	JCOG			有	
9	近藤 丘		分担	慶応大学 教授・浅村尚生	肺野末梢小型非小細胞肺癌に対する肺葉切除と縮小切除(区域切除)の第III相試験(JCOG0802)	JCOG			有	
10	近藤 丘		分担	国立がんセンター東病院 科長・坪井正博	病理病期I期(T1>2cm)非小細胞肺癌完全切除例に対する術後化学療法の臨床第III相試験	JCOG			有	
11	近藤 丘		分担	国立がんセンター中央病 院 科長・飛内賢正	JCOG-バイオバンク・ジャパン連携バイオバンク	JCOG			有	
12	近藤 丘		分担	兵庫医科大学 教授・中野孝司	切除可能悪性胸膜中皮腫に対し、胸膜切除/肺剥皮術を企図して完全切除を行う集学的治療に関する速行可能性確認試験				有	
13	近藤 丘		分担	宮城県立がんセンター 科長・高橋里美	GFR遺伝子変異を有するcN2肺腺癌症例に対するゲフィテニブを用いたinduction therapyのphase II study	JNETS				
14	近藤 丘		代表		術後病理病期II/III期非小細胞肺癌完全切除例に対するCBDCA+TS1併用化学療法およびその後のTS1維持療法の容認性・安全性評価の臨床第2相試験	JNETS			有	
15	近藤 丘		代表		CTによるClinical single station N2 症例に対するprospective phase II研究	JNETS			有	
16	近藤 丘		分担	金沢医科大学 教授・佐川元保	すりガラス状陰影主体の肺腺癌に対するPET所見とHR-CT所見をもとにした楔状切除(部位的に過ぎない場合の区域切除を含む)による根治手術の第2相試験	JNETS			有	
17	近藤 丘		分担	仙台医療センター 医師・羽岡 透	非小細胞肺癌転移巣に対する外科治療の有効性評価Phase II trial	JNETS			有	
18	近藤 丘		代表		非小細胞肺癌完全切除例の術後補助化学療法におけるカルボプラチン+ゲムタシン併用療法とTS-1+ドセタキセル併用療法のランダム化第II相試験	JNETS			有	
19	石岡 千加史	自主研究	代表		T-CORE1201:KRAS遺伝子野生型の治癒切除不能な進行・再発の結腸・直腸癌に対する2次治療としてのCetuximab(q2w)+mFOLFOX6またはCetuximab(q2w)+mFOLFIRI療法の臨床第II相試験及び治療効果を予測するバイオマーカーの検討	主に東北地方 (東北臨床腫瘍研究会)	II	2012.3~ 2016.6	有	https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&action=brows&type=summary&recptno=R000009444&language=J

(表2)平成26年度 がんの臨床試験に関する活動状況

番号	氏名	区分 (科研究、 自主研究等)	代表・ 分担の別	分担者の場合の代表者 の 所属機関・職・氏名	研究名称・課題名	臨床試験の 対象地域・施設	フェーズ	期間	UMIN等への 登録の有無	左記登録WebサイトURL
20	石岡 千加史	自主研究	共代表	東北大学加齢医学研究所・石岡千加史、北海道大学病院・小松嘉人、埼玉医科大学国際医療センター・嶋田顕、国立がん研究センター中央病院・山田康秀	T-CORE1202:切除不能大腸癌1次治療におけるTS-1、irinotecan、bevacizumab併用療法の有用性を検証する臨床第Ⅲ相試験	全国	Ⅲ	2012.4～ 2015.4	有	https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&action=brows&type=summary&recptno=R000008819&language=J
21	石岡 千加史	自主研究	分担	大阪大学大学院・消化器外科・黒川 幸典	HERBIS-1B:HER2陽性・測定可能病変を有さない進行再発胃癌に対するTS-1 + CDDP + Trastuzumab(SPT)3週間サイクル併用療法 第Ⅱ相試験	東北、関西、北海道地区(大阪消化管がん化学療法研究会)	Ⅱ	2012.5～ 2017.2	有	https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&action=brows&type=summary&recptno=R000009278&language=J
22	石岡 千加史	自主研究	代表		フッ化ピリミジンを含む化学療法に不応の高齢者治療切除不能進行・再発大腸癌患者に対するトリフルリン・ペピランル塩酸塩療法 第Ⅱ相臨床試験(T-core1401)	主に東北地方(東北臨床腫瘍研究会)	Ⅱ	2015年2月～ 2018年1月	有	https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&action=brows&type=summary&recptno=R000020373&language=J
23	西條 憲	医師主導	分担	国立がんセンター東病院・頭頸部内科長・田村 信	再発・転移頭頸部扁平上皮癌に対するPaclitaxel+Carboplatin+Cetuximab(PCE)併用療法の第Ⅱ相試験	全国	Ⅱ	2013.6～ 2015.5	有	https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&action=brows&type=summary&recptno=R000012287&language=J
24	下平 秀樹	自主研究	分担	筑波大学大学院 人間総合科学研究科 臨床医学系消化器内科 兵頭 一之介	高度腹水を伴うまたは経口摂取不能の腹膜転移を有する胃癌に対するS-FU/L-LV療法 vs. FLTAX(S-FU/L-LV+PTX)療法のランダム化第Ⅱ/Ⅲ相比較試験	全国	Ⅱ/Ⅲ	2013年6月～ 2017年7月	有	https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&action=brows&type=summary&recptno=R000012788&language=J
25	下平 秀樹	自主研究	分担	山形大学 医学部・腫瘍学講座 教授・吉岡 孝志	T-CORE1203:トラスツマブを含む初回化学療法に不応のHER2過剰発現を有する治療切除不能進行・再発胃癌に対するトラスツマブ/ドセタキセル併用療法の第Ⅱ相試験	主に東北地方(東北臨床腫瘍研究会)	Ⅱ	2013.4～ 2017.4	有	https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&action=brows&type=summary&recptno=R000012560&language=J
26	高橋 雅信	自主研究	分担	慶応義塾大学医学部 一般・消化器外科 北川 雄光	臨床病期ⅠB/Ⅱ/Ⅲ食道癌(T4除く)に対する術前CF療法/術前DCF療法/術前CF+RT療法の第Ⅲ相比較試験(JCOG1109)	日本全国(JCOG)	Ⅲ	2013年6月～ 2024年6月	有	https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&action=brows&type=summary&recptno=R000011013&language=J
27	高橋 雅信	自主研究	分担	国立がん研究センター 中央病院 飛内 賢正	消化管・肝臓腫瘍原発の切除不能・再発神経内分泌癌(NEO)を対象としたEP療法+IP療法のランダム化比較試験(JCOG1213)	日本全国(JCOG)	Ⅲ	2014年10月～ 2021年7月	有	https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&action=brows&type=summary&recptno=R000017173&type=summary&language=J
28	高橋 雅信	自主研究	分担	慶応義塾大学医学部 一般・消化器外科 北川 雄光	切除不能または再発食道癌に対するCF療法とbDCF療法のランダム化第Ⅲ相比較試験	日本全国(JCOG)	Ⅲ	2014年10月～ 2020年3月	有	https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&action=brows&type=summary&recptno=R000017550&type=summary&language=J
29	高橋 昌宏	自主研究	分担	京都大学医学部大学院 研究科 臨床腫瘍薬理学・緩和医療学講座 金井 雅史	切除不能胆道癌に対するGEM/CDDP/S-1とGEM/CDDPを比較するランダム化第Ⅲ相試験	全国	Ⅲ	2014年10月～ 2019年9月	有	https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&action=brows&type=summary&recptno=R000016723&language=J
30	高橋 雅信	自主研究	分担	国立がん研究センター 中央病院・食道外科 井垣 弘泰	臨床病期Ⅱ(cT1N0M0)食道癌に対する食道切除術と化学放射線療法同時併用療法(CDDP+S-FU+RT)のランダム化比較試験JCOG0502	日本全国(JCOG)	Ⅱ	2006.12～ 2017.12	有	https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&action=brows&type=summary&recptno=R000000668&language=J
31	高橋 雅信	自主研究	分担	慶応義塾大学 医学部・外科 北川 雄光	臨床病期Ⅱ/Ⅲ(T4を除く)食道癌に対する根治的放射線療法+/-救済治療の第Ⅱ相試験(JCOG0909、EC-CRT+Salvage-P2)	日本全国(JCOG)	Ⅱ	2010.4～ 2018.4	有	https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&action=brows&type=summary&recptno=R000004179&language=J
32	高橋 雅信	自主研究	分担	山形大学 医学部・腫瘍学講座 教授・吉岡 孝志	T-CORE 1102 S-1術後補助化学療法後再発HER2陰性胃癌に対するXP(カンパチビン+スプラテン)療法の第Ⅱ相臨床試験	主に東北地方(東北臨床腫瘍研究会)	Ⅱ	2012.3～ 2016.1	有	https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&action=brows&type=summary&recptno=R000008053&language=J
33	井上 彰	自主研究	分担	仙台厚生病院 部長・菅原 俊一	局所進行非小細胞肺癌への化学放射線療法におけるスンプラテン+UFTとスンプラテン+メトレキセドの無作為化第Ⅱ相試験	北日本肺癌臨床研究会	Ⅱ	2010.8～ 2015.7	有	https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&action=brows&type=summary&recptno=R000004746&language=J
34	井上 彰	自主研究	分担	宮城県立がんセンター 医療部長・前門戸 任	非小細胞肺癌に対するTS-1隔日投与法の検討	北日本肺癌臨床研究会	Ⅱ	2012.1～ 2013.12	有	https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&action=brows&type=summary&recptno=R000008215&language=J
35	里見 進	自主研究	分担	岩手医科大学 医学部外科学講座 若林 剛	EGFR陽性・KRAS遺伝子野生型の結腸・直腸癌肺転移例における治療切除不応例に対するCetuximab併用療法の検討	東北6大学及び関連大学	Ⅱ	2010.12～ 2015.11	有	https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&action=brows&type=summary&recptno=R000005556&language=J
36	海野 倫明	自主研究	代表		進行胆管癌に対する術前化学放射線療法の有効性と安全性の検討-第Ⅱ相試験	東北大学病院	Ⅱ		有	https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&action=brows&type=summary&recptno=R000002093&type=summary&language=J
37	海野 倫明		分担	東京大学医学部 附属病院	初発肝細胞癌に対する肝切除とラジオ波焼灼療法の有効性に関する多施設共同ランダム化並行群間比較試験	全国	Ⅲ		有	https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&action=brows&type=summary&recptno=R000002165&type=summary&language=J
38	海野 倫明	自主研究	代表		大腸癌肝転移切除後化学療法としてのXELOX(Capecitabine+Oxaliplatin)+ペパシズマブ療法 第Ⅱ相臨床試験	関連病院	Ⅱ		有	https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&action=brows&type=summary&recptno=R000004184&type=summary&language=J

(表2)平成26年度 がんの臨床試験に関する活動状況

番号	氏名	区分 (科研究、 自主研究等)	代表・ 分組の別	分組者の場合の代表者 の 所属機関・職・氏名	研究名称・課題名	臨床試験の 対象地域・施設	フェーズ	期 間	UMIN等への 登録の有無	左記登録WebサイトURL
39	海野 倫明	厚生 科研究	分担	国立がん研究センター 中央病院 肝胆膵外科・小宮 智男	膵がん切除患者を対象としたゲムシタピンとS-1の併用療法 (GS療法)をゲムシタピン単独療法と比較する術後補助化学 療法のランダム化第Ⅲ相試験	全国	Ⅲ	2010.11～	有	https://upload.umin.ac.jp/cgi-open-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&action=brows&receptno=R000005242&type=su&mmarv&language=J
40	海野 倫明	自主研究	代表		若年者胆道癌の発症要因に関する研究—日本肝胆膵外科 学会プロジェクト委員会 胆04研究	日本肝胆膵外科学会 高度技能研修施設 (211施設)	調査研究 (後向き観 察研究)	2013年1月～ 2014年3月	無	
41	海野 倫明	自主研究	代表		胆道癌術後補助化学療法におけるゲムシタピン塩酸塩とテ ガフル・ギメラルシ・オテラルカリウム配合剤の有効性の 比較(無作為割り付け比較第Ⅱ相試験)	関連病院	Ⅱ	2013.9- 2018.8	予定	
42	海野 倫明	自主研究	代表		進行胆嚢癌症例に対する塩酸ゲムシタピンとテガフル・ギ メラルシ・オテラルカリウム配合剤併用術前化学療法の安全 性・有効性の検討	東北大学病院	I・II	2011.4- 2016.3	有	https://upload.umin.ac.jp/cgi-open-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&action=brows&receptno=R000005932&type=su&mmarv&language=J
43	海野 倫明	自主研究	代表		塩酸ゲムシタピン、テガフル・ギメラルシ・オテラルカリウ ム配合剤およびシスプラチンに不応となった切除不能進行・ 再発胆嚢癌に対するパニツムマブ単剤治療の安全性および 奏効率の評価	東北大学病院	I・II	2011.4- 2016.3	有	https://upload.umin.ac.jp/cgi-open-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&action=brows&receptno=R000004626&type=su&mmarv&language=J
44	海野 倫明	自主研究	分担	東京大学大学院 國土 典宏	KRAS野生型切除可能大腸癌肝転移に対する術後補助化学 療法mFOLFOX6と周術期化学療法mFOLFOX6+セツキマ ブの 第Ⅲ相ランダム化比較試験 (EXPERT試験)	全国	Ⅲ	2012.5.1-	有	https://upload.umin.ac.jp/cgi-open-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&action=brows&receptno=R000009175&type=su&mmarv&language=J
45	海野 倫明	自主研究	分担	岩手医科大学 若林 剛	EGFR陽性・KRAS遺伝子野生型の結腸・直腸癌肝転移例に おける治療不応例に対するCetuximab併用療法の検討 (FOCAL Study)	東北	Ⅱ	2010.12.1- 2017.12.1	有	https://upload.umin.ac.jp/cgi-open-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&action=brows&receptno=R000005556&type=su&mmarv&language=J
46	海野 倫明	自主研究	分担	弘前大学大学院医学研 究科 袴田 健一	KRAS遺伝子野生型切除不能・進行再発大腸癌に対する一 次治療としてのIRIS+Panitumumab併用療法臨床第Ⅱ相試 験(TOHOKU POWER trial)	東北6大学	Ⅱ		有	https://upload.umin.ac.jp/cgi-open-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&action=brows&receptno=R000009916&type=su&mmarv&language=J
47	海野 倫明	自主研究	代表		腫瘍痛手術例における腫瘍組織Corticotropin- Releasing Hormone発現と予後との相関研究ならびにQOL調 査の向きコホート研究	東北大学病院	観察研究	2012/12/20	有	https://upload.umin.ac.jp/cgi-open-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&action=brows&receptno=R000011043&type=su&mmarv&language=J
48	海野 倫明	自主研究	代表		塩酸ゲムシタピン及びS1不応切除不能進行/再発肺癌に対 するFOLFOX療法の前向き試験	東北大学病院	Ⅱ	2012.5.1-	有	https://upload.umin.ac.jp/cgi-open-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&action=brows&receptno=R000008356&type=su&mmarv&language=J
49	海野 倫明	自主研究	代表		肺癌術前化学療法としてのGemcitabine+S1療法 (GS療法) の第Ⅱ相臨床試験 (NACGS2+2)	東北大学病院	Ⅱ	2012/10/5	有	https://upload.umin.ac.jp/cgi-open-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&action=brows&receptno=R000010488&type=su&mmarv&language=J
50	海野 倫明	自主研究	代表		術前画像陰性・術中診断陽性の転移性肺癌に対する主病 巣・転移巣切除の安全性・有効性の検証	東北大学病院	I	2013.19-	有	https://upload.umin.ac.jp/cgi-open-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&action=brows&receptno=R000009464&type=su&mmarv&language=J
51	海野 倫明	自主研究	分担	和歌山県立医科大学 山 上裕機	切除不能進行肺癌(局所進行又は転移性)に対する TS-1通常投与方法とTS-1隔日投与方法のランダム化第Ⅱ相試 験	全国	Ⅱ	2012.8.3- 2016.7.31	有	https://upload.umin.ac.jp/cgi-open-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&action=brows&receptno=R000010116&type=su&mmarv&language=J
52	海野 倫明	自主研究	代表		高速液体クロマトグラフィー-接続型タンデム質量分析装置 LC-MS/MSによるタンパク質絶対定量法を用いた腫瘍組織 における薬物代謝酵素群発現量測定と、腫瘍術後補助化学 療法としてのゲムシタピンの効果予測への応用	東北大学病院	観察研究	2011.9.1-	有	https://upload.umin.ac.jp/cgi-open-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&action=brows&receptno=R000007402&type=su&mmarv&language=J
53	海野 倫明	自主研究	代表		胃全摘術後症例を対象とするリハクレン投与による栄養状 態改善・便性状改善の効果	東北大学病院	Ⅱ	2012.4.1-	有	https://upload.umin.ac.jp/cgi-open-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&action=brows&receptno=R000008038&type=su&mmarv&language=J
54	海野 倫明	自主研究	代表		腹腔鏡手術後における静脈血栓塞栓症予防に対する低分子 量ヘパリン(Enoxaparin Sodium)の有効性についての無作為 比較試験	関連病院	Ⅲ	2013.2.1- 2016.7.31	有	https://upload.umin.ac.jp/cgi-open-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&action=brows&receptno=R000010691&type=su&mmarv&language=J
55	大沼 忍	自主研究	分担	国立がんセンター東病院 吉野孝之	Stage Ⅲ結腸癌治療切除例に対する術後補助化学療法とし てのmFOLFOX療法またはXELOX療法における5-FU系抗がん 剤およびオキサリプラチンの至適投与期間に関するランダ ム化第Ⅲ相比較試験 (ACHIEVE Trial) (JFMC47-1202-C3)	多施設共同試験	Ⅲ	2012.9- 2021.7	有	https://upload.umin.ac.jp/cgi-open-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&action=brows&type=summary&receptno=R000010043&language=J
56	大沼 忍	自主研究	分担	弘前大学 消化器外科 袴田健一	KRAS遺伝子野生型切除不能・進行再発大腸癌に対する一 次治療としてのIRIS+Panitumumab併用療法	多施設共同試験	Ⅱ	2012.10- 2015.7	無	
57	工藤 克昌	自主研究	分担	大阪市立大学 平川 弘聖	切除不能進行・再発胃癌症例に対するTS-1の連日投与方法 および隔日投与方法のランダム化第Ⅱ相試験 (JFMC43-1003)	全国多施設共同試験	Ⅱ	2010.12～	有	https://upload.umin.ac.jp/cgi-open-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&action=brows&type=summary&receptno=R000005467&language=J

(表2)平成26年度 がんの臨床試験に関する活動状況

番号	氏名	区分 (科研究、 自主研究等)	代表・ 分担の別	分担者の場合の代表者 の 所属機関・職・氏名	研究名称・課題名	臨床試験の 対象地域・施設	フェーズ	期 間	UMIN等への 登録の有無	左記登録WebサイトURL
58	工藤 克昌	自主研究	代表		胃全摘術後症例を対象とするリパバレオン投与による栄養状態改善・便性改善の効果	東北大学病院	II	2012.4～ 2014.3	有	https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr.cgi?function=brows&action=brows&type=summary&recptno=R00000803&language=J
59	工藤 克昌	自主研究	分担	東京大学 胃食道外科 瀬戸泰之	胃癌手術症例における術後食事摂取量調査(観察研究)	全国多施設共同試験		2012.11～ 2013.3	無	
60	工藤 克昌	自主研究	分担	岐阜大学 吉田 和弘	治癒切除不能な進行・再発胃癌症例における HER2 の検討 -観察研究-	全国多施設共同試験		2011.9～ 2016.8	有	https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr.cgi?function=brows&action=brows&type=summary&recptno=R00000732&language=J
61	佐々木 巖	自主研究	分担	新潟大学 消化器外科 神田 達夫	切除可能な消化管間質腫瘍(GIST)肝転移患者の治療方法に関する第II相試験 《イマチニブ療法》 GIST研究会臨床試験(B)	全国多施設共同試験	II	2008.10～	有	http://www.cancer.gov/clinicaltrials/search/view?cdrid=615624&version=HealthProfessional&protocolsearchid=9088462
62	佐々木 巖	自主研究	分担	東京医科歯科大学 教授・杉原 建一	治癒切除結腸癌(stage III)を対象としたフツ化ピリジミン系薬剤を用いた術後補助化学療法の個別化治療に関するコホート研究	全国多施設共同試験		2009.5～	有	https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr.cgi?function=brows&action=brows&type=summary&recptno=R000002452&language=J
63	佐々木 巖	自主研究	分担	国立病院機構 大阪医療センター 外科・黒川 幸典	大型の胃GISTに対する術前イマチニブ療法の日韓共同第II相試験	全国多施設共同試験		2010.1～	有	https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr.cgi?function=brows&action=brows&type=summary&recptno=R000003763&language=J
64	佐々木 巖	自主研究	分担	広島大学	高齢者における腹腔鏡下大腸癌切除の有効性と安全性に関する後ろ向き調査	全国多施設共同試験		2011.9～	有	https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr.cgi?function=brows&action=brows&type=summary&recptno=R000007565&language=J
65	佐々木 宏之	自主研究	分担	東海大学 貞廣 荘太郎	再発危険因子を有するStage II大腸癌に対するUFT/LV療法 の臨床的有用性に関する研究(JFMC46-1201)	多施設共同試験	III	2012.5～	有	https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr.cgi?function=brows&action=brows&type=summary&recptno=R000009171&language=J
66	佐々木 宏之	自主研究	代表		結腸・直腸癌治癒切除に対するTS-1の術後補助化学療法 Feasibility試験(SOS-002)	多施設共同試験	II	終了時期未 定	無	
67	柴田 近	自主研究	代表		進行・再発胃癌におけるT分剤投与Docetaxel療法+S1併用 療法の検討 ～臨床第I/II相試験～	東北大学病院	I/II	2007.5～	無	
68	柴田 近	自主研究	代表		局所進行胃癌に対するTS-1+分割ODDP併用術前化学療法 の第II相臨床試験	東北大学病院	II	2009.3～	有	https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr.cgi?function=brows&action=brows&type=summary&recptno=R000002139&language=J
69	柴田 近	自主研究	分担	東京女子医科大学 東医療センター 小川 健治	胃癌・結腸癌閉腹術患者に対する術前術後免疫増強健康 食品(GPS)取得の確化に関する無作為化第2相比較試験	全国多施設共同試験	III	2009.8～	有	https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr.cgi?function=brows&action=brows&type=summary&recptno=R000002873&language=J
70	柴田 近	自主研究	分担	大分大学 北野 正剛	胃全摘術施行後の消化管機能異常に対する大建中湯の臨 床的効果～予防的効果に関する探索的検討～ (プラセボを対照とした多施設二重盲検群間比較試験) (JFMC42-1002)	全国多施設共同試験	III	2011.1～	有	https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr.cgi?function=brows&action=brows&type=summary&recptno=R000005585&language=J
71	内藤 剛	自主研究	代表		腹腔鏡下手術後における静脈血栓塞栓症予防に対する低分 子量ヘパリン(Enoxaparin Sodium)の有効性についての無作 為化比較試験	多施設共同試験	III	2013.2～	有	
72	石田 孝宣	医師主導 臨床試験	分担	財団法人 癌研究会 有明病院 レイクスセンター 乳腺科・岩瀬 拓士	N-SAS BC05・閉経後乳がんの術後内分泌療法5年終了患 者に対する治療終了とアナストゾール5年延長のランダム 化比較試験	北日本肺癌臨床研究 会		2008.1～ 2014.12	有	http://www.csp.or.jp/cspor/company
73	石田 孝宣	医師主導 臨床試験	分担	愛知県がんセンター 中央病院乳腺科 岩田 広治	N-SAS BC06・レトロゾールによる術前内分泌療法が奏功し た閉経後乳がん患者に対する術後化学内分泌療法と内分泌 単独療法のランダム化比較試験	日本、 多施設共同		2009.1～ 2016.12	有	http://www.csp.or.jp/cspor/company
74	石田 孝宣	医師主導 臨床試験	分担	愛知県がんセンター 中央病院乳腺科 澤木 正孝	N-SAS BC07・HER2 陽性の高齢者	日本、 多施設共同		2011.10～ 2016.7	有	http://www.csp.or.jp/cspor/company
75	石田 孝宣	医師主導 臨床試験	分担	京都大学大学院医学系 研究科外科学講座乳腺 外科学 教授 戸井 雅 和	エストロゲン受容体陽性HER2陰性乳癌に対するS-1術後療 法ランダム化比較第III相試験	日本、 多施設共同	III	2012.2～ 2017.1	有	http://www.csp.or.jp/cspor/company/sanka/potent
76	保坂 正美	厚労科研究	分担	九州大学政経外科 教授 岩本 幸英	高悪性度胸部腫瘍に対する標準治療確立のための研究 課題文「骨肉腫術後補助化学療法におけるIfasfamide併 用の効果に関するランダム化比較試験」	東北大学病院	II	2010～2025 研究期間16 年	有	

(表2)平成26年度 がんの臨床試験に関する活動状況

番号	氏名	区分 (科研究、 自主研究等)	代表・ 分担の別	分担者の場合の代表者の 所属機関・職・氏名	研究名称・課題名	臨床試験の 対象地域・施設	フェーズ	期間	UMIN等への 登録の有無	左記登録WebサイトURL
77	新倉 仁	自主研究	代表		子宮頸癌手術におけるセンチネルリンパ節の同定と致性の臨床的意義		観察	2014/8～ 2019/7	有	
78	新倉 仁	自主研究	代表		子宮体癌手術におけるセンチネルリンパ節の同定と致性の臨床的意義		観察	2014/8～ 2019/7	有	
79	新倉 仁	自主研究	代表		子宮頸癌手術におけるセンチネルリンパ節生検を用いた転移例生例に対する縮小手術の検討		観察	2014/8～ 2019/7	有	
80	新倉 仁	自主研究	代表		子宮体癌手術におけるセンチネルリンパ節生検を用いた転移例生例に対する縮小手術の検討		観察	2014/8～ 2019/7	有	
81	新倉 仁	自主研究	代表		ダ・ヴィンチS手術を用いた子宮頸癌に対する広汎子宮全摘術の有用性と安全性の検討		観察	2014/10～ 2016/9	有	
82	新倉 仁	自主研究	代表		ダ・ヴィンチS手術を用いた子宮体癌に対する初回標準手術の有用性と安全性の検討		観察	2014/10～ 2016/9	有	
83	大槻 健郎	自主研究	分担	埼玉医科大学 国際医療センター 藤原 恵一	上皮性卵巣癌・卵管癌・腹膜原発癌に対するPaclitaxel毎週点滴静注+Carboplatin毎週点滴静注対Paclitaxel毎週点滴静注+Carboplatin毎腹腔内投与のランダム化試験(JGOG 3019)	JGOG	Ⅱ/Ⅲ	2010.9～ 2016.4	有	http://clinicaltrials.gov/ct2/show/NCT01506856?term=intra+peritoneal+carboplatin+fujiiwara&rank=1
84	大槻 健郎	自主研究	分担	埼玉医科大学 国際医療センター 藤原 恵一	局所進行子宮頸癌根治放射線療法施行例に対するUFTIによる補助化学療法ランダム化比較試験	TGCU, SGSG, GOTIC	Ⅲ	2010.3.12～ 2016.4	無	
85	大槻 健郎	自主研究	分担	三重大学医学部附属病 院 産婦人科学教室 田畑 務	プラチナ抵抗性再発・再燃Mullerian carcinomaにおけるリボゾーム化ドキシソルビン50/m2に対するPLD40mg/m2のランダム化比較試験(JGOG3018)	JGOG	Ⅲ	2010.4～ 2016.12	有	https://upload.umin.ac.jp/cgi-open-bin/ctr/ctr.cgi
86	大槻 健郎	自主研究	分担	岩手医科大学 産婦人科 教授 杉山 徹	再発卵巣癌に対するイリノテカン塩酸塩/リボゾーム化ドキシソルビン併用療法臨床試験	TGCU	Ⅰ/Ⅱ	2010.6～ 2016.12	無	
87	大槻 健郎	自主研究	分担	自治医科大学 産婦人科学 講座 藤原 寛行	再発卵巣がんに対するリボゾーム化ドキシソルビン+カルボプラチン療法とゲムシタビン+カルボプラチン療法に関するランダム化臨床試験	TGCU, SGSG, GOTIC	Ⅱ	2011.4～ 2017.3	無	
88	徳永 英樹	自主研究	分担	東京慈恵医科大学付属 柏病院 産婦人科 田部 宏	ステージング手術が行われた上皮性卵巣癌Ⅰ期における補助化学療法必要性に関するランダム化第3相試験(JGOG3020)	JGOG	Ⅲ	2012.9～ 2022.6	有	http://www.umin.ac.jp/ctr/index-i.htm
89	徳永 英樹	自主研究	分担	京都大学付属病院 産婦人科 小西郁生	卵巣漿液性境界悪性腫瘍の病態と臨床的取扱いに関する調査研究		観察	2013.11～ 2014.8	有	http://www.kuhp.kyoto-u.ac.jp/~obgy/intro02.html
90	徳永 英樹	自主研究	分担	四国がんセンター 産婦人科 松本隆	子宮頸部扁平上皮癌Ⅰa2期における縮小手術の可能性を検討するための観察研究		観察	2013.3～ 2014.6	無	
91	徳永 英樹	自主研究	分担	筑波大学 医学医療系産科婦人科 教授 吉川裕之	上皮性卵巣癌の好孕性温存治療の対象拡大のための非ランダム化検証的試験 JCOG1203	JCOG	観察	2014/5～ 2029/3	無	
92	徳永 英樹	自主研究	分担	弘前大学 産婦人科 教授 水沼英樹	外陰扁平上皮癌に対する化学療法同時放射線療法の有効性と安全性	TGCU	Ⅱ	2014/9～ 2016/10	無	
93	徳永 英樹	自主研究	分担	四国がんセンター 産婦人科 野河孝充	子宮頸部非扁平上皮癌ⅠB2-ⅡB期における治療法と予後に関する後方視的検討	SGSG	観察	2014/10～ 2015/2	無	
94	徳永 英樹	自主研究	分担	琉球大学大学院 医学系研究科環境長寿 医科女性・生殖医学講座 長井裕	局所進行子宮頸部腺癌に対するシスプラチンを用いた同時化学放射線療法とシスプラチン+パクリタキセルを用いたCGRTIに関する多施設共同ランダム化第Ⅲ相比較試験(JGOG1074)	JGOG	Ⅲ	2014/11～ 2022/6	無	
95	徳永 英樹	自主研究	分担	弘前大学 産婦人科 二神真行	卵巣未熟奇形腫の予後解析		観察	2014/12～ 2015/6	無	

(表2)平成26年度 がんの臨床試験に関する活動状況

番号	氏名	区分 (科研費・ 自主研究等)	代表・ 分担の別	分担者の場合の代表者の 所属機関・職・氏名	研究名称・課題名	臨床試験の 対象地域・施設	フェーズ	期間	UMIN等への 登録の有無	左記登録WebサイトURL
96	永瀬 智	自主研究	分担	筑波大学医学医療系産 婦人科 吉川 裕之	思春期女性へのHPVワクチン公費助成開始後における子宮 頸癌のHPV16/18養成分割の推移に関する長期疫学的研究	全国		2014.1～ 2019.12	無	
97	永瀬 智	自主研究	分担	久留米大学 産婦人科 牛嶋公生	予後不良組織型子宮体がん(漿液性腺癌)についての調査 研究		観察	2013.6～ 2015.6	有	http://plaza.umin.ac.jp/~taigan4b/
98	八重樫 伸生	科研費・ 高度医療	分担	GOG	プラチン感受性の再発卵巣癌、原発性腹膜癌および卵管癌 に対する二次的腫瘍減量手術の有効性、およびカルボプラ テンとパクリタキセルの併用療法にペバシズマブを併用維持 療法として使用した場合の有効性を検討する比較臨床試験 (GOG-0213)	GOG-Japan (16施設)	Ⅲ	2010.1～ 2016.1	有	http://clinicaltrials.gov/ct2/show/NCT00565851?term=GOG0213&rank=1
99	八重樫 伸生	自主研究	分担	東京慈恵医科大学附属 柏病院 教授・佐々木寛	子宮体癌根治術における外側大腿鼠径リンパ節温存による 術後下肢リンパ浮腫改善に関する検討		観察	2013/12～ 2018/1	有	
100	八重樫 伸生	自主研究	分担	GOG	異型腺細胞(AGC)頭い細胞診断患者の子宮頸部病変診断 におけるCA-125p16増殖性マーカーとヒトパピローマウイル スによる比較解析 (GOG-0237)	GOG-Japan (16施設)	観察	2010.12～ 2019.12	有	http://clinicaltrials.gov/ct2/show/NCT00892866?term=GOG0237&rank=1
101	八重樫 伸生	自主研究	分担	GOG	初回治療済の広汎子宮全摘術と骨盤リンパ節切除術 を受けた中等度リスクのステージⅠ/ⅡA期の子宮頸がん患 者に対する術後放射線療法と同時化学放射線療法のランダ ム化試験 (GOG0263)	GOG-Japan (16施設)	Ⅲ	2011.7～ 2016.10	有	http://clinicaltrials.gov/ct2/show/NCT01101451?term=GOG0263&rank=1
102	八重樫 伸生	自主研究	分担	GOG	低リスク妊娠性毛嚢腫におけるアクチノマイシンD単回投 与対メトトレキサート複数日投与のランダム化比較試験 (GOG0275)	GOG-Japan (16施設)	Ⅲ	2013.10～ 2017.5	有	https://upload.umin.ac.jp/cgi-open-bin/ctr/ctr.cgi
103	富永 悌二	自主研究	代表		塩酸ニムستنを用いたconvection enhanced delivery法とテ モゾロミド内服による再発悪性神経膠腫の治療		Ⅰ	2008.7～	有	http://www.jacroc.com/experiment/pr otocolindex.html?ortcd=GC05&tabno=0
104	富永 悌二	自主研究	代表		塩酸ニムستنを用いたconvection enhanced delivery法とテ モゾロミド内服による脳幹部再発神経膠腫の治療 ～Phase 臨床試験～		Ⅰ	2010.12～ 2015.11	有	https://upload.umin.ac.jp/cgi-open-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&action=brows&type=summary&recptno=R000006092&language=J
105	仁尾 正記	多施設共同研 究	分担	京都府立医科大学 小児外科・教授・田尻達 郎	小児固形腫瘍に対する年次登録および予後追跡調査による 疫学研究	全国規模		2006.2.18～ 2014.1.31		
106	仁尾 正記	多施設共同研 究	分担	日本小児血液・がん学会 疾患登録	日本小児血液・がん学会疾患登録	全国規模		2010.9.1～ 6年間		http://www.inbs.jp/
107	仁尾 正記	多施設共同研 究	分担	広島大学自然科学 研究支援開発センター 生命科学実験部門 教授・楡山 英三	高リスク肝芽腫に対する Dose-dense cisplatin 療法と外科療 法の 安全性を評価する多施設共同臨床試験 (JPLT3)	全国規模	第Ⅱ相 試験	2010.11.11～ 8年間	有	http://home.hiroshima-u.ac.jp/eiso/
108	仁尾 正記	多施設共同研 究	分担	日本大学医学部 附属板橋病院 小児科・教授・安島秀雄	高リスク神経芽腫に対する遅延局所療法第Ⅱ相臨床試験	全国規模	第Ⅱ相 試験	2011.5.26～ 6年間	有	http://www.inbs.jp/
109	仁尾 正記	多施設共同研 究	分担	広島大学自然科学 研究支援開発センター 生命科学実験部門 教授・楡山 英三	初診時に遠隔転移のない肝芽腫患者への有効な治療法を 検討する多施設共同臨床試験 (JPLT-3)	全国規模	二重盲検 第Ⅲ相試 験	2012.4～ 5年間	有	http://home.hiroshima-u.ac.jp/eiso/
110	丸山 和一	自主研究	代表		網脈絡膜疾患の硝子体液の基礎的解析	東北大学	探索研究	2013/9/25～ 2017/12/31	有	https://upload.umin.ac.jp/cgi-open-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&action=brows&type=summary&recptno=R000005920&language=J
111	小川 武則	自主研究(多 施設)	分担	国立がん研究センター 東病院・頭頸部内科長 田原 信 東京医療センター 臨床研究センター 聴覚平衡覚研究部部長 藤井正人	JCOG1008 局所進行頭頸部扁平上皮癌術後の再発リスク 患者に対する3-WeeklyCDDPを同時併用する術後補助化 学放射線療法とWeekly-CDDPを同時併用する術後補助化 学放射線療法に関するランダム化第Ⅱ/Ⅲ相試験		Ⅱ/Ⅲ	2013年1月～ 2022年12月	無	http://www.inbs.jp/
112	神宮 啓一	科研費	分担	国立がんセンター 中央病院放射線治療部 加賀美 芳和	JCOG0701 T1-2N0M0 声門癌に対する放射線治療の加速照 射法と標準分割照射法のランダム化比較試験		Ⅲ	7年	有	https://upload.umin.ac.jp/cgi-open-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&action=brows&type=summary&recptno=R000000975&language=J
113	神宮 啓一	科研費	分担	国立がんセンター 中央病院放射線治療部 加賀美 芳和	JCOG0906 乳房温存療法の術後照射における短期全乳房 照射法の安全性に関する多施設共同試験		Ⅲ	6年	有	https://upload.umin.ac.jp/cgi-open-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&action=brows&type=summary&recptno=R000003679&language=J
114	神宮 啓一	科研費	分担	北海道大学病 院放射線科 白土 博樹	手術不能または高齢者手術拒否T2N0M0 非小細胞肺癌に 対する体幹部定位放射線治療第Ⅰ相試験		Ⅰ	8年	有	https://upload.umin.ac.jp/cgi-open-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&action=brows&type=summary&recptno=R000001170&language=J

(表2)平成26年度 がんの臨床試験に関する活動状況

番号	氏名	区分 (科研費、 自主研究等)	代表・ 分担の別	分担者の場合の代表者の 所属機関・職・氏名	研究名称・課題名	臨床試験の 対象地域・施設	フェーズ	期間	UMIN等への 登録の有無	左記登録WebサイトURL
115	神宮 啓一	科研費	分担	北海道大学病院 放射線科 白土 博樹	臨床的に原発性肺癌と診断された病理組織診断のつかない 小型肺癌に対する体幹部定位放射線治療の前向き臨床 試験		Ⅲ	8年	有	https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr.cgi?function=brows&action=brows&type=summary&recptno=R000002989&language=J
116	神宮 啓一	自主研究	代表		低・中リスク群の局所型前立腺癌に対する画像誘導寡分割 強度変調放射線治療の第Ⅰ/Ⅱ相臨床試験	東北大学病院	Ⅰ/Ⅱ	7年	無	
117	神宮 啓一	自主研究	代表		術後再発食道癌に対する放射線化学療法の長期的治療成 績および毒性に関する研究	東北大学病院		2012/8～ 2013/7	無	倫理委員会公開情報
118	神宮 啓一	自主研究	代表		肺定位照射後の肺障害の検討	東北大学病院		2012/7～ 2012/9	無	倫理委員会公開情報
119	神宮 啓一	科研費	分担	山梨大学 放射線科 教授 大西 洋	腎細胞癌に対する定位放射線治療の第Ⅰ/Ⅱ相研究	全国	Ⅰ/Ⅱ	2010/9～ 2013/9	有	
120	神宮 啓一	科研費	分担	近畿大学 放射線科 教授 西村恭昌	頭部食道癌に対する強度変調放射線治療(IMRT: Intensity Modulated Radiation Therapy)を用いた化学放射線療法の多 施設共同第Ⅱ相臨床試験	全国	Ⅱ	2013/10～ 2019/2	有	
121	神宮 啓一	自主研究	代表		磁気共鳴拡散強調画像法における食道扁平上皮癌の Apparent Diffusion Coefficient valuesによる放射線化学療法 後の予後予測に関する研究	東北大学病院		2014/8～ 2019/7	無	
122	神宮 啓一	自主研究	代表	大坂大学 放射線腫瘍学 教授 小川和彦	結腸がんおよび直腸がん由来の肺oligometastasesに対する 体幹部定位放射線治療に関する多施設調査研究(JROSG)	全国		2015/2～ 2016/12	無	倫理委員会公開情報
123	神宮 啓一	自主研究	代表		術後再発食道癌に対するシスプラチン+フルオロウラシル+ド セタキセル併用放射線化学療法-第二相臨床試験-	東北大学病院	Ⅱ	2015/5～ 2020/4	有(予定)	
124	神宮 啓一	自主研究	代表		進行食道癌(T4 and/or M1 lym)に対する放射線化学療法の 長期的治療成績および毒性に関する後ろ向き研究	東北大学病院		2014/12～ 2015/3	無	倫理委員会公開情報
125	松下 晴雄	外部研究助成	代表		宮城県における前立腺癌低リスク群に対する放射線治療に 関する後方視的多施設調査研究	宮城県内		2014/2～ 2015/3	無	倫理委員会公開情報
126	山本 貴也	自主研究	分担	東邦大学 放射線科 准教授 新部謙	Oligometastases状態の転移性肺癌に対する体幹部定位 照射療法の4施設共同適応的研究	全国		2014/9～ 2017/10	無	倫理委員会公開情報
127	三浦 康	自主研究	分担	東京医科歯科大学 杉原健一	StageⅢb大腸癌治療切除例に対する術後補助化学療法とし てのUF1/Leucovorin療法とTS-1/oxaliplatin療法のランダム 化比較第Ⅲ相試験(ACTS-CG 02)	東北大学病院	Ⅲ	2010/2～ 2015/11	有	
128	三浦 康 (安藤敬典)	自主研究	代表		StageⅢ(Dukes' C)結腸癌治療切除例に対する術後補助 化学療法としてのカベタピン使用時における手足症候群軽減 を目的としたビタミンB6投与の検討 第Ⅱ相臨床試験	東北大学病院	Ⅱ	2010/9～ 2012/3	有	http://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr.cgi?function=brows&action=brows&type=summary&recptno=R00000509&language=J
129	森 隆弘	自主研究	分担	和歌山県立医科大学 第2外科 山上 裕機	標準療法不応の進行・再発食道癌に対する新規腫瘍抗原と 腫瘍新生血管関連遺伝子由来ペプチドを用いた新規ペプチ ドワクチン療法 -第Ⅰ/Ⅱ相臨床試験-	全国	Ⅰ/Ⅱ	2013年8月～ 2016年8月	無	
130	高野 忠夫	自主研究	分担	ANZGOG	症状緩和のための化学療法が、再発卵巣がんの患者の症 状をいかに改善するか	GOG-Japan (16施設) GOTIC	観察	2013.6～ 2014.12	有	https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr.cgi
131	高野 忠夫 医師会治験 促進センター	自主研究	分担	GOG	ステージⅢ-Ⅳ期の卵巣明細胞癌を対象としたファーストラ イン治療としてのテムシロリムス+カルボプラチン+パクリタ キセルの併用療法に続くテムシロリムスの維持療法による第 Ⅱ相臨床試験 (GOG0268)	GOG-Japan (16施設)	Ⅱ	2012.2～ 2015.1	有	http://clinicaltrials.gov/ct2/show/NCT01196429?term=GOG0268&rank=1
132	高野 忠夫	自主研究	分担	大阪大学大学院医学研 究科産科婦人科学 上田 豊	子宮体ががん術後再発中・高リスク群に対する術後化学療法と してのTEC療法、TAC療法、ddTC療法のランダム化第2相 試験(GOGO-EM3)	JGOG	Ⅱ	2012.12～ 2016.9	無	
133	高野 忠夫	自主研究	分担	国立がん研究センター 中央病院・食道外科 笠松 高弘	腫瘍径2cm以下の子宮頸癌ⅠbⅠ期に対する準広汎子宮全摘 手術の非ランダム化検証的試験(JCOG1101)	JCOG	Ⅱ	2013.2～ 2021.1	無	

(表2)平成26年度 がんの臨床試験に関する活動状況

番号	氏名	区分 (科研究、 自主研究等)	代表・ 分担の別	分担者の場合の代表者の 所属機関・職・氏名	研究名称・課題名	臨床試験の 対象地域・施設	フェーズ	期間	UMIN等への 登録の有無	左記登録WebサイトURL
134	高野 忠夫	自主研究	分担	愛知県がんセンター中央 病院 婦人科部長・中西透	臨床的FIGO IVb期子宮体がんに対する寛解導入化学療法後の 腫瘍摘出術に関するFeasibility Study(JGOG2046)		II	2015/4～ 2017/12	無	
135	高野 忠夫	自主研究	分担	東邦大学医療センター大 橋病院 小宮山慎一	FIGO進行期III-IV期の上皮性卵巣癌・卵管癌・原発性腹膜 癌に対する初回治療としての標準的なプラチナ併用化学療法 +ベガ静脈同時併用に続くペバンスマブ単独継続投与 例の前向き観察研究(JGOG3022)	JGOG	観察	2014/6～ 2017/3	無	
136	高野 忠夫	自主研究	分担	静岡県立静岡がんセン ター 婦人科 武隈宗孝	再発子宮頸がんにおけるプラチナ製剤free期間が化学療法 の効果に及ぼす影響の後方視的検討(JGOG1076S)	JGOG	観察	2011/10～ 2014/12	無	
137	高野 忠夫	自主研究	分担	久米大学医学部 産婦人科 西尾真	本邦における外陰癌の実態及び治療に関する調査研究 (JGOG1075S)	JGOG	観察	2014/11～ 2015/3	無	
138	山口 拓洋	自主研究	分担	岩手医科大学医学部外 科科学講座 若林 剛	EGFR陽性・KRAS遺伝子野生型の結腸・直腸癌肝転移転例に おける治療切除不適合例に対するCetuximab併用療法 (FOCAL trial)	東北6大学外科および 関連病院	Phase II	2010/12～ 2015/11	有	https://upload.umin.ac.jp/cgi-open-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&action=brows&type=summary&recptno=R000005558&language=J
139	山口 拓洋	受託研究	分担	仙台医療センター 乳腺外科 渡辺 隆紀	乳房腫瘍の超音波診断におけるカラードプラー判定基準作 成および その有用性に関する多施設研究(JABTS BC-04)	全国(約17施設)	観察研究	2011/12～ 2015/12	有	https://upload.umin.ac.jp/cgi-open-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&action=brows&type=summary&recptno=R000008715&language=J
140	山口 拓洋	受託研究	分担	仙台医療センター 乳腺外科 渡辺 隆紀	非浸潤性乳管癌(DCIS)の超音波画像分類に関する多施設 共同研究(JABTS BC-02)	全国(約16施設)	観察研究	2012/1～ 2014/6	有	https://upload.umin.ac.jp/cgi-open-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&action=brows&type=summary&recptno=R000008714&language=J
141	山口 拓洋	受託研究	分担	山形大学医学部臨床腫 瘍学講座 吉岡 孝志	T-CORE1102 S-1術後補助化学療法後再発HER2陰性胃癌 に対する XP(カベンタビン+シスプラチン)療法の第II相臨床試験	東北臨床腫瘍研究会 (T-CORE)関連施設	Phase II	2012/2～ 2018/11	有	https://upload.umin.ac.jp/cgi-open-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&action=brows&type=summary&recptno=R000008053&language=J
142	山口 拓洋	受託研究	分担	東北大学加齢医学研究 所 臨床腫瘍学分野 石岡 千加史	T-CORE1201 KRAS遺伝子野生型の 治療切除不能な進行・ 再発の結腸・直腸癌に対する2次治療としてのCetuximab (q2w)+FOLFOX6 またはCetuximab (q2w)+FOLFIRI 療法の臨 床第II相試験及び治療効果を予測するバイオマーカーの検 討	東北臨床腫瘍研究会 (T-CORE)関連施設	Phase II	2012/4～ 2017/3	有	https://upload.umin.ac.jp/cgi-open-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&action=brows&type=summary&recptno=R000009444&language=J
143	山口 拓洋	自主研究	分担	弘前大学大学院医学研 究科 消化器外科学講座 袴田 健一	KRAS遺伝子野生型切除不能・進行再発大腸癌に対する一 次治療としてのIRIS+Panitumumab併用療法 臨床第II相試 験(TOHOKU POWER trial)	東北6大学外科および 関連病院	Phase II	2012/7～ 2018/7	有	https://upload.umin.ac.jp/cgi-open-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&action=brows&type=summary&recptno=R000009916&language=J
144	山口 拓洋	受託研究	分担	川崎医科大学 乳腺甲狀 腺外科 中島 一般	超音波検査による乳がん術前化学療法早期判定基準の有 効性に関する研究(JABTS-BC03)	全国(8～10施設)	観察研究	2010/5～ 2015/4	有	https://upload.umin.ac.jp/cgi-open-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&action=brows&type=summary&recptno=R000004209&language=J
145	山口 拓洋	自主研究	分担	東北大学病院 胃腸外科 内藤 剛	腹腔鏡手術後における静脈血栓塞栓症予防に対する低分子 重ヘパリン(Enoxaparin Sodium)の有効性についての無作為 化比較試験	全国(約10施設)	Phase II	2013/2～ 2017/1	有	https://upload.umin.ac.jp/cgi-open-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&action=brows&type=summary&recptno=R000010691&language=J
146	山口 拓洋	受託研究	分担	山形大学医学部臨床腫 瘍学講座 吉岡 孝志	T-CORE1203 トラスツマブを含む初回化学療法に不応の HER2過剰発現を有する治療切除不能進行・再発胃癌に対 するトラスツマブ/ドセタキセル併用療法の第II相臨床試験	東北臨床腫瘍研究会 (T-CORE)関連施設	Phase II	2013/4～ 2017/3	有	https://upload.umin.ac.jp/cgi-open-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&action=brows&type=summary&recptno=R000012560&language=J
149	山口 拓洋	受託研究	分担	腫瘍術前治療研究会 (東北大学大学院 消化器 外科) 海野 倫明	Borderline resectable癌に対する術前治療としての Gemcitabine+S-1(GS)化学放射線療法第I/II相臨床試験 (Prep-03.NS014-1)	東北大学、京都府立 医科大学などの9施設	Phase I、II	2014/7～ 2019/6	有	https://upload.umin.ac.jp/cgi-open-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&action=brows&type=summary&recptno=R000016075&language=J
150	山口 拓洋	受託研究	分担	東北大学加齢医学研究 所 臨床腫瘍学分野 石岡 千加史	T-CORE1401 フッ化ピリミジンを含む化学療法に不応の 高齢者治療切除不能進行・再発大腸癌患者に対する トリフルリジン・チピラシル塩酸塩療法の第II相臨床試験	東北臨床腫瘍研究会 (T-CORE)関連施設	Phase II	2015/5～ 2018/5	有	https://upload.umin.ac.jp/cgi-open-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&action=brows&type=summary&recptno=R000020373&language=J
151	眞野 成康	自主研究			ソラフェニブの個別化療法に向けての研究 (ゲノム解析)	東北大学病院		2011.12～ 2016.3	無	
152	眞野 成康	自主研究			アキシチニブの個別化療法に向けた研究	東北大学病院		2013.1～ 2017.12	無	
153	眞野 成康	自主研究			5-FUあるいはTS-1投与胃がん及び大腸がん患者の症例解 析	東北大学病院		2014.4～ 2016.3	無	
154	眞野 成康	自主研究			医療従事者の抗がん薬曝露調査	東北大学病院		2014.4～ 2019.3	無	

(表2)平成26年度 がんの臨床試験に関する活動状況

番号	氏名	区分 (科研費、 自主研究等)	代表・ 分担の別	分担者の場合の代表者 の 所属機関・職・氏名	研究名称・課題名	臨床試験の 対象地域・施設	フェーズ	期 間	UMIN等への 登録の有無	左記登録WebサイトURL
155	眞野 成康	自主研究			スニチニブの個別化療法に向けての研究(ゲノム解析)	東北大学病院		2015.4～ 2019.12	無	
156	眞野 成康	自主研究			エルロチニブの個別化療法に向けた研究	東北大学病院		2014.2～ 2018.3	無	
157	眞野 成康	自主研究			エペロリムスの個別化療法に向けた研究	東北大学病院		2012.4～ 2016.3	無	
158	眞野 成康	自主研究			口内炎予防における口腔内保湿に及ぼすグリセリン濃度の影響	東北大学病院		2013.9～ 2018.3	無	
159	細川 亮一		代表		8020研究事業 緩和ケアにおける歯科の役割に関する調査					
160	南 優子	自主研究	分担	がん疫学・予防研究部 部長 西野 善一	質問紙調査と院内情報を活用した症例対照研究	宮城県立がんセンター		2012.1～ 2016.3	無	
161	南 優子	自主研究	分担	がん疫学・予防研究部 部長 西野 善一	生活習慣・肥満度・成育歴・生殖歴とがんの予後との関連	宮城県立がんセンター		2011.5～ 2016.3	無	
162	武田 賢	自主研究	代表		局所型前立腺癌に対する画像誘導寡分野強度変調放射線治療1回軽型強度変調放射線治療	東北大学病院	I / II	2012/12/1～ 2017/11/30	有	
163	武田 賢	自主研究	代表		前立腺癌に対する画像誘導強度変調放射線治療の有効性	東北大学病院	I / II	2011/11/1～ 2016/10/31	有	

(表3)平成26年度がんに関する受託研究・共同研究・治験の契約状況

研究種別	契約件数
受託・共同研究	28
治験	85

教育部会

神宮啓一（部会長）

教育部会は、東北がんプロフェッショナル養成推進プラン（文科省；本学と山形大学、福島県立医科大学、新潟大学の4大学連携）と都道府県がん診療連携拠点病院（厚労省）の事業と連携して、院内を含め、東北地方のがん医療従事者や大学院生の専門性向上のためのセミナーや講演会、教育プログラムを推進中です。特に化学療法センターによる他施設医療スタッフへの研修が行われており、多数の方を受け入れております。さらに例年に引き続き、東北大学病院がんセミナーおよび東北大学病院化学療法カンファランスをそれぞれ月1回ずつ開催しました。化学療法カンファランスにはがん診療に関係する各科から毎回50名前後の医師が参加し、各科から提示される診療方針などに迷う症例を診療科の垣根を越えて議論しています。がんセミナーでは毎回各科持ち回りで担当いただき、院内外の著名な先生にご講演いただき、各分野の最新の情報などを提供されています。今年度から歯科にもご担当いただき、毎回30名程度の参加者がおります。中には院外からの参加者もいることもありました。

また東北大学病院臨床病理カンファランスも年4回のペースで開催され、初期研修医の発表訓練の場としても活かされており、毎回立ち見が出るほどの多数（80-90名）の参加をいただいております。今年度からは初期研修医の出席を必須とさせていただきました。

来年度も引き続きがんセンター教育部会の事業を展開してまいります。

参加人数集計表

平成26年度 東北大学病院 がんセミナー (会場:東北大学病院 東病棟4階第5会議室)														
	第1回	第2回	第4回	臨時回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	第11回	第12回		
	5月15日	6月19日	8月28日	9月11日	9月18日	10月16日	10月30日	11月20日	12月18日	2月12日	2月19日	3月19日		
	放射線治療科	看護部	血液・免疫科	腫瘍内科	整形外科	肝・胆・膵外科	脳神経外科	緩和ケア看護学	小児科・小児腫瘍科	薬剤部	呼吸器外科	腫瘍内科		
参加者種別内訳	医師	16	8	7	3	12	4	5	2	7	2	6		
	薬剤師		1			1		5		30				
	放射線技師	1												
	看護師	2	33	1	1	1	13	14	4	1	1	1		
	上記以外	2	1				3	1				3		
	学生	6	19	13	14	4	10	15	25	17	6	7	6	
学 外	医 師							5	1					
	医師以外	1						13	1					
各回の合計人数		28	54	22	22	8	24	35	68	14	28	39	13	16

参加人数集計表

		平成26年度 東北大学病院 化学療法カンファレンス (会場:東北大学病院 東病棟4階第5会議室)											
		第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	第11回	第12回
		4月3日	5月1日	6月5日	7月3日	8月7日	9月4日	10月2日	11月6日	12月4日	1月8日	2月4日	3月5日
学内	参加者種別内訳												
	医師	34	26	26	27	25	23	22	23	24	16	21	18
	薬剤師	1	2	2	2	1	2	1	2	1	1	1	1
	放射線技師		1	1	2	1	2						
	看護師	1	1		1	1	1	2	2	2		4	2
	上記以外									1			
	学生												
学外	大学生	18	24	24	16	21	31	20	11	20	19	18	20
	医師					1							
医師以外		1		1					1				4
各回の合計人数		55	54	54	48	50	59	45	39	48	36	44	45

相談支援・情報部会

森 隆弘（部会長）

がん診療相談室活動報告

日本では 32 万 6 千人ががんで死亡し、60 万人ががんに罹っていると推定される。また、がんは全ての死亡原因の 30%を占め、死亡原因のトップであり、急速に進んでいる高齢化社会で今後ますますがんによる死亡数が増加することが予想される。一生の間のがんに罹る危険性は男性の 2 人に 1 人、女性の 3 人に 1 人になると推計され、早急な対応が迫られている。

こういった実情をふまえ、国は平成 16 年に開始された第三次対がん十カ年総合戦略で「がん医療の均てん化」を基本政策とし、がんの標準的な専門医療を受けられるよう医療技術等の格差の是正を図り、これによってがんの治療成績を 20%アップするという目標を立てた。この均てん化を担う目的で、宮城県の県がん診療連携拠点病院（以下、県拠点病院）に東北大学病院が指定された。しかしながら、大学病院ではがん拠点病院の役割を直接担うための、がんの診療や教育、研究を継続的に行う講座がないことや、縦割りの講座制度では全人的あるいはチーム医療が必要ながん医療には適さないと考えられ、その解決のため「東北大学病院がんセンター」が設置された。このうち、相談支援部門が、平成 19 年 1 月より設置された「がん診療相談室」である。今回、「がん診療提供体制のあり方に関する検討会」と「緩和ケア推進検討会」の開催により、拠点病院の指定要件などの見直しが行われた。その目的は「がん患者がその居住する地域にかかわらずひとしくそのがんの状態に応じた適切ながん医療を受けることができるよう」（原文のまま）にするためであり、まさに地域におけるがん患者を想定しての見直しとも思える。このようにして新たながん対策基本計画に基づき「がん診療連携拠点病院等の整備に関する指針」（以下、指針）が定められた。その「指針」において、特に地域がん医療連携に関しては相談支援センターに引き続き多くの業務内容が規定されており、そこでは、連携機能以外の業務、例えばがんに対しての標準的な治療法の情報の提供などが掲げられており、市民からの「がん医療」相談窓口としての機能も要求されている。さらに今回の「指針」ではがん患者の就労に関する相談も新たに加わっている。これらの全ての業務から見えてくる本来の「相談支援センター」とは、地域の医療機関、地域のがん患者団体あるいは隣接する拠点病院との連携機能を備えつつ、地域がん患者および地域住民に直接向き合う存在であると言えよう。地域がん医療連携にとっては、きわめて重要な存在である。

国や都道府県は「がん対策基本計画」の中で今後のがん医療の全体目標のひとつとして、「がんになっても安心して暮らせる社会の構築」を掲げている。また、重点的に取り組むべき課題のひとつに「働く世代へのがん対策の充実」をあげている。それらの実現に向けて、「相談支援センター」の果たす役割は極めて大きく（上記のように就労については「がん診療相談支援センター」の業務として明確に提示された）、地域がん医療連携機能を有する「相談支援センター」の存在は今後ますます重要になると思われる。

このように多岐に渡る業務内容や相談内容に対応するために、相談員は都道府県がん診療連携病院連絡協議会・相談支援部会、宮城県がん診療連携協議会患者相談部会、がん相談実務者会議（県内のがん相談窓口を対象）、国立がん研究センターでの研修会、などに参加し研鑽を積んでいる。以下に今年度の活動内容を掲載する。

相談実績

がん診療相談室に限った相談件数は毎月 60 から 100 件になる。相談室以外でも、緩和医療科外来や後方支援部門、セカンドオピニオン担当の連携室など、各部門への相談もあり、それらを全て合計すると、毎月 100 から 200 件の「がん医療」についての相談が当院へ寄せられていることになる。相談内容はがんの診断・治療法、セカンドオピニオンから介護・看護、在宅医療や精神的な問題に至るまでの極めて多岐にわたっている（資料 2 参照）。対象臓器も乳腺、肺、子宮・卵巣、前立腺を始めとして、全ての癌腫にわたる（資料 2 参照）。（相談室への平成 26 年 4 月から平成 27 年 1 月の 10 ヶ月間の相談受付総数は、754 件であり、前年の同時期を 10 件ほど上回り増加傾向である。平成 25 年度 1 年間の相談総件数は 881 件であった。）

また、平成 24 年 6 月のがん対策推進計画では、『がんになっても安心して暮らせる社会の構築』を掲げ、その中で、がん患者さんの就労支援が、がん相談支援センターの役割として位置づけられた。当相談支援センターでは、8 月より産業カウンセラーを配置し、就労支援を行うための準備、広報を進めた。就労に関する様々な相談に対応するために研修会などを開催、参加し研鑽を積んでいる（資料 3 参照）。また平成 26 年度、長期療養者等就職支援モデル事業に当院が参加したことから、7 月よりハローワーク仙台と連携し毎月 1 回の出張相談会を院内で開始した（資料 3）。

毎年、1 年間の相談内容を検討し、がん診療相談室年報として、「東北大学病院がんセンター年報」と「東北大学病院地域連携センター年報」に報告している。（相談内容の詳細については上記をご参照いただきたい。）相談内容には、主治医や担当看護師に直接相談できないとの患者の悩みや意見も多く見られる。これは他国に比べて、本邦ではがん医療者への負担が大きい（患者数に比してがん専門医療者が圧倒的に不足している）ことも原因であろう。さらに上記のように、新たに「がん患者の就労支援」もがん相談支援センターの業務として指定された。こういった我が国の現状と、今後ますます増加するがん患者数を考えると、「がん診療相談室」の存在はいつそう重要になってくるものと思われる。

1. 相談業務

院内外のがん患者、家族、地域住民からがん医療に関する相談を電話、面談で受けている。
実績（がん診療相談室業務報告参照）

2. がん診療相談室の広報

① がん診療相談室だよりの発行

毎月 1 日発行 病棟、外来に掲示を依頼した。

② ホームページへの掲載

がん診療相談室ホームページのイベントカレンダーに毎月イベントポスター、相談室だよりを掲載した。

③ 院内インフォメーションテレビでの放映

がん診療相談室の案内と毎月のイベントポスターを放映した。

④ 院内広報部へ取材を依頼し、ホームページ、フェイスブックでイベントの告知や報告をした。

⑤ がんセンター先進包括的がん医療推進室で作成の相談室のポスターを掲示、カードを設置した。

3. がんサロン『ゆい』の運営

① イベント

がんサロン『ゆい』学びサロン ミニ講話

開催日	題名	講師	参加人数
平成26年 4月23日	自宅で療養！在宅医療と介護保険	地域医療連携センター 副看護師長 五十嵐ひとみさん	5
5月28日	生活を支える制度	地域医療連携センター MSW 金子直美さん	4
6月25日	笑いの効用	東北福祉大学健康科学部保健看護学科 柏倉栄子教授	9
7月23日	がんの痛みは我慢しないでください	がん性疼痛看護認定看護師 武田真恵さん	4
7月30日	治療をしながら働き続けるために ハローワークでお手伝いできること	ハローワーク仙台 氏家一彦さん	5
9月2日	がんと漢方	総合地域医療教育支援部 漢方内科 高山真先生	25
9月24日	がんと食事	栄養管理室 管理栄養士 菅原恵さん	14
10月22日	放射線治療の実際と看護	がん放射線療法看護認定看護師 門脇美佳さん	13
11月26日	外来化学療法の実際	がん化学療法看護認定看護師 上原厚子さん	6
12月9日	がん患者さんのリハビリテーション	肢体不自由リハビリテーション科 出江紳一教授	5
平成27年 1月28日	抗がん剤の副作用と対処方法	薬剤部 化学療法支援室主任 小林美奈子先生	12
2月17日	がんと漢方 統合医療の視点から	総合地域医療教育支援部 漢方内科 高山真先生	21
2月25日	治療をしながら働き続けるために ハローワークでお手伝いできること	ハローワーク仙台 氏家一彦さん	5
3月25日	緩和ケアってなに？	緩和ケア看護認定看護師 中条庸子さん	10

がんサロン『ゆい』いやしサロン 粘土細工の会

開催日	講師	参加人数
平成26年 5月21日	西17階病棟 看護師長 畠山里恵さん	2
7月16日		4
9月17日		7
11月19日		5
平成27年 1月21日		5
3月18日		6

がんサロン『ゆい』いやしサロン 折紙の会

開催日	講師	参加人数
平成26年 4月17日	がん診療相談員	2
6月5日		0
10月2日		1
12月4日		2
平成27年 2月5日		4

がんサロン『ゆい』いやしサロン ハンドトリートメント

開催日	講師	参加人数
平成26年 11月17日	東北大学病院看護部アロマトリートメント同好会 櫻井かおりさん 穀田千秋さん他	10

タオル帽子を作る会

開催日	講師	参加人数
1回/月(8月を除く)	広瀬川タオル帽子を作る会 大友てい子さん	4~13名

頭皮ケアとウィッグの相談会

開催日	講師	参加人数
2回/月	毛髪技能士 小笠原ゆかりさん	1~3名

② 今後の課題

- ・いやしサロンについては、がん以外の患者の参加も多いため、院内がんサロンの目的を明確にし、がん患者とその家族への支援を考えていく必要がある。
- ・サロン運営に携わるがん患者を募り、リーダーの患者を中心に自主的に運営していけるよう支援をしていく必要がある。

4. 研修・会議

1) 研修会開催／参加

① 東北ブロック地域相談支援フォーラム

参加者 本間とし子相談員（実行委員として企画・運営） 古山美智子相談員

開催日 平成 26 年 7 月 26 日（土）

開催場所 仙台国際センター

② 施設別がん登録件数検索システム説明会

参加者 古山美智子相談員

開催日 平成 26 年 9 月 4 日（木）

開催場所 国立がんセンター

③ 「施設別臨床試験検索システム」利用に関する説明会

「施設別がん登録件数検索システム」運用に関するワークショップ

参加者 古山美智子相談員

開催日 平成 26 年 10 月 30 日（木）

開催場所 国立がんセンター

④ がん相談支援センター相談員指導者研修

参加者 古山美智子相談員

開催日 平成 26 年 8 月 30 日（土）、11 月 29 日（土）～30 日（日）

開催場所 国立がんセンター

⑤ がんピアサポーター育成研修

参加者 本間とし子相談員 古山美智子相談員（ファシリテーターとして参加）

開催日 平成 26 年 7 月 4 日（金）、18 日（金）

開催場所 キャンサーボード室

⑥ がん治療と就労両立支援 勤労医療フォーラム

市民公開講座『両立支援の今、そして今後』

参加者 原沙絵産業カウンセラー 金子直美MSW 古山美智子相談員

開催日 平成 27 年 2 月 7 日（土）

開催場所 東京

⑦ がん患者就労支援関連研修

【当院開催】

- ・ ミニ講話 「治療しながら働き続けるために～ハローワークがお手伝いできること～」

対象者 がん患者、家族

講師 ハローワーク仙台 氏家一彦氏

開催日 平成 26 年 7 月 31 日（木）、平成 27 年 2 月 25 日（水）

開催場所 がんサロン『ゆい』

- ・ 相談者向け就労支援セミナー「相談員のためのがん経験者の就労支援セミナー」

対象者 東北 6 県のがん相談員

講師 CSRプロジェクト 櫻井なおみ氏 CANSOL 藤田久子氏

開催日 平成 26 年 8 月 2 日（土）

開催場所 キャンサーボード室

- ・ 地域医療連携センター講演会 「がんと就労－医師・看護師・病院としてできること」
 - 対象者 医療従事者
 - 講師 特定社会保険労務士、キャリアカウンセラー 近藤明美氏
 - 開催日 平成26年10月16日（木）
 - 開催場所 臨床小講堂

【院外参加】

- ・ 人事労働担当者のための がん予防と就労支援セミナー
 - 参加者 原沙絵産業カウンセラー 金子直美MSW
本間とし子相談員 古山美智子相談員
 - 開催日 平成26年8月19日（火）、9月8日（月）、10日（水）
 - 開催場所 宮城県庁

2) 会議出席

- ① 第3回都道府県がん診療連携協議会 情報提供・相談部会
 - 参加者 本間とし子相談員
 - 開催日 平成26年6月12日（木）
 - 開催場所 国立がんセンター
- ② 第4回都道府県がん診療連携協議会 情報提供・相談部会
 - 参加者 古山美智子相談員
 - 開催日 平成26年12月1日（月）
 - 開催場所 国立がんセンター
- ③ 東北がんネットワーク がん患者相談室専門委員会
 - 参加者 古山美智子相談員
 - 開催日 平成27年1月22日（木）
 - 開催場所 仙台
- ④ 宮城県がん診療連携協議会 患者相談部会
 - 参加者 本間とし子相談員
 - 開催日 平成26年10月2日（木）
 - 開催場所 宮城県立がんセンター
 - 参加者 古山美智子相談員
 - 開催日 平成26年12月24日（水）
 - 開催場所 宮城県庁
- ⑤ 宮城県がん診療連携協議会 患者相談部会実務者会議
 - 参加者 本間とし子相談員 古山美智子相談員
 - 開催日／場所 平成26年5月14日（水） 石巻赤十字病院
平成26年8月29日（金） 大崎市民病院
平成26年11月18日（火） 仙台厚生病院
 - 参加者 古山美智子相談員
 - 開催日／場所 平成27年2月13日（金） 仙台オープン病院

⑥ 宮城県 患者会・サロン情報交換会

参加者 本間とし子相談員
開催日／場所 平成 26 年 7 月 28 日（月） 宮城県庁

参加者 本間とし子相談員 古山美智子相談員
開催日／場所 平成 26 年 11 月 27 日（木） TKP ガーデンシティ仙台勾当台

参加者 古山美智子相談員
開催日／場所 平成 27 年 3 月 12 日（木） TKP ガーデンシティ仙台勾当台

⑦ 第 1 回宮城県がん診療連携協議会 がん相談実務者研修 WG 会議

参加者 古山美智子相談員
開催日 平成 27 年 3 月 5 日（木）
開催場所 宮城県庁

⑧ 長期にわたる治療等が必要な疾病を持つ求職者に対する就職支援モデル事業」経験交流会

参加者 原沙絵産業カウンセラー
開催日 平成 26 年 12 月 4 日（木）
開催場所 東京

⑨ 平成 26 年度長期療養者就職支援担当者連絡協議会

参加者 原沙絵産業カウンセラー
開催日 平成 27 年 2 月 23 日（月）
開催場所 仙台第 4 合同庁舎

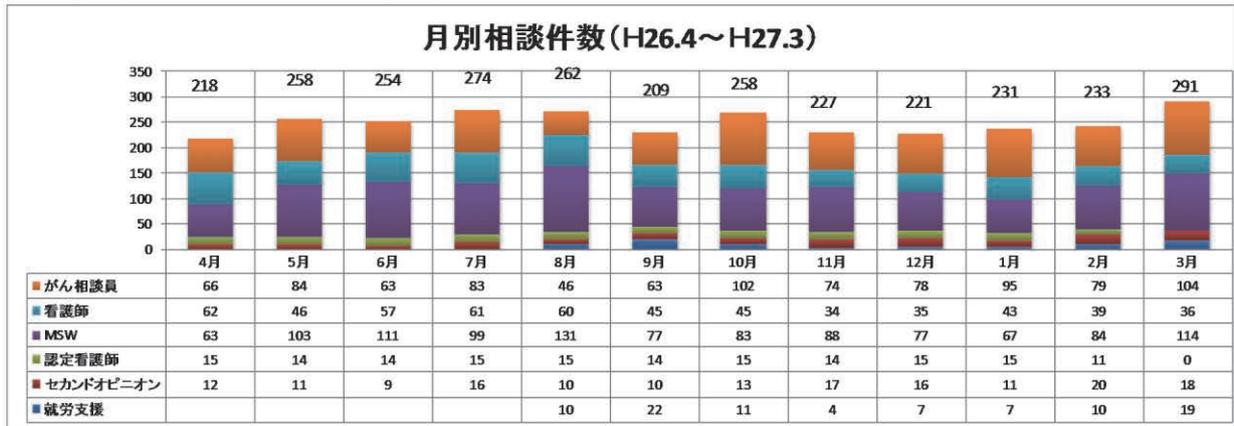
3) 病院訪問

- ・四国がんセンターを訪問し、がん相談室、サロンを見学。がんパス、就労支援について意見交換を行った。

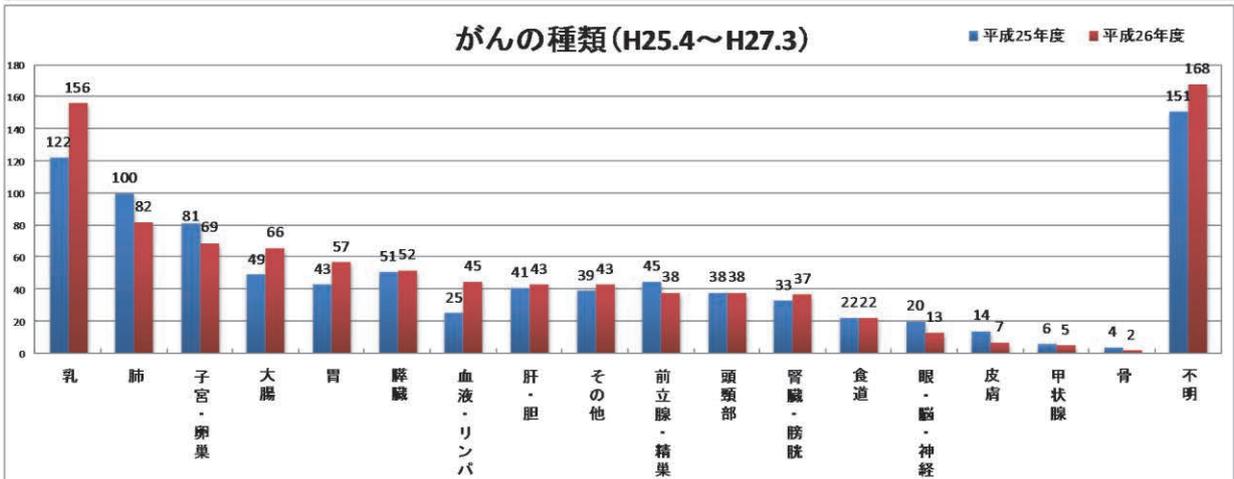
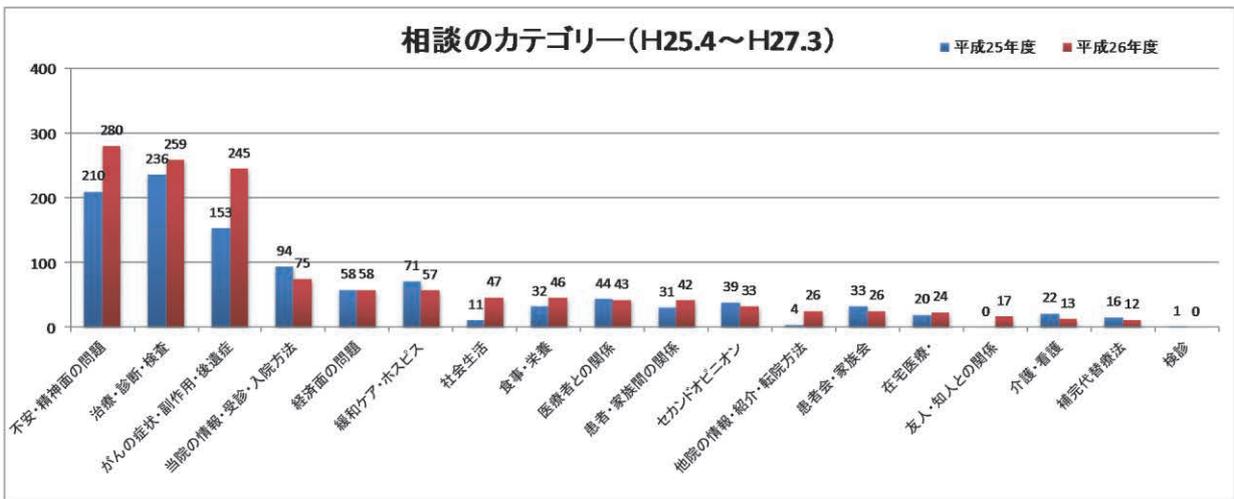
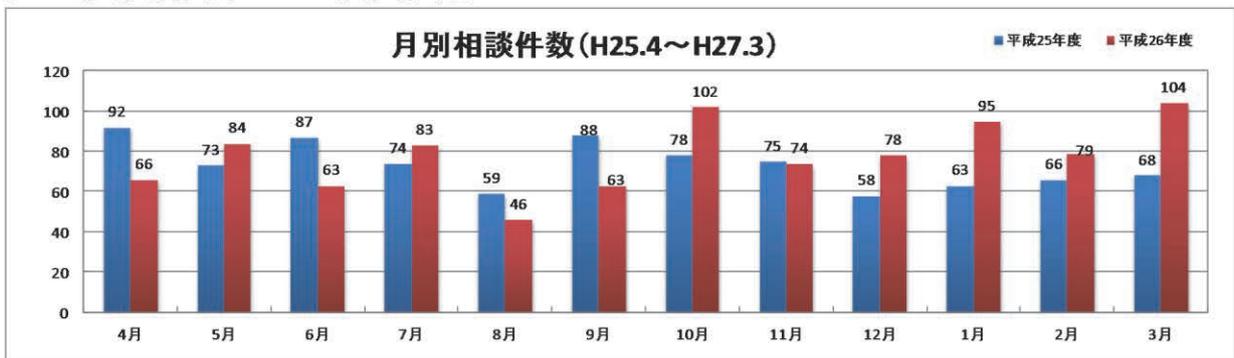
参加者 原沙絵産業カウンセラー 山田ちあき係員 熊坂夏菜子コーディネーター
訪問日 平成 27 年 2 月 19 日（木）～20 日（金）

平成 26 年度 がん診療相談室業務報告

【地域医療連携センター 全相談件数】



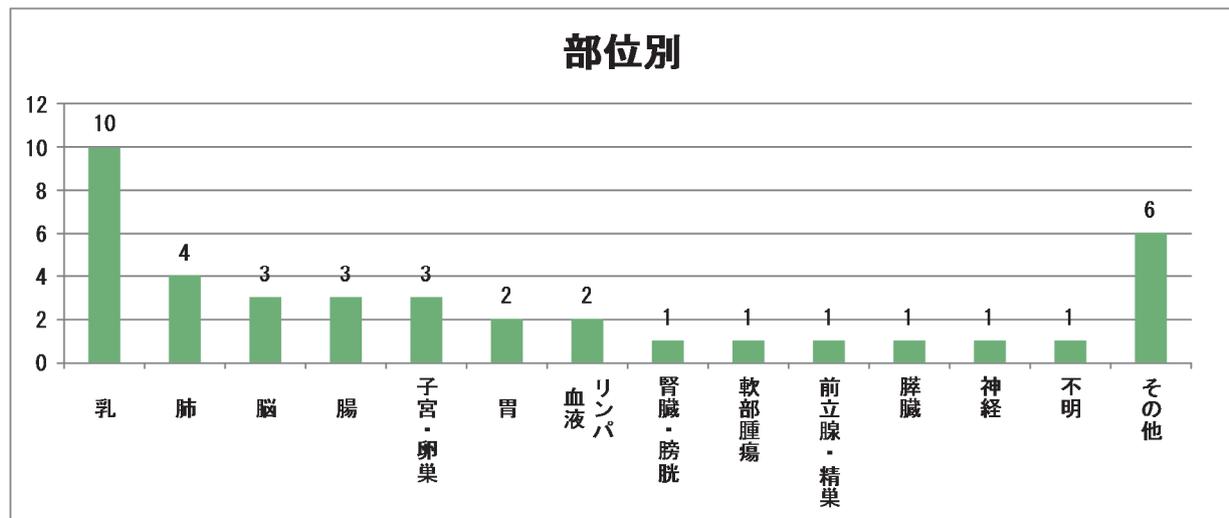
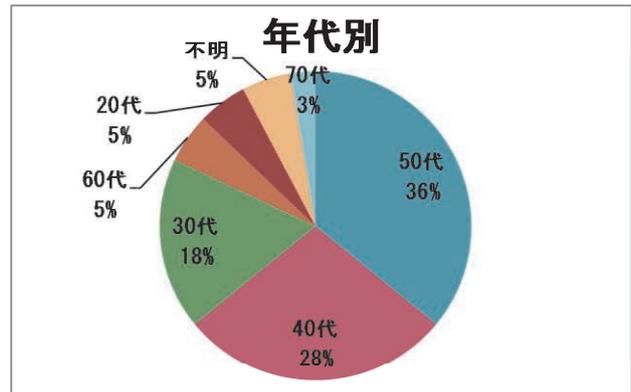
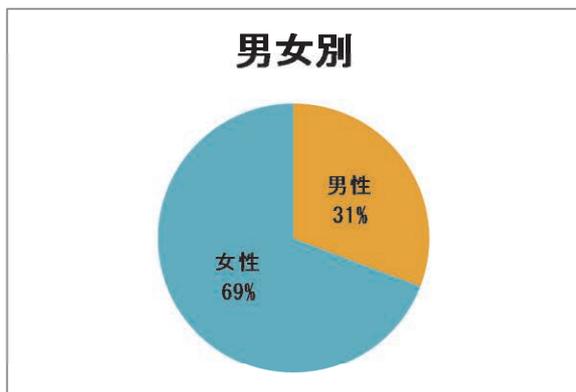
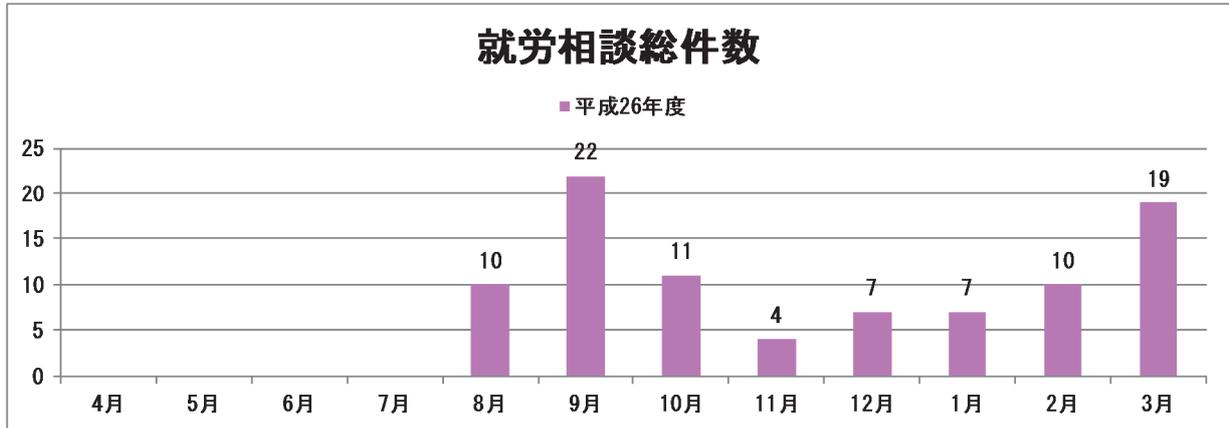
【がん診療相談員のための相談件数】



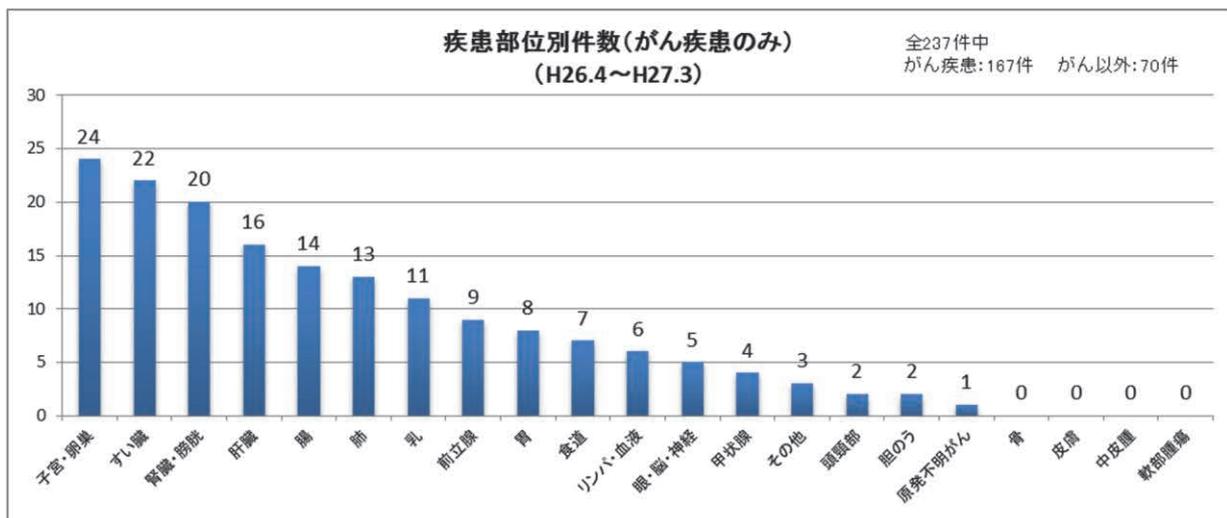
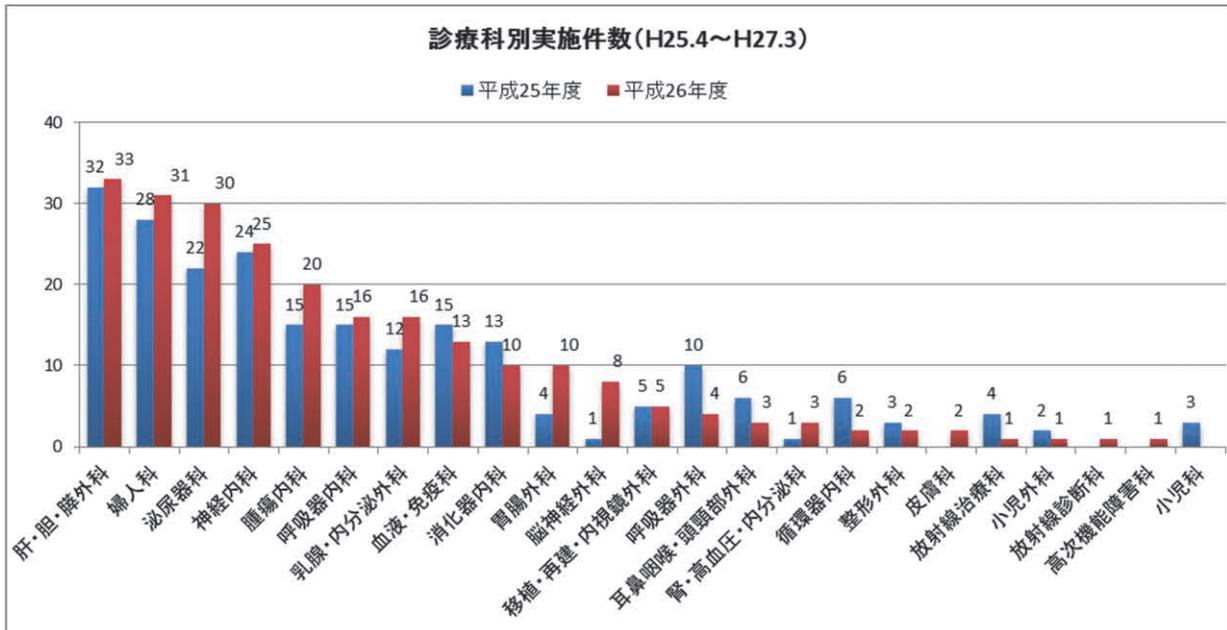
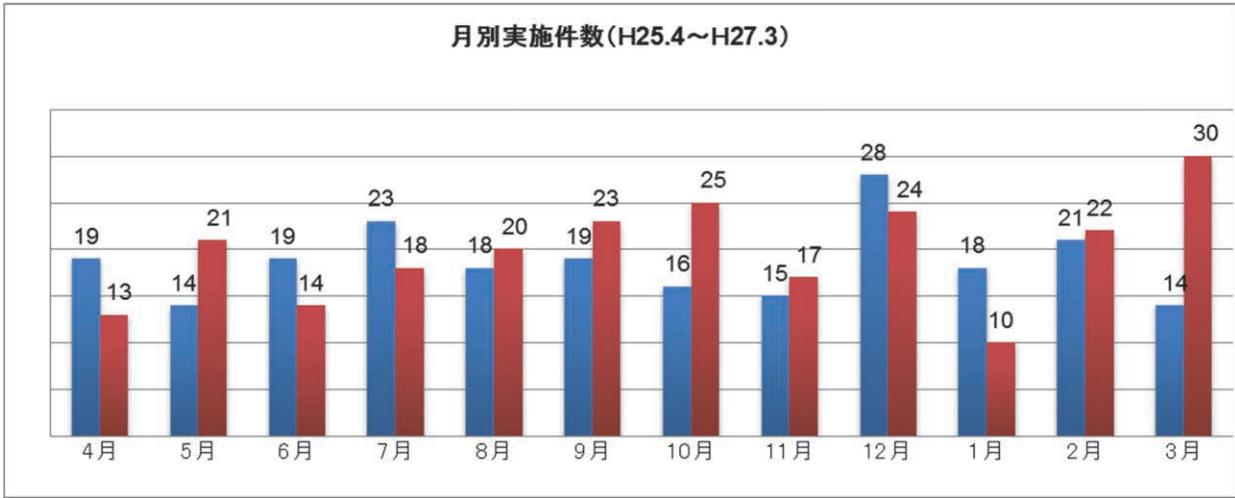
【平成26年度 就労支援報告】

当院では、平成26年8月より産業カウンセラーを相談室に配置し就労相談を開始した。支援や復職支援の他、月1回院内で出張相談会等を開催、ハローワーク仙台と連携しながら求職希望者に対応している。

働く世代である40代、50代の相談者が多く、相談者の約半数が未就労（病気による離職、解雇も含む）の状態である。



【平成 26 年度 セカンドオピニオン報告】



がん登録部会

辻 一郎（部会長）

がん登録とは

がん登録とは、がん罹患された方々の情報を登録することにより、がんの発生動向を明らかにするとともに、治療内容や予後を調査する取り組みです。これにより、がんの実態を把握するとともに、がんの予防や治療の向上に役立てるものです。

東北大学病院は、宮城県がん診療連携拠点病院の一つとして、標準登録様式に基づく院内がん登録を実施して、その情報を国立がん研究センターに提供しています。

東北大学病院の院内がん登録システム

平成 19 年 1 月 1 日以降に東北大学病院でがんと新たに診断、または初めて受診された患者様全員を対象に登録が行われています。これは、(1) 大学病院で運用されている診療支援システムの病名登録データを活用して、複数の診療情報から「がんの疑いのある患者様」を拾い上げたうえで、(2) CanR という院内がん登録情報システムを活用して、主治医と診療情報管理士とが情報を交換し合うことにより、腫瘍に関する情報（診断年月日・診断名・進行度・組織診断名・受けた治療の種類など）を登録しています。

院内がん登録に係る体制

東北大学病院は、院内がん登録室を設置して登録業務を実施しています。室長は、病院長の指名により登録部会長の辻が務めております。

院内がん登録室の業務は、(1) がん患者データの集積・分析・管理に関すること、(2) がん患者登録データの研究利用に関すること、(3) 地域がん登録へのデータ提供に関すること、(4) 宮城県内におけるがん診療連携拠点病院等に対する精度管理指導に関すること、です。

また、院内がん登録室の運営に関する審議を行うために、院内がん登録小委員会が設置されて、院内がん登録室長が委員長を務めることになっています。

さらに本部会が、院内がん登録室と院内がん登録小委員会を統括しており、院内がん登録に関する全般的な事項を審議するとともに、院内がん登録情報の外部提供に関する協議と決定を行っています。

このような三層構造により、院内がん登録業務の円滑な実施、登録業務を通じて得られた個人情報の厳重な保護、がん登録情報の診療・研究面における有効な利活用が図られています。

資質の向上に向けた研修の開催

東北がんプロフェッショナル養成推進プランとも連携し、「院内がん登録実務者養成コース」を年に 10 回開催して、がん登録に関わる基本的事項、臨床講義、統計解析、がん疫学、がん予防学、法的問題に関する講義を行っており、大学病院の教職員や医学系研究科の大学院生などが多数参加しています。平成 26 年度の開催プログラムを表 1 に示します。

院内がん登録の現状

本年度は、平成 25 年 1 月 1 日から同年 12 月 31 日までに東北大学病院でがんと新たに診断または初めて受診された患者様について登録を行いました。その結果、登録件数は 3,230 件でした。進行度や治療の内容などについて集計を行いました。

また、2007 年から 2012 年までの 6 年間の登録件数の推移について集計を行い、その内容についても東北大学病院ホームページに公表いたしました。なお、本年度に登録された患者様の部位別、性別の内訳を表 2 に示します。

表 1 院内がん登録実務者養成コースの内容

開催日	講義項目	講師
第 1 回 (H26 年 5 月 13 日)	がん登録概論	
第 2 回 (H26 年 6 月 10 日)	院内がん登録の標準登録様式とシステム	
第 3 回 (H26 年 7 月 8 日)	院内がん登録と地域がん登録	
第 4 回 (H26 年 9 月 9 日)	頭頸部癌について ー口腔・咽頭がん、喉頭がんを中心にー	小川 武則 先生 東北大学病院 耳鼻咽喉・頭頸部外科 講師
第 5 回 (H26 年 10 月 14 日)	がん登録の予後情報について	西野 善一 先生 宮城県立がんセンター研究所 がん疫学・予防研究部 部長
第 6 回 (H26 年 11 月 11 日)	脳腫瘍について	園田 順彦 先生 東北大学大学院 医学系研究科 神経外科学分野 准教授
第 7 回 (H26 年 12 月 9 日)	皮膚癌の分類・診断・治療について	橋本 彰 先生 東北大学病院 皮膚科 助教
第 8 回 (H27 年 1 月 13 日)	大腸癌の基礎知識	遠藤 克哉 先生 東北大学 保健管理センター 助教 東北大学病院 消化器内科
第 9 回 (H27 年 2 月 10 日)	がん予防学総論について	菅原 由美 先生 東北大学大学院 医学系研究科 社会医学講座公衆衛生学分野 助教
第 10 回 (H27 年 3 月 10 日)	がん登録の法制化対応の進捗について	西野 善一 先生 宮城県立がんセンター研究所 がん疫学・予防研究部 部長

表2 平成25(2013)年登録数 部位別(ICD-O-3)性別

注) 上皮内がん及び再発症例含む

部位	ICD-O-3	合計		男		女	
		数	%	数	%	数	%
全部位		3230	100.0%	1724	100.0%	1506	100.0%
頭頸部	C00-C14 C30-C32	222	6.9%	146	8.5%	76	5.0%
食道	C15	224	6.9%	178	10.3%	46	3.1%
胃	C16	230	7.1%	167	9.7%	63	4.2%
小腸	C17	11	0.3%	10	0.6%	1	0.1%
大腸	C18-C20	192	5.9%	112	6.5%	80	5.3%
(結腸)	C18	116	3.6%	62	3.6%	54	3.6%
(直腸S状結腸移行部、直腸)	C19-C20	76	2.4%	50	2.9%	26	1.7%
肝及び肝内胆管	C22	90	2.8%	65	3.8%	25	1.7%
胆のう	C23	21	0.7%	9	0.5%	12	0.8%
その他及び部位不明の胆道	C24	59	1.8%	40	2.3%	19	1.3%
膵	C25	185	5.7%	91	5.3%	94	6.2%
気管、気管支及び肺	C33-C34	231	7.2%	162	9.4%	69	4.6%
胸腺	C37	5	0.2%	2	0.1%	3	0.2%
胸膜	C384	6	0.2%	5	0.3%	1	0.1%
骨、関節及び関節軟骨	C40-C41	11	0.3%	6	0.3%	5	0.3%
血液、骨髄	C420 C421	120	3.7%	74	4.3%	46	3.1%
皮膚(黒色腫以外)	C44	93	2.9%	50	2.9%	43	2.9%
結合組織、皮下組織及びその他の軟部組織	C49	43	1.3%	29	1.7%	14	0.9%
乳房	C50	286	8.9%	2	0.1%	284	18.9%
外陰、陰	C51-C52	10	0.3%	-	-	10	0.7%
子宮	C53-C55	221	6.8%	-	-	221	14.7%
(子宮頸)	C53	108	3.3%	-	-	108	7.2%
(子宮体部)	C54	113	3.5%	-	-	113	7.5%
(子宮NOS)	C55	0	0.0%	-	-	0	0.0%
卵巣、卵管	C56 C570	70	2.2%	-	-	70	4.6%
陰茎	C60	4	0.1%	4	0.2%	-	-
前立腺	C61	205	6.3%	205	11.9%	-	-
精巣	C62	19	0.6%	19	1.1%	-	-
腎	C64	58	1.8%	38	2.2%	20	1.3%
腎盂、尿管	C65-C66	17	0.5%	12	0.7%	5	0.3%
膀胱	C67	47	1.5%	36	2.1%	11	0.7%
眼及び付属器	C69	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
髄膜、脳、脊髄、脳神経及びその他の中枢神経系	C70-C72	178	5.5%	79	4.6%	99	6.6%
甲状腺	C73	82	2.5%	24	1.4%	58	3.9%
副腎、その他の内分泌腺及び関連組織	C74-C75	23	0.7%	11	0.6%	12	0.8%
リンパ節	C77	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
悪性リンパ腫	M959-M972	164	5.1%	88	5.1%	76	5.0%
悪性黒色腫	M872-M878	43	1.3%	23	1.3%	20	1.3%
原発部位不明	C80	35	1.1%	23	1.3%	12	0.8%
その他		25	0.8%	14	0.8%	11	0.7%

(2) 診療科・部署からの報告

放射線治療部門

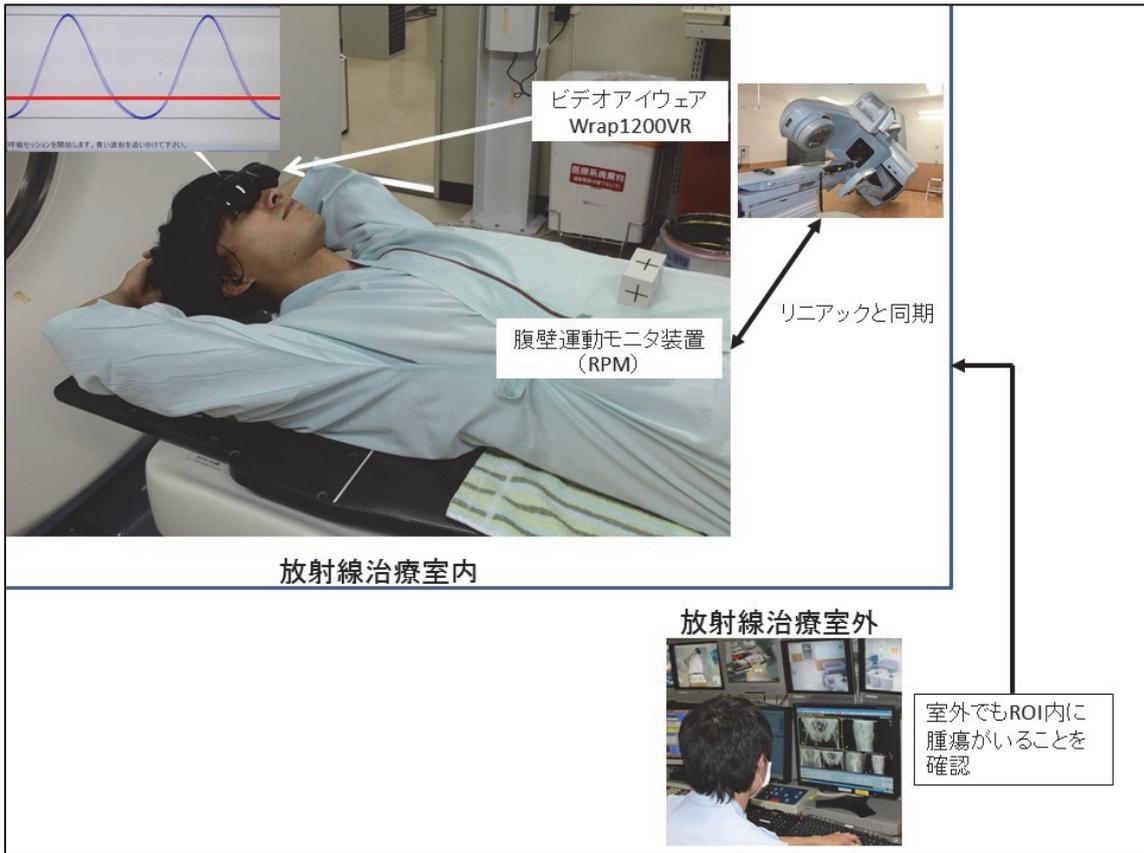
神宮啓一（科長）

2014年も外来・入院において根治的放射線治療から緩和的放射線治療まで、延べ治療人数が体外照射のみで30,000件を超え、さらに密封や非密封線源を使用した内照射も順調に行っております。貴重な症例をご紹介いただきました関係各位にはこの場を借りまして御礼申し上げます。総治療件数は近年、減少傾向にありましたが、2014年度は盛り返しほぼピーク時と同じ数となりました。当施設では1症例あたりに使用するbeam数が増加しており、より高精度の治療を行われるようになってきています。副作用も少ないことから入院患者さんの割合が減り、外来照射の方が半数以上となってきています。先進的な治療技術として、早期肺癌や転移性肺癌に対して体幹部の定位放射線治療を26件（多施設臨床試験の腎癌を除く）、前立腺癌や上咽頭癌に対して強度変調放射線治療（IMRT）を58件行いました。今年度から子宮頸がん術後照射にもIMRTの適応を拡大させました。これらの最新の治療技術にも4D-CTを使用したり、回転式IMRT（VMAT）を使うようにするなど更に高度化した治療法を用いています。更に今年度より単純な4D-CTを使用するのではなく、visual-guide呼吸同期照射を開始し、より高精度化した体幹部定位放射線治療が可能となっています（図参照）。

2014年度はじめに腔内照射のための密封小線源Ir¹⁹²治療装置であるRALS(Remote after Loading System)装置が更新され、同室の大口径のCTを導入し、こちらもより高精度の密封小線源治療(Image-guided Brachytherapy:IGBT)を実施しています。これまでは2次元の線量分布しか描けませんでした。3次元の線量分布を作成し、体外放射線治療の線量分布をfusionし、きめ細やかな工夫を症例毎に行っています。

これらの放射線治療技術の質を担保してくれている医学物理士は、今年度からがんセンター内に医学物理室を設け、放射線部から独立した機構として放射線診療のQA/QCを担ってくれています。

2015年度も症例に応じたきめ細かな放射線治療、かつ最先端の放射線治療を実施して参ります。どうぞ宜しくお願いします。



化学療法センター

石岡千加史（化学療法センター長）

当センターは平成16年に稼働を開始した東北地方では初めての包括的な化学療法センターです。外来と入院を合わせた病院全体の化学療法の管理を一括して行い、日常診療における外来での抗がん剤などの治療のほか、企業治験や研究者による自主的臨床試験の実施場所としての機能を有します。専用の調剤室と30床の治療室（この他に床に治療スペースを1床確保）を備えるセンターには、専任医師（がん薬物療法専門医）が1名、看護師10名（看護師長、がん化学療法認定看護師を含む）、薬剤師が4名（がん専門薬剤師1名、がん薬物療法認定薬剤師1名を含む）の勤務態勢で運営されています。また、センターに隣接する腫瘍内科外来には、腫瘍内科医（がん薬物療法専門医9名を含む）が常時複数名診療しています。当センターを利用する診療科は20科に上り、昨年度の化療センター利用延べ患者数は、年間総数で11,549名、月平均で約960名（880～1,060名）、その内訳はがん患者700～850名、その他の疾患180～210名でした。の治療を行っています。当センターの特徴の1つに、医師、薬剤師および看護師を中心とするチーム医療の実践にあります。チーム医療の推進は平成24年6月に策定されたわが国の第2期がん対策推進基本計画の重点的に取り組むべき項目の1つであり、副作用モニタリング、副作用対策などを多職種チームで取り組んでいます。今後も待ち時間短縮など患者さんの利便性の向上をより一層計る予定です。

最近の取り組み事例としては、看護師によるCVポート穿刺、抗がん剤の皮下注射や末梢血管確保、薬剤師による服薬指導の強化と医師への情報還元、専従医師の救命救急センター連絡会議への参加などがあります。院内の化学療法の標準化のために、月1回化学療法プロトコル審査委員会を開催し、院内の化学療法レジメンを全て薬剤部内にある化学療法センター事務局で一元管理され、代表的な治療レジメンを他の医療機関のためにHP上に公開しています。また、レジメン登録、化学療法のオーダーリング、調剤から看護まで化学療法センター専用のシステムがITセンターにより開発され、質の高い治療を安全かつ効率的に実施できる体制が構築されています。

当センターのもう一つの特徴は、がん医療水準の均てん化のための教育および研修機能を有する点にあります。具体的には、東北地方のがん診療連携拠点病院やその他の中核的病院に対し化学療法マネジメントに関するがん薬物療法チーム研修会を開催しています。また、院外で化学療法プロトコル審査委員会の開催指導を行いました。さらに、アナフィラキシー対策、在宅IVH管理、レジメン審査、上腕CVポート造設、口腔ケアと栄養管理、がん薬物療法におけるバイオマーカー（講義）や、抗がん剤の血管外漏出対策の教育DVDを作成し、その一部は全国のがん診療連携拠点病院に配信するなど、教育拠点としての役割も果たしています。

東北大学病院がんセンターの組織・役割



東北大学病院がんセンター 腫瘍評議会 (Tumor Board)

*がんセンターの管理・運営 *地方自治体等との連絡調整 *がん会議の活動評価

●診療部会 (荒井陽一教授:地域医療連携室・医事課)
カンファレンス 検診 セカンドオピニオン 外来機能

●研究部会 (海野倫明教授:総務課)
臨床研究「がんTR」

●教育部会 (神宮啓一教授:総務課)
がん拠点病院医療従事者研修 がんプロ養成

●相談支援・情報部会 (森隆弘教授:地域医療連携室・総務課)
がん診療相談 治療成績公表 HP・広報誌等 各種情報提供

●がん登録部会 (辻一郎教授:医療情報室)
院内がん登録 統計・疫学

先進包括的がん
医療推進室

化学療法
センター

緩和ケア
チーム

化学療法
標準化研修

院内がん
登録室

がん診療
相談室

がん会議 (Cancer Conference)

専門医による診療計画等の策定(専門的医療)

領域別カンファレンス

小児腫瘍センター

医学物理室

【院内連携】

放射線部 病理部 緩和医療部 薬剤部 看護部 他



県立がんセンター



他の医療機関

化学療法センター組織図と薬剤師

東北大学がんセンター 腫瘍評議会

がん会議

薬剤部

調剤室

化学療法支援室

診療科

化学療法
処方医

化学療法センター
センター長①
副センター長①

化療センター事務局

事務局長①
薬剤師④

プロトコール
申請責任医師

運用WG

医師:①①

看護師:⑦

薬剤師:⑥

検査技師:①

MIT副部長:①

事務官:①

プロトコール審査委員会

医師:⑦、薬剤師:②

看護師:①、外部査読者

化学療法室

医師:①

薬剤師:④

看護師:⑥

運営小委員会

センター長①

副センター長①

副薬剤部長①

看護師長①

副臨床検査技師長①

プロトコル審査委員会における審査件数とその結果
(第1回から第3回までは審査方法などについての検討を行った。)

審査委員会 開催日	審査件数 (再審査)	承認	条件付承認	再審査
第1回 平成17年6月3日	—	—	—	—
第2回 平成17年6月27日	—	—	—	—
第3回 平成17年7月21日	—	—	—	—
第4回 平成17年9月7日	13	1	12	
第5回 平成17年10月6日	10	4	6	
第6回 平成17年11月7日	14	5	8	1
第7回 平成17年12月5日	9	4	2	3
第8回 平成18年1月10日	9	2	5	2
第9回 平成18年2月8日	11(2)	4(1)	3	4(1)
第10回 平成18年3月6日	15(4)	6(2)	8(2)	1
第11回 平成18年4月10日	13(1)	8	2	3(1)
第12回 平成18年5月8日	10(1)	5(1)	5	
第13回 平成18年6月12日	6	3	3	
第14回 平成18年7月10日	9	4	5	
第15回 平成18年8月31日	15	3	4	8
第16回 平成18年10月2日	6	1	5	
第17回 平成18年11月6日	9(4)	2(1)	5(1)	2(2)
第18回 平成18年12月4日	11	6	3	2
第19回 平成19年1月22日	8(2)	3(2)		5
第20回 平成19年2月26日	10		5	5
第21回 平成19年4月2日	12	4	7	1
第22回 平成19年5月7日	5	2	2	1
第23回 平成19年6月11日	7(1)	4	2	1
第24回 平成19年7月9日	17	1	16	
第25回 平成19年9月3日	10	6	3	1
第26回 平成19年10月15日	8	5	3	
第27回 平成19年11月19日	5	2	2	1
第28回 平成19年12月17日	8		8	

第29回 平成20年1月30日	10		9	1
第30回 平成20年3月5日	3	1	1	1
第31回 平成20年4月7日	4(3)	3	1	
第32回 平成20年5月14日	7	1	6	
第33回 平成20年6月16日	3	2	1	
第34回 平成20年7月16日	4		3	1
第35回 平成20年9月1日	12	6	6	
第36回 平成20年10月6日	7	4		3
第37回 平成20年11月17日	8(3)		5	3
第38回 平成20年12月15日	7(2)	1	6	
第39回 平成21年1月16日	5		5	
第40回 平成21年2月17日	7	1	6	
第41回 平成21年3月18日	9	2	6	1
第42回 平成21年4月19日	6		5	1
第43回 平成21年5月20日	4		4	
第44回 平成21年6月21日	11	7	4	
第45回 平成21年7月22日	3	1	2	
第46回 平成21年8月23日	3	2	1	
第47回 平成21年9月24日	5(3)	3	1	1
第48回 平成21年10月25日	9	3	4	2
第49回 平成21年11月26日	12	2	5	5
第50回 平成21年12月21日	4	1	3	
第51回 平成22年1月25日	3	1	2	
第52回 平成22年2月22日	7	4	1	2
第53回 平成22年3月29日	6	3	3	
第54回 平成22年4月26日	2		2	
第55回 平成22年5月31日	5	1	4	
第56回 平成22年6月28日	6	5	1	
第57回 平成22年7月26日	6	3	3	
第58回 平成22年8月30日	10		10	
第59回 平成22年9月27日	4	1	1	2

第60回 平成22年10月25日	5(2)	4	1	
第61回 平成22年11月29日	5	1	4	
第62回 平成22年12月27日	8		4	4
第63回 平成23年1月31日	8(3)	4	2	2
第64回 平成23年2月28日	7	1	5	1
第65回 平成23年4月25日	12(1)	2	9	1
第66回 平成23年5月30日	11	1	10	
第67回 平成23年6月27日	7		7	
第68回 平成23年8月1日	3		3	
第69回 平成23年9月26日	7	1	5	1
第70回 平成23年10月31日	5(1)	1	3	1
第71回 平成23年11月21日	3		3	
第72回 平成23年12月26日	11		11	
第73回 平成24年1月30日	4		4	
第74回 平成24年2月27日	9(1)		8	1
第75回 平成24年3月26日	6	1	5	
第76回 平成24年5月28日	4		3	1
第77回 平成24年6月25日	4	1	2	1
第78回 平成24年7月30日	4	4		
第79回 平成24年8月27日	4(1)		3	1
第80回 平成24年9月26日	12		12	
第81回 平成24年10月29日	10		10	
第82回 平成24年11月26日	3	3		
第83回 平成24年12月26日	8	2	6	
第84回 平成25年1月30日	6	1	4	1
第85回 平成25年2月27日	8	7	1	
第86回 平成25年3月25日	7		7	
第87回 平成25年4月22日	5	3	2	
第88回 平成25年5月23日	4	2	2	
第89回 平成25年6月24日	9		7	2
第90回 平成25年7月22日	7(2)	2	5	

第91回 平成25年8月26日	14	12	2	
第92回 平成25年9月25日	5	1	4	
第93回 平成25年10月28日	36		36	
第94回 平成25年11月27日	15	1	14	
第95回 平成25年12月16日	7	1	6	
第96回 平成26年1月27日	74	3	71	
第97回 平成26年2月24日	9	4	5	
第98回 平成26年3月31日	3	1	2	
第99回 平成26年4月21日	14		5	9
第100回 平成26年5月26日	19(9)	5	14(9)	
第101回 平成26年6月30日	5		5	
第102回 平成26年7月28日	11	1	9	
第103回 平成26年8月25日	13	5	6	1
第104回 平成26年9月22日	11(2)		11	1
第105回 平成26年10月27日	11(1)	2	9(1)	
第106回 平成26年11月27日	9		9	
第107回 平成26年12月22日	9	5	4	
第108回 平成27年1月26日	9	4	5	
第109回 平成27年2月23日	7		5	
第110回 平成27年3月30日	6	1	5	

エビデンスレベル別
 審査プロトコール件数とその割合
 (平成17年9月～平成27年3月審査分)

エビデンスレベル	プロトコール数	審査済プロトコールに おける割合(%)
1	35	3.9
2	128	14.2
3	101	11.2
4	92	10.2
5	44	4.9
6	13	1.4
研究のみ	438	48.5
保留(未承認)	53	5.7
審査済プロトコール合計	904	100.0

エビデンスレベル別
 審査プロトコール件数とその割合
 (平成26年度審査分)

エビデンスレベル	プロトコール数	審査済プロトコールに おける割合(%)
1	2	1.8
2	9	7.9
3	25	21.9
4	9	7.9
5	1	0.9
6	0	0.0
研究のみ	64	56.1
保留(未承認)	4	3.5
審査済プロトコール合計	114	100.0

公開プロトコール一覧

白地は公開予定

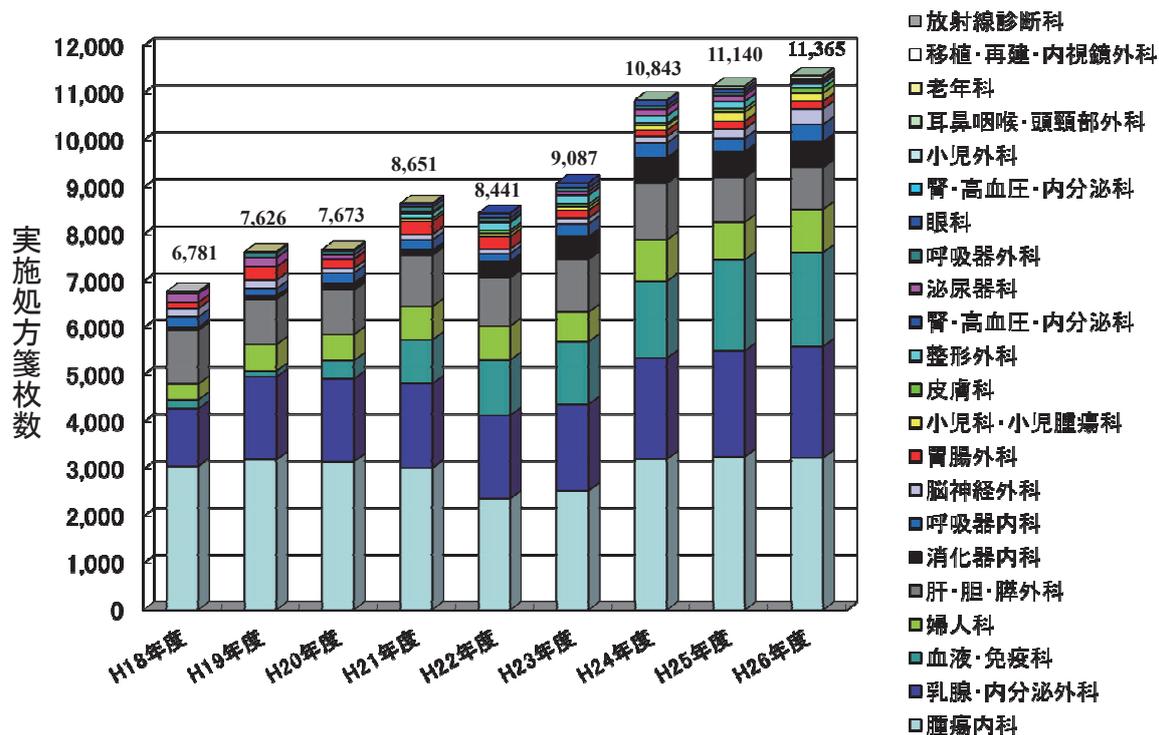
受付番号	プロトコール名	申請科	エビデンスレベル	審査日
05-001	大腸癌アイソボリン・5FU(RPMI)療法	腫瘍内科	1	20050907
05-004	大腸癌de Gramont療法	腫瘍内科	1	20050907
05-005	大腸癌AIO療法	腫瘍内科	2	20050907
05-006	大腸癌sLVFU療法	腫瘍内科	2	20050907
05-007	大腸癌トポテシン隔週療法	腫瘍内科	2	20050907
05-008	大腸癌modFOLFIRI療法	腫瘍内科	1	20050907
05-009	大腸癌FOLFOX4療法	腫瘍内科	1	20050907
05-010	大腸癌modFOLFOX6療法	腫瘍内科	2	20050907
05-011	肺癌(非小細胞)カルボプラチン・ジェムザール療法	遺呼科	2	20051006
05-012	肺癌(非小細胞)毎週ジェムザール療法	遺呼科	2	20051006
05-013	肺癌(非小細胞)カルボプラチン・毎週タキソール療法	遺呼科	2	20051006
05-018	胃癌5FU持続点滴療法	腫瘍内科	1	20051006
05-019	非ホジキンリンパ腫CHOP療法	血免科	1	20051006
05-020	非ホジキンリンパ腫R-CHOP療法	血免科	1	20051006
05-021	肺癌(非小細胞)カルボプラチン・タキソール療法(3週間隔)	遺呼科	1	20051107
05-022	肺癌(小細胞)シスプラチン・イリノテカン療法	遺呼科	2	20051107
05-025	乳癌CEF療法(エンドキサン経口法)	乳内科	1	20051107
05-026	乳癌CAF療法	腫瘍内科	1	20051107
05-027	乳癌CMF療法(量体表面積)	腫瘍内科	1	20051107
05-028	乳癌CMF療法(量固定)	腫瘍内科	1	20051107
05-029	乳癌CMF療法(エンドキサン注射)(量固定)	腫瘍内科	1	20051107
05-030	ホジキンリンパ腫ABVD療法	血免科	1	20051107
05-031	リツキシマブ療法	血免科	1	20051107
05-032	乳癌タキソテール(triweekly)+ハーセプチン療法	乳内科	2	20051205
05-033	乳癌タキソテール療法(triweekly)	乳内科	2	20051205
05-036	卵巣癌タキソール・カルボプラチン療法	婦人科	1	20051205
05-037	卵巣癌ドセタキセル・カルボプラチン療法	婦人科	2	20051205
05-501	hyper CVAD	血免科	2	20050907
06-001	卵巣癌(胚細胞腫瘍)ブレオマイシン・エトポシド・シスプラチン療法	婦人科	1	20060208
06-002	乳癌タキソール(Paclitaxel) weekly 療法	乳内科	2	20060110
06-003	乳癌タキソール(Paclitaxel) weekly +ハーセプチン療法	乳内科	2	20060110
06-010	胃癌トポテシン・S-1併用療法	胃外科	2	20060110
06-016	肺癌(小細胞)カルボプラチン・エトポシド療法	遺呼科	2	20060208
06-017	肺癌(小細胞)シスプラチン・エトポシド療法	遺呼科	1	20060208
06-019	乳癌ナベルピン 療法	乳内科	2	20060208
06-020	乳癌ナベルピン +ハーセプチン療法	乳内科	2	20060208
06-024	肺癌(非小細胞)タキソテール療法	遺呼科	2	20060306
06-025	肺癌(小細胞)ノギテカン療法	遺呼科	2	20060306
06-026	乳癌ハーセプチン単独療法	乳内科	2	20060306
06-027	乳癌トポテシン 療法	乳内科	2	20060306
06-042	乳癌FEC100療法	乳内科	2	20060410
06-043	肺癌(非小細胞)シスプラチン・ドセタキセル療法	遺呼科	2	20060410
06-057	肺癌(非小細胞)シスプラチン・ビルルビン療法	遺呼科	1	20060612
06-058	子宮頸癌化学放射線療法CDDP	婦人科	1	20060612
06-069	子宮体癌アドリアマイシン・シスプラチン療法	婦人科	2	20060710
06-070	肺癌(非小細胞)シスプラチン・ゲムシタピン療法	遺呼科	2	20060710
06-086	胃癌CDDP/TS-1療法	腫瘍内科	2	20060831
06-092	同種骨髄移植CY-TBI	血免科	1	20061002
06-093	多発性骨髄腫自家移植 MEL-100	血免科	2	20061002
06-103	腎癌IL2療法	泌尿科	1	20061204
06-105	初発悪性神経膠腫テモゾロミド療法(放射線療法併用)	脳外科	2	20061204
06-107	悪性神経膠腫テモゾロミド療法(維持)	脳外科	2	20061204
07-031	急性骨髄性白血病IDR+AraC療法	血免科	1	20070611
07-032	多発性骨髄腫VAD療法(low dose)	血免科	2	20070611
07-035	ベバシズマブ+FOLFOX4療法(5)	腫瘍内科	2	20070709
07-036	ベバシズマブ+FOLFOX4療法(10)	腫瘍内科	2	20070709
07-037	ベバシズマブ+FOLFOX6療法(5)	腫瘍内科	2	20070709
07-039	ベバシズマブ+de Gramont療法	腫瘍内科	2	20070709
07-040	ベバシズマブ+sLV5FU療法	腫瘍内科	2	20070709
07-041	ベバシズマブ+RPMI療法	腫瘍内科	2	20070709
07-042	ベバシズマブ+FOLFIRI療法	腫瘍内科	2	20070709
07-050	悪性胸膜中皮腫シスプラチン・ペメトレキセド療法	遺呼科	2	20070709
07-052	骨肉腫MFH・CDDP+ADR療法	腫瘍内科	2	20070903
07-053	COG Osteosarcoma Regimen A (ADM-CDDP)	小児科	2	20070903
07-054	COG Osteosarcoma Regimen A (HDMTX)	小児科	2	20070903
07-072	急性骨髄性白血病DNR・AraC療法	血免科	2	20071119
07-074	尿路上皮癌M-VAC療法	泌尿器科	1	20071217
07-075	精巣腫瘍BEP療法	泌尿器科	1	20071217
07-076	急性骨髄性白血病地固めACR-AraC療法	血免科	2	20071217
07-077	急性骨髄性白血病地固めA triple V療法	血免科	2	20071217
07-078	急性骨髄性白血病地固めDNR-AraC療法	血免科	2	20071217
07-079	急性骨髄性白血病地固めMIT-AraC療法	血免科	2	20071217
08-014	乳癌ハーセプチン単独3週毎療法	乳内科	2	20080407
08-015	乳癌タキソテール+エンドキサン療法(triweekly)	乳内科	2	20080514
08-044	腎細胞癌Sorafenib 単剤内服療法	腫瘍内科	2	20081006
08-045	腎細胞癌Sunitinib 単剤内服療法	腫瘍内科	2	20081006
08-046	肺癌(非小細胞)ゲフィチニブ療法	呼内科	2	20081006
08-047	肺癌(非小細胞)エルロチニブ療法	呼内科	2	20081006

受付番号	プロトコール名	申請科	エビデンスレベル	審査日
08-048	大腸癌Cetuximab単独療法	腫瘍内科	2	20081117
08-049	Cetuximab+CPT-11併用療法	腫瘍内科	2	20081117
08-050	ゾレドロン単独療法	腫瘍内科	2	20081117
08-052	慢性リンパ性白血病FC療法	血免科	2	20081117
08-055	低悪性度リンパ腫ゼヴァリン療法(リツキシマブ)	血免科	2	20081215
09-078	大腸癌ベバシズマブ・CapeOX療法	腫瘍内科	1	20091026
09-079	大腸癌CapeOX療法	腫瘍内科	1	20091026
09-016	尿路上皮癌MEC療法	泌尿器科	2	20090323
09-017	マイトマイシン膀胱注療法	泌尿器科	2	20090323
09-018	ピノルビン膀胱注療法	泌尿器科	2	20090323
09-019	JALSGAPL97 induction A	血免科	2	20090323
09-020	JALSGAPL97 induction B	血免科	2	20090323
09-021	JALSGAPL97 induction D	血免科	2	20090323
09-022	JALSGAPL97 induction C	血免科	2	20090323
09-023	JALSGAPL97 consolidation 1	血免科	2	20090323
09-024	JALSGAPL97 consolidation 2	血免科	2	20090323
09-025	JALSGAPL97 consolidation 3	血免科	2	20090323
09-034	尿路上皮癌GEM-CDDP療法	泌尿器科	2	20090427
09-049	卵巣癌Doxil療法	婦人科	2	20090525
09-053	肺癌(非小細胞癌)ペメトレキセド療法	呼吸器内科	2	20090629
09-068	肺癌(非小細胞)カルボプラチン・アリムタ併用療法	呼吸器内科	2	20090727
09-072	急性骨髄性白血病寛解導入DNR-AraC療法(DNR5日間)	血免科	2	20090824
09-081	悪性胚細胞性腫瘍 PEB療法	小児科	2	20091026
09-082	小児急性骨髄性白血病(再発)IDA-FLAG療法	小児科	2	20091026
09-083	小児急性骨髄性白血病(再発)FLAG療法	小児科	2	20091026
09-084	肺癌(非小細胞)シスプラチン・ペメトレキセド療法	呼吸器内科	2	20091026
09-095	肺癌(非小細胞)ベバシズマブ+タキソール・カルボプラチン療法	呼吸器内科	2	20091221
10-007	胆道癌GEM/CDDP療法	肝胆膵外科	2	20100222
10-011	乳癌パクリタキセル・ゲムシタビン療法	乳内科	2	20100329
10-012	乳癌ドセタキセル(triweekly)・ゲムシタビン療法	乳内科	2	20100329
10-020	初発悪性神経膠腫テモゾロミド注射療法(放射線療法併用)	脳外科	2	20100531
10-021	悪性神経膠腫テモゾロミド注射療法(放射線療法併用後維持/再発症例)	脳外科	2	20100531
10-032	卵巣癌PLDC療法	婦人科	2	20100726
10-041	大腸癌Panitumumab療法療法	腫瘍内科	2	20100830
10-051	Ewing肉腫/PNET VDC・IE交代療法	腫瘍内科	2	20101129
10-059	乳癌nab-パクリタキセル療法	腫瘍内科	2	20101227
10-062	腎癌テムシロリムス療法	泌尿器科	2	20101227
11-005	カルボプラチン・内服S1療法	呼吸器外科	2	20110228
11-008	卵巣癌ゲムシタビン療法	婦人科	2	20110228
11-012	卵巣癌ノギテカン療法	婦人科	2	20110425
11-014	未分化大細胞型リンパ腫ALCL99(コースP、AM、BM)	小児科	2	20110425
11-015	胃癌Trastuzumab+XP療法	腫瘍内科	2	20110425
11-049	乳癌エリブリン療法	乳内科	2	20111031
11-055	肺癌Gemcitabine + erlotinib療法	腫瘍内科	2	20111226
11-056	乳癌Paclitaxel + Bevacizumab療法	乳内科	2	20111226
12-014	乳癌フルベストラント療法	乳内科	2	20120326
12-028	転移性骨腫瘍denosumab療法	腫瘍内科	1	20120730
12-031	悪性黒色腫DTIC単剤療法	腫瘍内科	2	20120827
12-032	軟部肉腫ADR単剤療法	腫瘍内科	2	20120827
12-067	多発性骨髄腫ボルテゾミブ皮下注	血液免疫科	2	20130130
13-001	切除不能進行再発頭頸部がんCmab+CBDCA+5-FU療法	腫瘍内科	2	20130130
13-002	切除不能進行再発頭頸部がんCmab+FP療法	腫瘍内科	2	20130130
13-003	局所進行頭頸部がん放射線併用Cmab療法	腫瘍内科	2	20130130
13-004	肺癌(非小細胞)ベバシズマブ維持療法(3週間隔)	呼吸器内科	1	20130227
13-018	肺癌(非小細胞)カルボプラチン・nabパクリタキセル療法	呼吸器内科	2	20130325
13-024	Her2陽性胃癌Trastuzumab+FP療法	腫瘍内科	2	20130523
13-032	横紋筋肉腫成人COG-VAC CPA 1200mg/m ² 療法	腫瘍内科	2	20130624
13-040	肺癌(非小細胞)シスプラチン・ペメトレキセド・ベバシズマブ療法	呼吸器内科	2	20130722
13-043	肺癌(非小細胞)ペメトレキセド・ベバシズマブ維持療法	呼吸器内科	2	20130826
13-059	乳癌ベルツズマブ+トラスツズマブ+ドセタキセル療法	乳腺内分泌外科	2	20130925
13-062	子宮体癌・子宮肉腫 ドキソルビシン単剤療法	婦人科	2	20131028
13-112	子宮癌肉腫TI療法	婦人科	2	20131216
13-116	血管炎リツキシマブ療法	血液免疫科	2	20131216
14-002	LGG CV療法 Induction	小児科	2	20140224
14-003	LGG CV療法 Maintenance	小児科	2	20140224
14-009	肺癌 FOLFIRINOX療法	腫瘍内科	2	20140224
14-010	大腸癌 ベバシズマブ+SOX療法	腫瘍内科	2	20140224
14-011	卵巣癌パクリタキセル・カルボプラチン+Bevacizumab療法	婦人科	2	20140331
14-012	卵巣癌Bevacizumab維持療法	婦人科	2	20140331
14-045	子宮頸癌 パクリタキセル・カルボプラチン療法	婦人科	1	2014/6/30
14-051	子宮頸癌 シスプラチン化学放射線療法	婦人科	1	2014/7/28
14-056	乳癌トラスツズマブ・エムタンシン(T-DMI)療法	乳腺・内分泌外科	2	2014/7/28
14-076	大腸癌トリフルリジン・チピラシル塩酸塩配合錠(ロンサーフ)	腫瘍内科	2	2014/8/25
14-103	肛門管癌 5-FU+MMC療法	腫瘍内科	2	2014/11/27
14-104	卵巣癌 ゲムシタビン・カルボプラチン+ベバシズマブ療法	婦人科	2	2014/11/27
14-105	卵巣癌 リボゾーム化ドキソルビシン+ベバシズマブ療法	婦人科	2	2014/11/27
14-121	前立腺癌 カバジタキセル療法	泌尿器科	2	2015/1/26
14-126	胃癌 SOX療法	腫瘍内科	2	2015/1/26
14-127	肺癌 nab-PTX+GEM療法	腫瘍内科	2	2015/1/26
15-013	卵巣癌 毎週パクリタキセル+ベバシズマブ療法	婦人科	2	2015/3/30

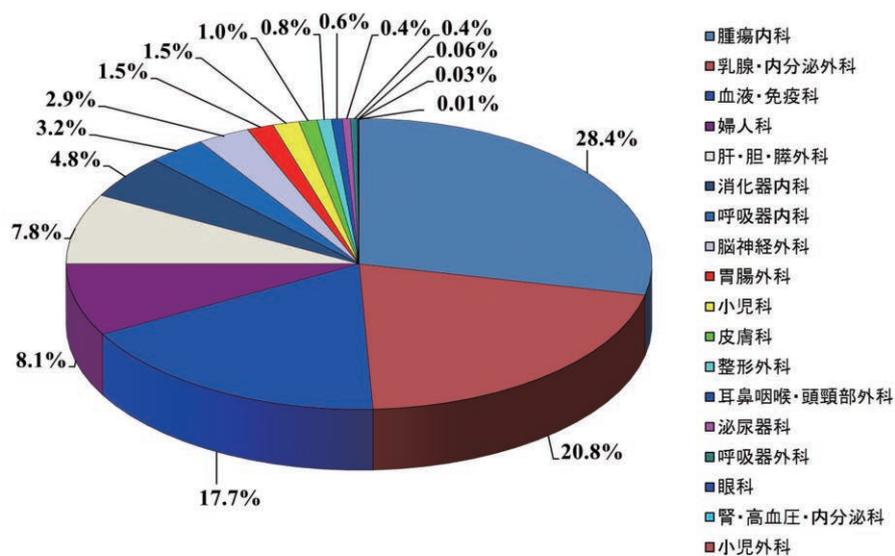
化学療法センター診療科別利用状況（H26年4月～H27年3月）〔処方枚数〕

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
腫瘍内科	290	268	255	300	249	264	276	226	253	278	264	310	3233
乳腺・内分泌外科	212	193	205	210	183	207	223	175	185	195	191	185	2364
血液・免疫科	170	168	181	179	164	155	176	147	163	175	165	168	2011
婦人科	59	65	54	74	79	80	100	86	84	83	56	96	916
肝・胆・膵外科	61	73	59	55	68	72	87	66	67	79	92	110	889
消化器内科	45	47	40	55	36	49	48	56	40	48	38	48	550
呼吸器内科	33	36	26	26	32	26	27	30	31	31	32	34	364
脳神経外科	23	24	29	21	28	29	32	27	31	33	29	25	331
胃腸外科	25	25	14	9	6	8	17	11	14	12	10	16	167
小児科	11	18	10	18	16	20	19	17	14	9	6	8	166
皮膚科	7	6	5	8	7	13	11	11	10	14	8	14	114
整形外科	8	11	7	8	8	5	5	8	7	9	3	8	87
耳鼻咽喉・頭頸部外科	2	6	4	7	8	8	5	4	3	4	7	10	68
泌尿器科	2	2	4	5	4	6	2	0	6	9	7	4	51
呼吸器外科	5	3	4	3	4	4	3	1	4	6	3	3	43
眼科	1	0	1	0	1	0	1	0	1	1	0	0	6
腎・高血圧・内分泌科	0	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	4
小児外科	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
計	955	945	899	979	894	947	1032	865	913	986	911	1039	11365

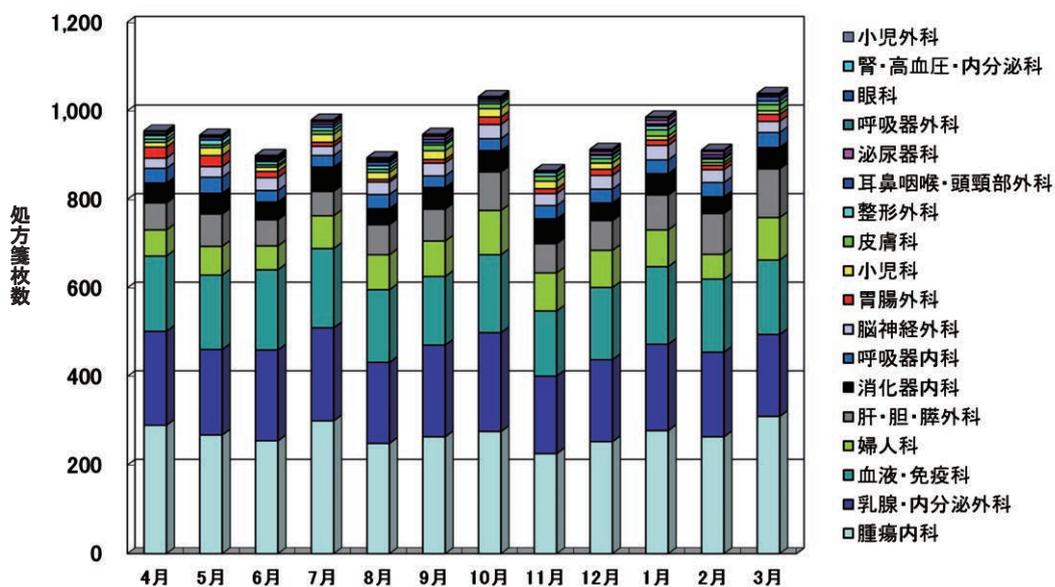
化学療法センター年度別利用状況（実施処方箋枚数）



平成 26 年度診療科別、化学療法センター利用割合



平成 26 年度化学療法センター診療科別利用状況（月別）



化学療法センタープロトコール別利用状況（H26年4月～H27年3月）

利用別

プロトコール名	処方枚数	プロトコール名	処方枚数
関節リウマチ トシリズムマブ療法	439	乳癌Her・毎週PAC療法(量体表面積)(Her時ゾレトロン酸版)	14
クローン病 インフリキシマブ療法	437	臨床試験 子宮癌肉腫パクリタキセル・カルボプラチン療法CS01、02	14
大腸癌ベパシズマブ(5)・FOLFIRI療法	431	治験 未治療低悪性度リンパ腫GA101 GA101維持療法	14
膵癌ゲムシタピン療法	398	悪性胸膜中皮腫スプラチン・ペメトレキセド療法	13
乳癌トラスツズマブ単独3週毎療法(2回目以降)	379	卵巣癌ドセタキセル単剤3週間投与	13
臨床試験 胃癌毎週パクリタキセル療法	376	初発悪性神経腫腫Bev+TMZ併用療法化学療法単独	13
関節リウマチ アバタセプト療法	287	治験OD30陽性T細胞リンパ腫SGN35 A-CHP療法	13
乳癌ベパシズマブ・毎週パクリタキセル療法	245	非ホジキンリンパ腫イリノテカン単独療法	13
大腸癌ベパシズマブ(5)・FOLFOX6療法	205	非ホジキンリンパ腫トポテシン単独療法	13
胆道癌ゲムシタピン・スプラチン療法	198	全身性若年性特発性関節炎 トシリズムマブ療法	13
卵巣癌タキソール・カルボプラチン療法	196	多関節に活動性を有する若年性特発性関節炎トシリズムマブ	13
卵巣癌パクリタキセル・カルボプラチン療法	196	臨床試験 胃癌S-1・分割投与CDDP術前療法	12
胆道癌ゲムシタピン療法	195	臨床試験 膵癌modFOLFOX6療法(外来)	12
シクロホスファミドパルス療法	194	肺癌(小細胞)スプラチン・イリノテカン療法	12
全身性エリマトーデス シクロホスファミドパルス療法	194	肺癌(非小細胞)PEM/BV療法(CBDCA/PEM/BVの維持療法)	12
多発性骨髄腫ボルテゾミブ療法(皮下注射)	192	再発・難治性骨肉腫ゲムシタピン・ドセタキセル療法	12
大腸癌modFOLFOX6療法(外来)	189	卵巣癌 TC+Bevacizumab療法(2回目以降)	12
関節リウマチ インフリキシマブ療法	186	卵巣癌 ゲムシタピン・カルボプラチン+ベパシズマブ療法	12
乳癌エリプリン療法	182	臨床試験 JACLS ER-02(maintenance 6-MP itなし)	12
肺癌(非小細胞)ペメトレキセド療法	174	臨床試験 胃癌HER+DTX療法(初回T-CORE1203 2回目以降)	11
進行・再発悪性神経腫腫 ベパシズマブ単独療法(3週)	169	乳癌OMF療法(エンドキサン注射)(量固定)	11
膵癌 FOLFIRINOX療法(外来)	164	乳癌CMF療法(シクロホスファミド注射)(量固定)	11
ベーチェット病 インフリキシマブ療法	162	乳癌エリプリン+3週毎トラスツズマブ療法(2回目以降)	11
乳癌毎週パクリタキセル療法(量体表面積)	136	卵巣癌 Bevacizumab維持療法	11
乳癌ピノレルビン・トラスツズマブ療法	129	臨床試験 JACLS HR-02(maintenance E)	11
乳癌FEC100療法(アプレタントカプセル版)	127	臨床試験 SLE ホルテゾミブ(皮下注)療法 追加交差試験	11
切除不能進行再発頭頸部癌Omac+FP療法(2回目以降)	126	絨毛性疾患 MTX-葉酸交代療法	11
大腸癌modFOLFIRI療法(外来)	118	乳癌ヘルツマブ+トラスツズマブ+ドセタキセル療法(初回)	10
胆道癌ゲムシタピン・スプラチン療法	113	治験ホジキンリンパ腫 SGN35 ABVD療法	10
乳癌ヘルツマブ+トラスツズマブ+ドセタキセル療法(2回目以降)	111	臨床試験 JACLS HR-02(maintenance THP)	10
乳癌フルベスタント療法	108	臨床試験 胃癌TS-1/Docetaxel併用療法(JACCROGC07)	9
非ホジキンリンパ腫R-CHOP療法	108	乳癌CEF(シクロホスファミド内服)療法(血管痛時)(ゾレトロン酸版)	9
キャッスルマン病 トシリズムマブ療法	108	乳癌エリプリン+3週毎トラスツズマブ療法(初回)	9
胃癌イリノテカン単独隔週療法	106	臨床試験 卵巣癌Bevacizumab維持療法GOG213	9
子宮体癌パクリタキセル・カルボプラチン療法	103	LGG CBDCA/VCR療法 Induction	9
卵巣癌イリノテカン単剤療法	103	臨床試験 頭頸部癌CSPOR-HN02 PCE療法(初回)	9
肉腫ゲムシタピン・ドセタキセル療法	102	原発不明癌TJ療法	9
臨床試験 TRICOLORE 大腸癌mFOLFOX+BV療法(A群)	99	悪性リンパ腫GDP療法	9
乳癌ゲムシタピン・トラスツズマブ療法(GEM時ゾレトロン酸版)	98	臨床試験 JACLS ER-02(maintenance L-Aspなし E)	9
膵癌ゲムシタピン・S-1(3週)療法	96	臨床試験 絨毛性疾患GOG0275-AcD療法	9
潰瘍性大腸炎 インフリキシマブ療法	95	大腸癌Pmac+modFOLFIRI療法(外来)	8
神経腫腫ニドラン療法	90	臨床試験 肺癌(非小細胞)S-1・イリノテカン療法	8
神経腫腫ニムスチン療法	90	悪性黒色腫DTIC単剤療法	8
乾癬インフリキシマブ療法	87	悪性リンパ腫リツキシマブ・ベンダムスチン療法	8
治験 乳癌NK105療法	85	胃癌メトトレキサート/5FU時間差療法	7
大腸癌ベパシズマブ(5)・sLV5FU療法	84	大腸癌Cetuximab単独療法(2コース以降)	7
乳癌3週ドセタキセル療法(量体表面積)	84	乳癌トラスツズマブ単独3週毎療法(2回目以降)(ゾレトロン酸版)	7
乳癌ベパシズマブ・毎週パクリタキセル療法(ゾレトロン酸版)	83	治験 卵巣明細胞腺癌TC+Temsirrolimus療法GOG268PhaseB	7
臨床試験 TRICOLORE 大腸癌SIRB療法(B群)	79	治験 前立腺癌カバジタキセル療法	7
大腸癌Cetuximab+CPT-11併用療法(2コース以降)	74	急性リンパ性白血病(ALL202 O 維持療法)	7
卵巣癌ゲムシタピン療法	72	再発・難治性成人T細胞白血病リンパ腫モカムリズマブ療法	7
絨毛性疾患メトトレキサート筋注療法(5日間連日)	70	ランゲルハンス細胞組織球症(成人)JLSG-02	7
治験 胃癌ABI-007毎週療法	65	治験 SLEに対するボルテゾミブ療法(皮下注)	7
膵癌ゲムシタピン・S-1(4週)療法	65	臨床試験 大腸癌IRIS+Panitumumab療法	6
治験 胃癌ABI-007 毎週パクリタキセル療法	60	肺癌(非小細胞)カルボプラチン・毎週タキソール療法	6
乳癌ドセタキセル・シクロホスファミド療法(triweekly)	60	肺癌(非小細胞)カルボプラチン・毎週パクリタキセル療法	6
乳癌毎週パクリタキセル療法(量体表面積)(ゾレトロン酸版)	60	悪性黒色腫 3週毎ニホルマブ療法(ニホルマブは処方医登録制)	6
治験 乳癌パクリタキセルweekly療法	59	乳癌トラスツズマブ単独3週毎療法(初回)	6
大腸癌sLVFU療法(外来)	56	卵巣癌(胚細胞腫瘍)BEP療法	6
乳癌エリプリン療法(ゾレトロン酸版)	55	治験 卵巣癌BK-UM/GEM ゲムシタピン単剤	6
膵癌 nab-PTX+GEM療法	54	B細胞性リンパ腫R-GCVP療法	6
切除不能進行再発頭頸部癌Omac+FP療法(初回)	52	治験 再発低悪性度リンパ腫 AUGMENT-RR療法 C1	6
乳癌トラスツズマブ単独療法(2回目以降)	51	臨床試験 ALL-B12 Maintenance+VD SR群	6
子宮肉腫ゲムシタピン・ドセタキセル療法	51	臨床試験 JACLS HR-02(maintenance E)(フィルデシン用)	6
非ホジキンリンパ腫リツキシマブ	51	臨床試験 胃癌Doc/S-1療法(JACCRO GC-03 A群)	5
進行・再発悪性神経腫腫 ベパシズマブ単独療法(2週)	46	胃癌3週ドセタキセル療法	5

大腸癌CapeOX療法	44	大腸癌イリノテカン隔週療法	5
肺癌(非小細胞)PEM/BV療法(CDDP/PEM/BVの維持療法)	44	大腸癌Pmab+modFOLFOX6療法(外来)	5
肺癌(非小細胞)タキソール療法(2時間)	43	子宮体癌ドセタキセル単剤3週間投与	5
肺癌(非小細胞)ドセタキセル療法(2時間)	43	子宮体癌ドセタキセル療法	5
大腸癌ベパシズマブ・CapeOX療法	42	卵巣癌タキソール単剤毎週投与	5
乳癌ドセタキセル・triweeklyトラスツズマブ療法	42	卵巣癌パクリタキセル単剤毎週投与	5
卵巣癌ドセタキセル・カルボプラチン療法	40	ホジキンリンパ腫・未分化大細胞リンパ腫フレツキシマブ・ベトチン療法	5
肺癌(非小細胞)ベパシズマブ維持療法	38	治験 OMB113676 Ofatumumab	5
乳癌ビノレルピン療法	38	臨床試験 JACLS ER-02(maintenance L-Aspなし VP)	5
肺癌(非小細胞)カルボプラチン+nabパクリタキセル療法	37	本態性血小板増加症ラニムスチン療法	5
乳癌ビノレルピン・トラスツズマブ療法(VNB時ゾレドロン酸版)	37	臨床試験 LCH12 早期維持A-a/b	5
乳癌フルベスタント療法(ゾレドロン酸版)	35	絨毛性疾患エトポシド療法(60mg/m ²)	5
臨床試験 JACLS HR-02(maintenance 6-MP ITなし)	35	臨床試験 HER2陽性胃癌SPT3週毎療法(2回目以降)	4
骨髄異形成症候群アザシチン点滴療法	35	胃癌 SOX療法	4
臨床試験 切除不能進行・再発胆道癌Pmab療法(校費)	34	臨床試験 大腸癌T-CORE1201 Cmab+modFOLFOX療法	4
膀胱癌術前GEM-S1療法(Prep-02)	34	治験 rituximab抵抗性悪性リンパ腫OB療法(A群)	4
乾癬性関節炎インフリキシマブ療法	32	慢性リンパ性白血病オファツムマブ導入療法	4
大腸癌 ベパシズマブ+SOX療法	31	臨床試験 JACLS HR-02(maintenance THP)(フィルデシン用)	4
臨床試験 頭頸部癌CSPOR-HN02 PCE療法(2クール目以降)	31	臨床試験 LCH12 後期維持C-a/b	4
乳癌トラスツズマブ・エムタンシン(T-DM1)療法	29	胃癌nab-パクリタキセル療法	3
大腸癌ベパシズマブ(5)・FOLFOX6療法Ca/Mg	28	臨床試験 局所進行直腸癌S-1/CPT-11術前CRT	3
臨床試験 大腸癌T-CORE1201 Cmab+modFOLFIRI療法	28	肺癌(小細胞)アムルピシン療法(1時間)	3
肺癌(非小細胞)カルボプラチン・S-1療法	28	乳癌OEF(シクロホスファミド内服)療法(血管痛時)	3
軟部肉腫ADR単剤療法	28	治験 乳癌 Ro5304020(T-DM1)療法	3
臨床試験 卵巣癌イリノテカン・リトキセル療法	26	臨床試験 卵巣癌イリノテカン・経口エトポシド療法	3
血管肉腫毎週パクリタキセル療法	25	治験 卵巣癌BK-UM/ゲムシタピン併用療法	3
乳癌ゲムシタピン療法	25	治験 OMB113676 Rituximab	3
子宮頸癌 パクリタキセル・カルボプラチン療法	25	臨床試験 悪性リンパ腫JCOG0601 A法	3
卵巣癌リトキセル療法	25	治験 再発低悪性度リンパ腫 AUGMENT-RR療法 C2-5	3
ホジキンリンパ腫ABVD療法	25	血管炎 リツキシマブ療法	3
治験 再発難治性T細胞性リンパ腫Romidepsin療法	25	臨床試験 HER2陽性胃癌SPT3週毎療法(初回)	2
乳癌3週ドセタキセル療法(量体表面積)(ゾレドロン酸版)	24	大腸癌ベパシズマブ・Cape療法	2
乳癌CEF(シクロホスファミド点滴)療法(血管痛時)	24	臨床試験 膀胱癌ゲムシタピン療法【術後:B群】	2
子宮頸癌イリノテカン療法	24	臨床試験 肺癌(非小細胞)隔週nabパクリタキセル療法	2
膀胱癌マイトマイシンC療法	24	乳癌トラスツズマブ単剤3週毎療法(初回)(ゾレドロン酸版)	2
治験 未治療低悪性度リンパ腫GA101 Rituximab維持療法	23	子宮頸癌 4週毎ナドプラチン療法	2
肺癌(小細胞)イリノテカン療法	22	前立腺癌 カバジタキセル療法	2
治験 全身性エリテマトーデスBelimumab療法(2コース目以降)	22	治験 マントル細胞リンパ腫Ibrutinib BR療法	2
非ホジキンリンパ腫CHOP療法	21	治験 rituximab抵抗性悪性リンパ腫OB-Ofa単剤療法(A群)	2
食道癌ドセタキセル療法	20	臨床試験 ALL-B12 IM+VD(SR)中間維持療法 SR群	2
臨床試験 大腸癌T-CORE 0702 IRIS・Bev(7.5)	20	臨床試験 JACLS SR-02(maintenance ITなし)	2
大腸癌Pmab単独療法	19	精巣腫瘍BEP療法	2
絨毛性疾患エトポシド療法	19	胃癌Tmab+DTX療法(初回 T-CORE1203)	1
絨毛性疾患エトポシド療法(100mg/m ²)	19	臨床試験 胃癌Trastuzumab+ドセタキセル療法(初回)	1
大腸癌 パニツムマブ+イリノテカン療法	18	胃癌Tmab+DTX療法(2コース以降 T-CORE1203)	1
臨床試験 膀胱癌術前GEM-S1療法(NAC-GS2+2)	18	臨床試験 胃癌Trastuzumab+ドセタキセル療法(2コース目以降)	1
前立腺癌3週ドセタキセル療法	18	臨床試験 胃癌HER+DTX療法(初回T-CORE1203)(初回)	1
肺癌(非小細胞)カルボプラチン・ベメレキセド療法	17	膀胱癌ゲムシタピン・経口エルロチニブ療法	1
乳癌トラスツズマブ・毎週パクリタキセル療法(量体表面積)	17	治験肺癌(非小細胞)Ipilimumab+TC療法維持期	1
子宮体癌ドセタキセル・カルボプラチン療法	17	乳癌FEC100療法(ホスアプレビタント注版)	1
臨床試験 胆道癌 KHBO1401試験 GC群	16	乳癌ゲムシタピン療法(ゾレドロン酸版)	1
乳癌ビノレルピン療法(ゾレドロン酸版)	16	乳癌nab-パクリタキセル療法	1
乳癌イリノテカン(量体表面積)療法	16	乳癌トラスツズマブ単独療法(初回)	1
乳癌FEC100療法(アプレビタントカプセル)(ゾレドロン酸版)	16	放射線療法併用子宮頸癌アクブラ療法	1
市販後臨床試験乳癌ヘルツマブ・HER、DTX療法2回目以降	16	臨床試験 放射線療法併用子宮頸癌ネダプラチン療法	1
臨床試験 卵巣癌Tciv療法JGOG3019	16	子宮頸癌 ドセタキセル・カルボプラチン療法	1
LGG CBDCA/VCR療法 Maintenance	16	子宮頸癌 シスプラチン化学放射線療法	1
治験 濾胞性リンパ腫 Ibrutinib BR療法	16	子宮体癌アドリアマイシン・シスプラチン療法	1
治験 rituximab抵抗性悪性リンパ腫Ben療法(B群)	16	卵巣癌イリノテカン・マイトマイシンC療法	1
大腸癌Cetuximab+CPT-11併用療法(初回)	15	☆症例限定☆頭頸部癌Cmab単剤(2回目以降 250mg/m ²)	1
治験 胃癌ABI-007 3週療法	14	治験 non-GCB DLBCL Ibrutinib R-CHOP療法	1
治験大腸癌AVE0005+FOLFIRI療法	14	臨床試験 ALL-Ph13 IB-da(スプリセル60mg/m ² 朝po)	1
臨床試験 胆道癌 KHBO1401試験 GCS群	14	臨床試験 JACLS HR-02(maintenance 6MP radあり)	1
治験 肺癌(非小細胞)ラムシルマブ+ドセタキセル療法	14		

薬剤部

安全・安心ながん化学療法の実現に向けた薬剤部の取り組み

教授・薬剤部長 眞野 成康

薬剤師は、プロトコールの登録と管理を通してがん化学療法の標準化を推進すると共に、患者様に有効かつ安全ながん治療を提供するために、一つひとつのステップを慎重に確認しながら薬剤を準備しています。また、がん化学療法について患者様に分かりやすく説明し、安心してがん治療を受けていただけるよう積極的に治療に参画しています。

〈化学療法センター事務局〉

薬剤部は、化学療法センター事務局業務を行っており、がん化学療法に関するプロトコール審査委員会を運営するとともに、治療プロトコールの審査、登録および管理を行っています。多くのプロトコールでは、多種類の薬剤を組み合わせる化学療法を実施しますが、薬剤師は、治療効果のみならず、同時に使用する薬剤の相互作用による副作用の増強の可能性や、それらへの適切な対処などを含め、安全性の観点からも各プロトコールの有用性や妥当性を審査しています。今日のがん化学療法の進歩は目覚しく、日々新たなエビデンスに基づくプロトコールが作成されています。平成 27年 3月末現在、当院では治験や臨床研究で用いるものも含めて 658種のプロトコールが登録されています。また、そのうち 125種のプロトコールを当院がんセンターのホームページ上で公開しており、地域の連携病院におけるがん治療の標準化に貢献しています。一方、治療法の進歩に伴って使用されなくなったプロトコールを客観的に再評価しており、常に最新の医療を患者様に提供することを心がけております。

〈化学療法センターにおける注射用抗がん薬の混合調製〉

注射用抗がん薬の混合調製は、患者様の安全確保と調製者の化学曝露防止の観点から、高度な知識と技術に基づいて無菌環境下で正確に行う必要があります。当院薬剤部では、調製手順表示機能と計量監査機能を有する抗がん剤調製支援システムを独自に開発し、これを活用して精度の高い調製を実現しています。近年のがん治療の急速な進歩に伴って化学療法センターで扱う処方箋枚数も増大しており、平成26年度は 11,365枚にも上っております。当院では、入院、外来にかかわらず、登録されたプロトコールに基づいて実施されるすべてのがん化学療法における調剤および混合調製を薬剤部が担当しています。薬剤師が患者様の体重や体表面積、血清クレアチニン値などの検査値、アレルギー歴、薬歴などを基に処方箋監査を行ったうえで、上記のシステムを駆使して高精度の混合調製を行っており、安全ながん化学療法の実現に貢献しております。

＜オリエンテーションと薬剤管理指導の実施＞

外来がん化学療法は、患者様の QOL が向上する反面、帰宅後の副作用に基づく体調変化には、患者様ご自身に対処していただく必要があります。したがって、抗がん薬の副作用とその対処法について、事前に患者様に十分にご理解いただくことが重要であり、がん治療で化学療法センターを利用される全患者様を対象に、治療前にオリエンテーションを行っております。ここでは、がん化学療法の基本を記載した「がん化学療法のしおり」を活用しており、薬剤師は①がん化学療法の概要、②予想される主な副作用とその発現時期や対処法について説明し、看護師は①点滴中の注意事項、②日常における体調管理のポイントを説明することで、安心してがん化学療法と向き合えるよう患者様を支援しています。また、初回治療時には、プロトコールごとに薬剤部で独自に作成した患者用説明書を用いながら、治療スケジュールと抗がん薬の作用機序、予想される副作用の発現時期や頻度、その対処法を具体的に説明しています。こうした取り組みにより、在宅時においても、患者様およびご家族が適切に対処できるよう、安全・安心な治療の実現に向けて患者様のサポートに努めております。

＜薬・薬・医連携の強化＞

「薬・薬・医連携」とは保険薬局の薬剤師、病院の薬剤師および医師が情報を共有し、相互に連携することによって、患者様に安全でより質の高い医療を提供するシステムのことです。保険薬局の薬剤師ががん患者様に適切に医療を提供するには、医療者間の有機的な連携がきわめて重要となります。当院化学療法センターでは、「薬・薬・医連携」を推進しており、がん種や治療スケジュールの内容、及び患者様の体表面積を記載したシールを「お薬手帳」に貼付し、保険薬局の薬剤師に情報提供する仕組みを構築しました。また、患者様が内用抗がん薬と麻薬性鎮痛薬の服薬状況や、副作用の発現状況を毎日記入できる「治療手帳」を作成し、治療時に利用しております。これにより、医師、薬剤師、看護師が患者情報を共有できるうえ、病院及び保険薬局の薬剤師が必要な情報をその都度自由に記載し、医療施設を超えてより密な連携が図れるようになりました。

このように薬剤部では、患者様に対し、安全・安心ながん化学療法を提供するため、医療スタッフ間で連携しながら様々な業務に取り組んでおります。今後とも皆様のご協力をお願い致します。

緩和ケアチーム

東北大学病院緩和ケアチームは平成 19 年 1 月運用が開始され、平成 24 年 7 月より緩和ケア診療加算（1 日につき 400 点）をとるようになりました。また平成 25 年 2 月から緩和ケアチーム外来も開設しました。今年度は緩和ケア診療加算を 1234 件とりました（図 1）。

当院の緩和ケアチームは、緩和医療科医師 3 名、腫瘍内科医師 1 名、呼吸器内科医師 1 名、精神科医師 2 名、薬剤師 3 名、がん性疼痛看護認定看護師 2 名、緩和ケア認定看護師 3 名、リンパドレナージセラピスト看護師 1 名、地域医療連携担当看護師 1 名、メディカルソーシャルワーカー 1 名、管理栄養士 1 名、作業療法士 1 名、歯科医師 1 名と歯科衛生士 1 名で活動しています。通常は専従医師と看護師で回診することが多いのですが、毎週金曜日の 14 時から 17 階ホールに上記のメンバーが集まり、緩和ケアチームカンファレンスを開催し、その後回診を行っています。

平成 26 年度緩和ケアチームへの新規依頼患者は 169 名で、昨年より 50%増加しています。がん患者が 149 名、非がん患者が 20 名、入院が 154 名、外来が 15 名で 15 歳以下の小児期患者が 1 名でした。診療科別では乳腺内分泌外科 27 名、泌尿器科 20 名、血液免疫科 18 名、腫瘍内科 14 名、呼吸器内科 13 名、婦人科 12 名、放射線科 9 名、消化器内科・耳鼻科が各 8 名、肝胆膵外科 7 名、循環器内科 6 名、整形外科 5 名、脳神経外科・腎高血圧内分泌科・歯科が各 4 名、皮膚科が 3 名、呼吸器外科・糖尿病代謝科・リハビリテーション科・神経内科・産科が各 1 名でした。また院外患者の緩和ケアチーム外来への依頼も 2 名ありました（図 2）。

依頼内容は疼痛コントロールが 133 件で、呼吸苦や嘔気・嘔吐・便秘など疼痛以外の身体症状が 48 件、不安や不眠、せん妄、抑うつ症状など精神症状が 103 件、家族ケアが 20 件、今後の療養先の相談が 12 件、その他薬剤経路の変更等が 5 件でした（図 3）。

依頼ケースの転帰は、28%が退院となり、26%が死亡、14%が他の病院へ転院、15%が 17 階緩和ケア病棟への転科、入院継続が 8%、外来患者が 9%となっています（図 4）。

昨年度から実施していた乳腺内分泌外科と腫瘍内科の合同カンファレンスに加えて、今年度は血液免疫科と婦人科との合同カンファレンスにも参加させていただくようになりました。合同カンファレンスを行うことで、情報の共有とよりタイムリーな緩和ケアの提供ができるようになりました。

また今年度も看護部のがん看護検討委員会に協力していただき、昨年度伺わなかった 13 病棟を訪問し、緩和ケアチームの役割とチームへの依頼方法について説明させていただく機会を得ることができました。これらの病棟訪問と各科への合同カンファレンスへの参加を通じて緩和ケアチームへの依頼件数が増加しているのだと思います。

来年度から緩和ケアセンターとして新たな活動を行うため、院内に緩和ケアセンター設置準備委員会が組織されました。また宮城県がん診療連携協議会緩和ケア部会でも緩和ケアセンター設置に向けて協働していくための話し合いを行っています。

文責：武田 真恵

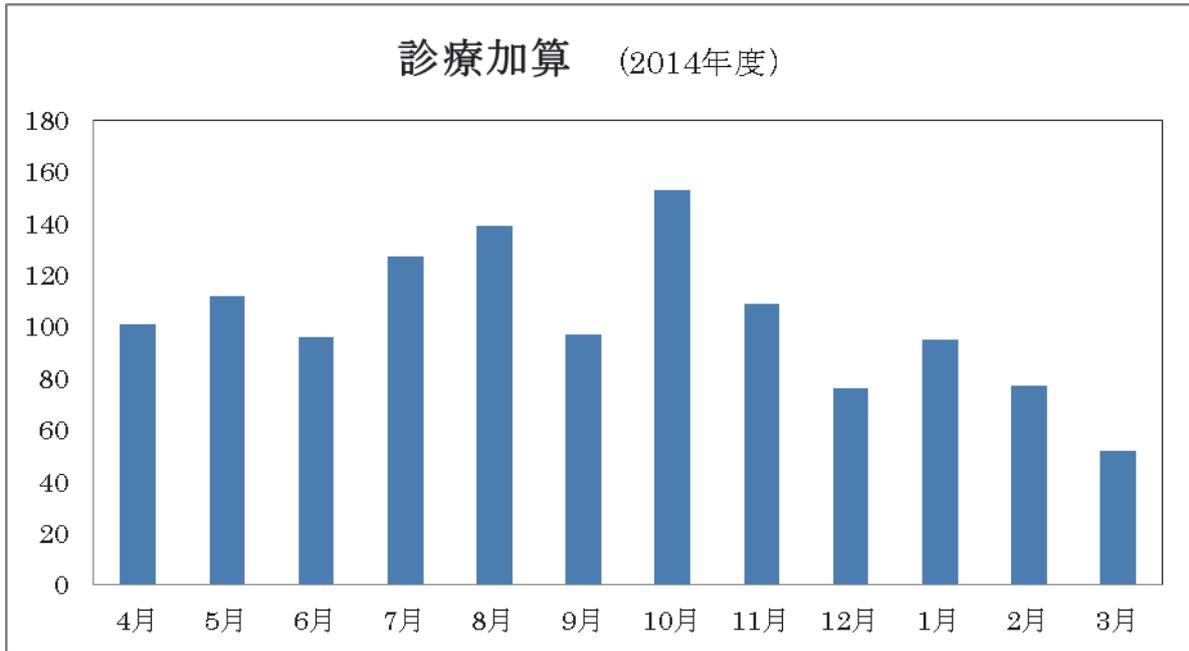


図 1

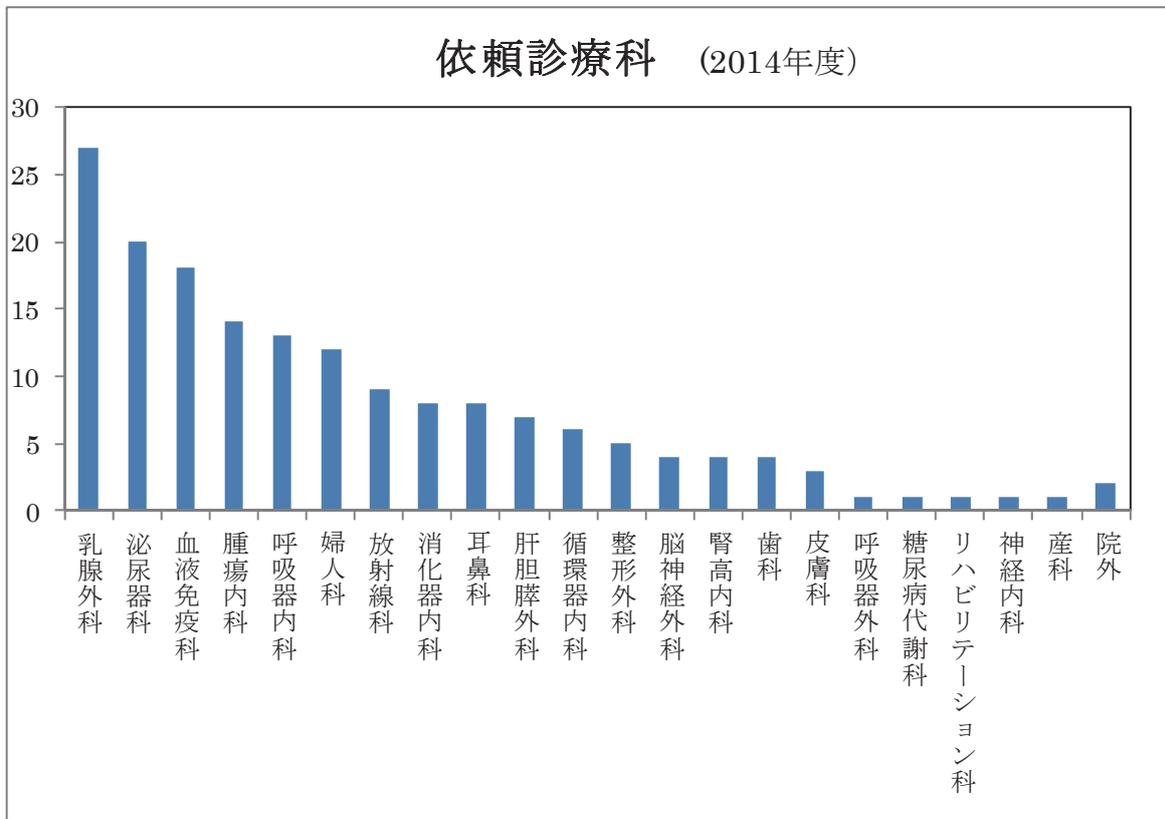


図 2

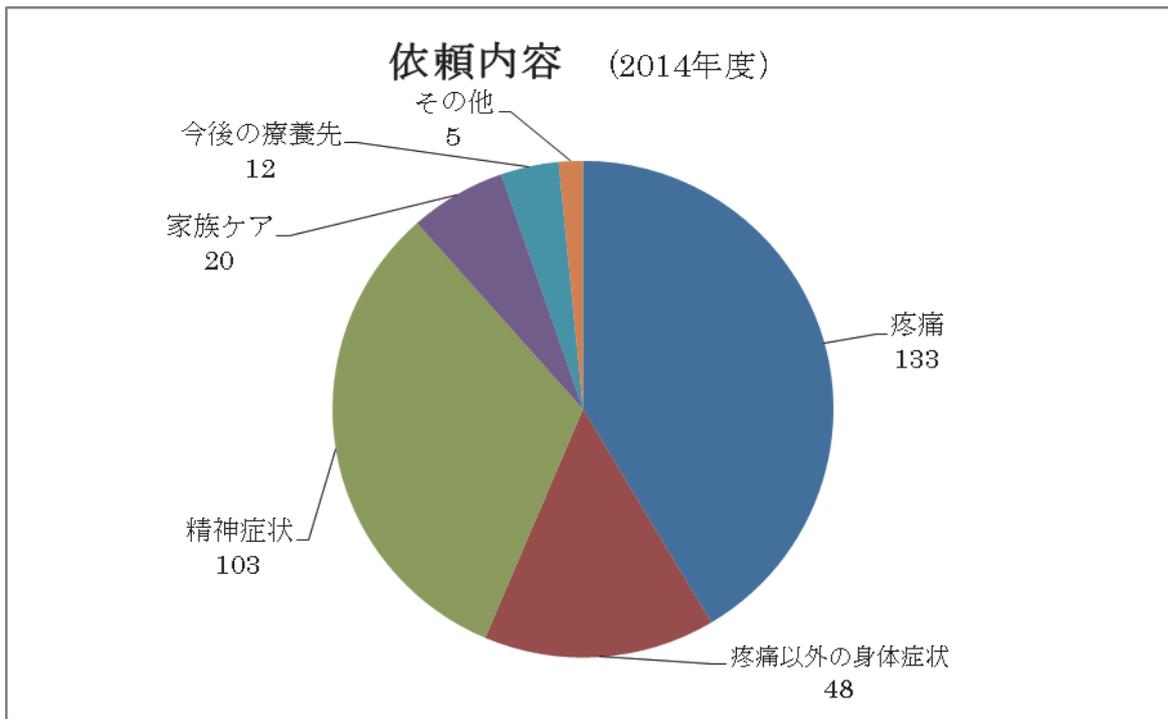


図 3

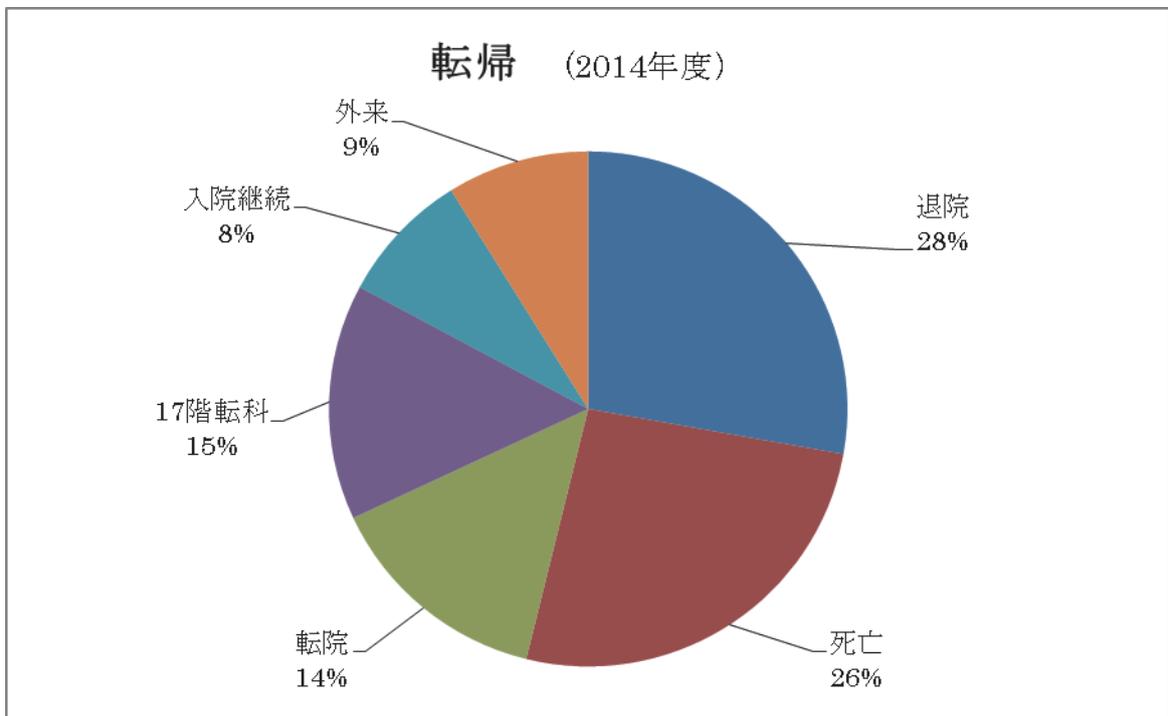


図 4

先進包括的がん医療推進室長
森 隆弘

はじめに

厚生労働省補助金による宮城県地域医療再生事業の地域がん医療再生を推進する目的で、東北大学病院がんセンターに「先進包括的がん医療推進室（以下、推進室）」が開設されてから3年が経過した。推進室開設当時の問題として、医療資源の仙台集中、特に在宅療養支援機能を有する医療施設も仙台に集中し、在宅・緩和医療に関する連携ネットワークは仙台近郊や特定の一部施設に限られていた。また東日本大震災直後と言うことで沿岸部（気仙沼地区、石巻地区、仙台市や県南の沿岸部）は壊滅的な被害を受け、これらの地区のがん医療、とくに開業医による在宅医療システムが多くで破綻した。その後、この面での復興も、関連した医療者のご努力もあって、目覚ましいものであった。このような医療事情から推進室としてはこれまでは、特に仙台市以外での活動を重視してきたつもりである。地域医療機関との間で人的・知的ネットワークを開発・形成することでこれらの問題を解決する方策を探ることを目的として活動を行ってきたが、これまでの3年間で見えてきたものがあり、今年度は以下の活動を行った。

I. がん患者・患者会支援 関係

長期目標：がんの患者同士が互いに支え合い、病に向き合うことができる

短期目標：ピアサポーターの育成と患者会間のネットワーク形成の後押しを継続する

1.ピアサポーター育成研修

事業・活動名	実施月日	場所	内容	対象・人数	共催
ピアサポーター育成研修（仙台地域）開催	H26年7月4日、18日	東北大学病院キャンサーボード室	講義・DVD視聴・グループワーク	がんの患者、家族、支援者25名	東北大学病院がん診療相談室
ピアサポーター育成研修（石巻地域）開催	H26年12月9日、16日	宮城県石巻合同庁舎仮設003会議室	講義・DVD視聴・グループワーク	がんの患者、家族、支援者24名	石巻赤十字病院、宮城県石巻保健所

2.宮城県内がん患者会・サロンのネットワーク形成事業

事業・活動名	実施月日	場所	内容	対象・人数	共催
宮城県がん患者会・サロン情報交換会(研修会)開催	H26年7月28日	宮城県庁1802会議室	情報交換・グループワーク・情報提供	がん患者会、サロン代表、メンバー、世話人25名(17団体)	宮城県がん総合支援センター(宮城県対がん協会内)
	H26年11月27日	TKP ガーデンシティ仙台勾当台ホール3	情報交換・グループワーク	同上24名(15団体)	
			講話 講師：仙台青葉学院短期大学看護学科成人看護学分野 教授 根本 良子 先生 「がん患者会・サロン活動に期待すること」		
	H27年3月12日		情報交換・グループワーク	同上16名(12団体)	

がん患者団体連絡協議会に関する情報収集	H26年10月21日	群馬県健康づくり財団	群馬県がん患者団体連絡協議会の設立経緯や運営状況等の情報収集	群馬県健康づくり財団ご担当者2名	
がん患者会・サロン訪問	H26年10月21日	登米市	患者会・サロン活動に関する情報収集	タオル帽子工房「えがお」代表1名	
	H26年10月21日	大崎市民病院		りんりんの会代表1名、大崎市民病院がん患者会藤の会代表1名、大崎市民病院担当者2名	
宮城県がん総合支援センターとの話し合い	H26年4月15日、6月29日、9月30日、H27年2月12日	宮城県がん総合支援センター、当院がんセンターボード室	患者会支援、ピアサポーター育成研修会等に関する話し合い	宮城県がん総合支援センター相談員2名、宮城県対がん協会ご担当者2名	

3.がん患者・家族向け研修会

事業・活動名	実施月日	場所	内容	対象・人数	共催
がんの患者と家族のための研修会 開催	H26年11月1日	TKP ガーデンシティ仙台 ホールB (AER21階)	講義 講師：宮崎善仁会病院、NPO 宮崎がん共同勉強会理事 長 押川 勝太郎 先生 「がんに振り回されないための患者力」	がんの患者、家族、支援者 135名	東北がんプロフェッショナル養成推進プラン

II. がん相談 関係

長期目標：宮城県内のがん患者と家族が必要な情報収集や相談により、自らが望む医療と療養生活を選択することができる

短期目標：宮城県内のがん相談支援センターと協働し、センターの周知活動を行う

1. がん相談支援センター広報用資材の作成と配布

事業・活動名	実施月日	場所	内容	対象・人数	共催
がん相談支援センター広報用資材郵送と配布協力依頼	H26年4月15日		チラシ・カード・カードスタンドの発送	宮城県内地域包括支援センター118か所	
	H26年6月、12月			東京海上日動仙台生保支社	

2.宮城県がん相談実務者との情報共有

事業・活動名	実施月日	場所	内容	対象・人数	共催
宮城県がん相談実務者会議への出席	H26年5月14日	石巻赤十字病院	報告・意見交換・情報交換「今年度の計画について」等	県内がん相談支援センター相談実務者	

	H26年8月29日	大崎市民病院	報告・意見交換・大崎市民病院見学 意見交換「実務者会議は宮城の強み～相談員サロン～日頃どんなことで困難を感じますか?どうしたら解決できると思いますか?」		
	H26年11月18日	仙台厚生病院	報告・意見交換・講義 講師：東北大学病院がん診療相談室 相談員 本間 とし子 氏 「がん相談支援センターの役割について」		
	H27年2月13日	仙台オープン病院	報告・意見交換 「今後のがん相談員研修について」		

3.がん相談支援センター広報活動に関する情報発信

事業・活動名	実施月日	場所	内容	対象・人数	共催
平成 26 年度地域相談支援フォーラム(東北ブロック)(主催:国立がん情報センター)での話題提供	H26年7月26日	仙台国際センター 桜	話題提供:真溪 淳子 「1施設を超えて患者さんとご家族を支えるためにできること」	東北・北海道がん相談実務者 130名	
みんなで宮城のがん相談を考えよう(主催:日本対がん協会)での話題提供	H27年2月3日	仙台サンプラザ 会議室カトレア	話題提供:真溪 淳子 「がん相談支援センターの広報活動とがん情報の地域発信について」	がん患者、一般市民、専門職 38名	

Ⅲ. 緩和ケア・在宅医療 関係

長期目標：地域住民と専門職が在宅緩和ケアについて理解し、自分たちの課題として緩和ケアの推進に取り組むことができる

短期目標①：関係機関と協働し、地域住民と専門職に対して緩和ケアの啓蒙・啓発を行う

1.地域連携システム構築のための関係機関との協働

事業・活動名	実施月日	場所	内容	対象・人数	共催
気仙沼がん緩和ケア実践コミュニティ 第2回カンファレンス開催	H26年5月26日	気仙沼市立病院 4階会議室	話題提供・ディスカッション 話題提供者： 気仙沼市立病院がん相談支援センター MSW 岩淵 巧氏 「気仙沼市立病院がん相談支援センターの現状報告」 MSW 佐藤 洋美氏 「社会資源とは～がん患者の関わり～」	気仙沼市立病院 医師、看護師、薬剤師、MSW、理学療法士等、宮城県気仙沼保健所保健師 58名	気仙沼市立病院がんケア委員会、がん相談支援センター

塩釜地域	がん患者・家族地域支援推進連絡会議(主催:宮城県塩釜保健所)での話題提供	H26年9月26日	宮城県自治会館 201.202会議室	話題提供・意見交換 話題提供:真溪 淳子 「地域におけるがん患者・家族支援と多職種連携について」	塩釜保健所管内病院、在宅クリニック、訪問看護ステーション、居宅介護支援事業、訪問介護事業所、地域包括支援センター、市町村等 50名	
	がん患者・家族地域支援推進事業研修会 開催	H27年1月16日	TKP ガーデンシティ仙台 ホールB (AER21階)	講義 講師:岩手県立中部病院地域医療課長兼地域医療福祉連携室長兼緩和医療課長 星野 彰 先生 「地域で取り組む緩和ケア～がんになっても安心して暮らせる町をめざして」	塩釜保健所管内病院、在宅クリニック、訪問看護ステーション、居宅介護支援事業、訪問介護事業所、地域包括支援センター、市町村等 119名	宮城県塩釜保健所
仙南地域	平成26年度緩和ケア講演会(市民公開講座) 開催	H26年12月6日	大河原町駅前コミュニティセンター「オーガ」	講演・寸劇 講師:みやぎ仙南中核病院 杉山 克郎 先生 「患者と考え地域で支えるがん医療」 寸劇:60歳からの楽しいクラブ活動の皆さんと仙南在宅ホスピス連絡会メンバー他 「あなたや家族ががんと診断されたら」	一般市民、専門職、仙南地域在宅ホスピス連絡協議会会員 84名	仙南地区在宅ホスピス連絡会、宮城県仙南保健所、大河原町
		H27年1月17日	白石市健康センター	講演・寸劇 講師:みやぎ仙南中核病院 杉山 克郎 先生 「患者と考え地域で支えるがん医療」 寸劇:白石市役所職員他 「あなたや家族ががんと診断されたら」	一般市民、専門職、仙南地域在宅ホスピス連絡協議会会員 110名	仙南地区在宅ホスピス連絡会、宮城県仙南保健所、白石市
	市民公開講座開催に向けての話し合い	H26年6月27日	宮城県仙南保健所 201会議室	話し合い・情報交換 「緩和ケア普及・啓発市民公開講座の開催について」	宮城県仙南保健所 3名	
	平成26年度仙南地区ホスピスケア連絡会講演会準備会 出席	H26年10月7日	宮城県大河原合同庁舎 201会議室	話し合い 「市民公開講座の内容について」	仙南地区在宅ホスピス連絡会、仙南保健所	
	平成26年度仙南地区在宅ホスピスケア連絡会世話人会(第2回)出席	H26年11月19日		協議事項 「平成26年度市民公開講座について」 「平成27年度事業計画について」		
	大崎地域	大崎地域がんに関する研修会(主催:大崎保健所)講師派遣	H26年9月17日	宮城県大崎地域合同庁舎	講演 講師:吉田 久美子 「がんは身近な病気ですあなたにできることは?～がんの体験を踏まえて～」	大崎保健所管内一般市民 220名
石巻地域	石巻地域の情報収集	H26年9月1日	石巻保健所	情報収集 「石巻地域の在宅緩和ケアの現状について」	石巻保健所ご担当者 2名	

2.在宅緩和ケア推進を目的とした支援者支援

事業・活動名	実施月日	場所	内容	対象・人数	共催
がんの患者を地域で支えるための支援者研修会 開催	H26年9月4日	TKP ガーデンシティ仙台 ホールD (AER30 階)	講演 講師：東北大学大学院医学系研究科地域がん医療推進センター兼東北大学病院がんセンター先進包括的がん医療推進室長 森 隆弘 教授 「がん治療と地元で必要なこと」 講師：東北大学病院がん診療相談室 相談員 本間 とし子 氏 「がん相談支援センターの取り組みとがん患者が抱える悩み」	がん患者支援に携わる医療、保健、福祉、介護関係者 130名	宮城県、仙台市、東北がんプロフェッショナル養成推進プラン
	H26年10月30日		講演・活動報告 講師：東北大学病院緩和医療科科長 特命教授 中保 利通 先生 「がん緩和ケアとがん患者・家族への支援」 活動報告： ホットサロンとめ 代表 鈴木 玲子 氏 「ホットサロンとめの活動報告」	同上 135名	
	H26年12月4日		講演 講師：医療法人社団爽秋会岡部医院 院長 佐藤 隆裕 先生 「在宅がん緩和ケアにおける多職種連携の実際」 講師：東北大学大学院医学系研究科保健学専攻公衆衛生看護学分野 助教 田口 敦子 先生 「多職種連携のポイントと地域包括ケアシステムの構築を目指して」	同上 110名	
みんなで考えるがん患者支援のための講演会 開催	H27年2月18日	TKP ガーデンシティ仙台 ホールD (AER30 階)	講演 講師：帝京大学医学部内科学講座腫瘍内科 准教授 渡邊 清高 先生 「がんにおける地域連携と情報提供のこれからを考えよう」 講師：医療法人社団爽秋会岡部医院 河原 正典 先生 「在宅がん緩和ケアの方向性について」	病院、在宅ケア、行政関係者 81名	東北がんプロフェッショナル養成推進プラン 後援：宮城県、仙台市

がんの標準治療とがん患者ケアに関する研修会 開催	H27年3月6日	TKP ガーデンシティ仙台 ホールD (AER30 階)	講演 講師：東北大学大学院医学系研究科地域がん医療推進センター兼東北大学病院がんセンター先進包括的がん医療推進室長 森 隆弘 教授 「がん医療の現状と地域がん医療における多職種連携の必要性」 講師： 国家公務員共済組合連合会東北公済病院外来化学療法室 がん化学療法看護認定看護師 菅野 真貴 氏	がん患者支援に携わる医療、福祉、介護従事者 85名	東北がんプロフェッショナル養成推進プラン
--------------------------	----------	------------------------------	--	---------------------------	----------------------

短期目標②：患者と家族が生活している地域の行政機関(市町村)にがん患者支援担当部署(担当者)の設置をめざす

1. 宮城県との協働

事業・活動名	実施月日	場所	内容	対象・人数	共催
宮城県保健福祉部疾病・感染症対策室がん対策班との情報交換・話し合い	H26年4月15日、5月29日、7月8日、12月8日、H27年3月20日	宮城県庁	事業の展開における協働方法等について	宮城県保健福祉部疾病・感染症対策室がん対策班ご担当者 2名	
平成 26 年度がん患者・家族支援対策推進事業担当者会議(主催：宮城県) 情報提供・協力依頼	H26年4月15日	宮城県自治会館 204 会議室	討論・活動報告 「宮城県のがん対策について」「平成 25 年度がん患者・家族支援に係る事業実績について」「平成 26 年度がん患者・家族支援に係る事業について」 活動報告：真溪 淳子 「東北大学病院がんセンター先進包括的がん医療推進室の取組について」	宮城県疾病感染症対策室がん対策班・宮城県保健所がん患者支援担当者 13名	
市町村生活習慣病予防対策(がん検診・特定健診)担当者会議(主催：宮城県) 情報提供・協力依頼	H26年4月15日	宮城県自治会館 201、202 会議室	宮城県がん対策の説明・市町村取組紹介・講演 講師：東北大学大学院医学系研究科地域がん医療推進センター兼東北大学病院がんセンター先進包括的がん医療推進室長 森 隆弘 教授 「がん医療の現状と地元で必要なこと～外来中心の治療と最善な環境(自宅)の提供」	宮城県内市町村(がん検診・特定健診)担当者、宮城県保健所がん患者支援担当者、宮城県疾病感染症対策室がん対策班 72人	

2. 市町村との協働

事業・活動名	実施月日	場所	内容	対象・人数	共催
仙台市役所 訪問	H26年7月17日	仙台市役所	研修会「がん患者を地域で支えるための支援者研修会」の共催依頼・情報提供	仙台市健康福祉局保険高齢部高齢企画課ご担当者、保健衛生部保健医療課ご担当者 2名	宮城県保健福祉部疾病・感染症対策室がん対策班長同行

IV. 全体

長期目標：宮城県内のがん患者と家族が必要な情報収集や相談により、自らが望む医療と療養生活を選択することができる(Ⅱ.がん相談関係と同じ)

短期目標：宮城県内のがん医療と療養生活に関する適切な情報を発信する

事業・活動名	実施月日	場所	内容	対象・人数	共催
宮城県版がん情報ポータルサイト「がん情報みやぎ」の維持・更新・広報活動	H26年8月26日	東北大学病院キヤンサーボード室	第5回がん情報みやぎワーキンググループ会議 開催	「がん情報みやぎ」ワーキングメンバー 12名	
	H26年7～9月		掲載情報の更新確認作業		
	H27年1月		「緩和ケア特集」ページの追加		
	H26年4月15日		がん情報みやぎ広報用チラシ・カード・カードスタンドの発送	宮城県内地域包括支援センター 118か所	
宮城県内のがん患者団体・専門機関・NPOの紹介パネル展 開催	H26年6月12～14日	仙台情報・産業プラザ 展示スペース(AER 5階)	県内のがん患者会・サロンと関係機関の活動内容に関するパネル展示 情報提供団体 18団体・施設	がん患者、一般市民、専門職 110名	NPO 法人東北臨床腫瘍研究会

V. 先進包括的がん医療推進室としての活動

事業・活動名	実施月日	場所	内容	対象・人数	共催
平成 24～25 年度東北大学病院がんセンター先進包括的がん医療推進室活動報告会 開催	H26年6月12日	ホテルメトロポリタン仙台 芙蓉	活動報告： 室長 森 隆弘、秋山 聖子(現仙台医療センター)、真溪 淳子	関係者の皆様 45名	NPO 法人東北臨床腫瘍研究会

<p>第3回国連防災世界会議パブリック・フォーラム「震災時のがん医療」開催</p>	<p>H27年3月14日</p>	<p>東北大学川内北キャンパス C201</p>	<p>講演 演者：東北大学病院総合地域医療教育支援部 石井 正 先生 「石巻医療圏における東日本大震災への対応と次への備え」</p> <p>演者：石巻赤十字病院消化器内科部長 赤羽 武弘先生 「東日本大震災の経験から学んだこと」</p> <p>演者：山形大学医学部東北未来がん医療学講座 助教 萩原 靖倫 先生 「東日本大震災で東北がんネットワーク[放射線治療専門委員会]が果たした役割」</p> <p>演者：石巻赤十字病院 がん看護専門看護師/緩和ケア認定看護師 菅野 喜久子氏 「東日本大震災の被災沿岸地域の医療者へのインタビュー調査に基づく災害時におけるがん患者の緩和ケア・在宅医療のあり方に関する研究」</p> <p>演者：東北大学災害科学国際研究所災害医学研究部 災害産婦人科分野 教授 伊藤 潔 先生 「東日本大震災が子宮がん検診に及ぼした影響と対策」</p>	<p>医療関係者、専門職 55名</p>	<p>東北がんプロフェッショナル要請推進プラン、未来医療研究人材養成拠点形成事業「コンダクター型総合診療医の養成」、NPO 法人東北臨床腫瘍研究会</p>
<p>COP 通信の作成と発行 (第7～10号)</p>	<p>H26年4月、7月、10月、1月</p>		<p>当推進室の活動報告</p>	<p>当院広報誌発送先 3300か所に発送 (広報誌hessoと共に発送)</p>	

終わりに

以上の活動は推進室に所属する各スタッフが、巻頭の目標に向かって各々主体的に行動した結果である。それぞれの活動は独立しつつも、緊密に連携しており、そういった活動の経過は定期的な広報紙「COP 通信」をご覧いただければ、おわかりいただけると思われる。いずれも効果的な企画であり、それらは参加者数からも裏付けられる。ここに各スタッフの努力に敬意を表する次第である。次年度は本プロジェクトの最終年度であるが、上記のプロジェクトはいずれも将来の宮城県のがん医療に必要な不可欠なものである。何らかの形でこれらの活動を宮城県が今後も継続・発展させることを期待してやまない。

3. 東北がんプロフェッショナル養成推進プラン

東北がんプロフェッショナル養成推進プラン

統括コーディネータ 石岡千加史

東北がんプロフェッショナル養成推進プランは、東北大学、山形大学、福島県立医科大学、新潟大学の4大学協定による共同プランです。当プランは、高齢化社会における地域のがん医療の課題解決のため、地域がん医療に貢献するがん専門医療人養成に重点を置きました。宮城、山形、福島および新潟の4県の地域のがん医療水準を向上させるために、がん診療連携拠点病院と連携して放射線治療、化学療法、緩和医療、外科治療、歯科治療の専門医、がん看護専門看護師、がん専門薬剤師、医学物理士などのがん専門医療人を養成します。

当プランでは、がん医療に必要な学識と技能や国際的レベルの臨床研究を推進する能力を育み、大学、地域、多職域（医療チーム）、患者会が連携して在宅医療や緩和ケアを含めた地域のがん医療とがん研究を推進するための広域かつ包括的教育プログラムを提供します。教育システムは、宮城、山形、福島、新潟県の4大学の大学院医学研究科が中心となり、大学間、学科間、専攻間、大学一病院間連携を含む高度な教育システムです。がん医療者養成のために重要な基盤学識形成のための講義・臨床腫瘍学特論は、大学間、学科間、専攻間で共有し、e-ラーニング（東北大学インターネットスクール:ISTU）により履修することが可能です。ISTU システムは、講義履修の空間的・時間的問題を解決し、履修者の十分な実習時間の確保を可能にします。東北大学においては病院がんセンターと連携して、専門医等のがん専門医療従事者の指導の下でがん専門医療従事者の養成に必要な様々な臨床トレーニングを行います。さらに、実習の一部は大学外の連携するがん診療拠点病院での履修が可能であり、専門資格取得のためにより多くの臨床経験を積み、専門資格取得後の就職を円滑に行えるような教育システムを実現します。連携4大学が教育コアとして大学院に新たに3つの講座やセンターと42の教育コースを設置し、地域のがん診療連携拠点病院（以下、がん拠点病院）等との連携により、多職域のがん専門医療人を養成し地域の人材交流を推進します。例えば、東北大学では平成25年4月に医学系研究科に地域がん医療推進センターを設置（専任の教授と講師が着任）し、東北大学病院がんセンターの先進包括的がん医療推進室と協力して宮城県を中心とする地域がん医療のボトムアップのための活動を開始しています。また、平成27年3月14日にごんプロ教員が中心になって第3回国連防災世界会議パブリックフォーラム「災害時のがん医療」を開催しました。

本プランの運営体制は、新たに新潟が参加する東北がん評議会（医学系研究科長、がん拠点病院、職能団体、行政が委員として参加）が本プランのアドバイザー・コミティと

なり、各団体が円滑に連携して本プランを推進します（平成 24 年度と 26 年度に開催、および 28 年度に開催予定）。本プランの意思決定と事業運営は 4 大学合同の運営委員会（統括コーディネータ、分担コーディネータ、コース責任者が委員として参加）が行います。また、本プランの成果は、各県のがん拠点病院の事業責任者、各職域の学識経験者、患者団体代表者等からなる評価委員会で年 1 回進捗や効果を評価します（平成 27 年 3 月 27 日に実施）。学内外の関係者の御協力がなければ本プランの目標達成はなし得ません。今後とも本プランへの御理解と御協力を宜しくお願い申し上げます。

4. 東北大学病院化学療法センター看護業務概要

平成26年度 東北大学病院・化学療法センター看護業務報告

化学療法センター

看護師長 松田 千恵子

1. 看護要員

- ・東4階（化学療法センター・腫瘍内科外来）看護要員13名（看護師長1名、副看護師長1名、常勤看護師8名、部分休業看護師1名、パート看護師1名、パート助手1名）のうち、化学療法センターの看護師は、9名の専任体制（がん化学療法認定看護師1名を含む）をとっている。クラークは、化学療法センター・腫瘍内科外来兼務で2名配置されている。
- ・勤務体制は、通常8時30分～17時15分と遅番（9時30分～18時15分）2名の体制とし、治療時間の延長に対応している。

2. 投与実績

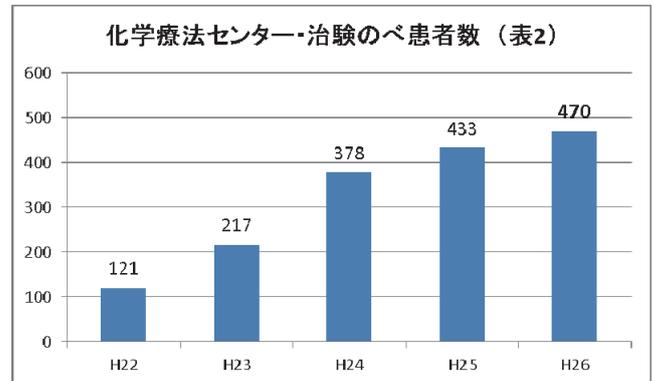
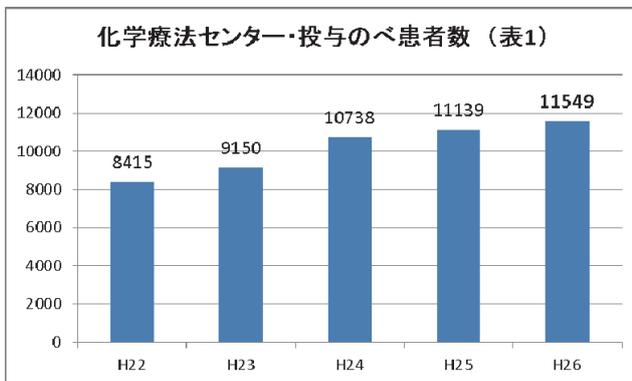
投与のべ患者数：11549名（表1）

(1) 外来化学療法

- ・総治療件数の約2割は、関節リウマチ、クローン病等に対する生物学的製剤治療であった。
- ・小児のべ患者数：145名

(2) 抗がん剤治療のべ患者数：470名（表2）

- ・件数の大幅な変動はなかったが、モニタリングの必要な治療が増加した。
- ・臨床試験推進センターとは定期ミーティング（1回/2ヶ月）を行い、さらに治療係がスタートアップミーティングに参加し連携を図りながら治療を実施した。



(3) 筋肉注射・皮下注射

① 筋肉注射

- ・メソトレキサート：86件
平成25年3月より、メソトレキサートの筋肉注射を婦人科限定で実施している。
- ・フェソロデックス：138件

② 皮下注射

- ・ベルケイド：181件
平成26年8月より、ベルケイドの皮下注射を血液免疫科限定で実施している。
- ・ランマーク：266件

3. 主な業務状況・実績

1) リスクマネジメント

(1) 情報共有

①業務ミーティング：毎朝 8 時 30 分～8 時 40 分

～看護師間で、治療予定患者のアレルギー、血管トラブル、転倒転落ハイリスク因子等の情報と対応について情報共有を行った。

②薬剤師・看護師ミーティング：毎日 16 時 30 分～16 時 45 分

～当日の投与状況（アレルギー等）、翌日の投与患者の情報、薬剤知識の共有等を行った。

③化学療法センターミーティングの定期開催（月 1 回・第 4 木曜）：9 回開催した。

④診療科、外来看護師とのミーティング：今年度は 9 診療科と実施した。診療科により開催回数異なるが、問題点や要望等を検討し業務改善に繋げた。

⑤プロトコール審査委員会への参加：今年度からスタッフ全員で査読を担当し（輪番）、審査委員会に参加した。プロトコールが承認されるまでの過程を学ぶ機会となった。

(2) アレルギー対応

アレルギー出現数は 51 件、ほとんどが Grade1～2 であった。

医師とともに、急変対応ロールプレイを実施し、急変対応に関する体制の見直しを行った。

急変時役割分担表の作成、アレルギー出現時経過シートの改訂、腫瘍内科外来医師への緊急要請の流れを明文化した。

(3) 血管トラブル

血管外漏出は 19 件、血管炎は 13 件であった。

血管の状態や薬剤によっては自然滴下での投与を実施し、投与中の予防ケアや自宅でのセルフケア指導、調剤方法変更等の対応を行った。

(4) ライン確保

看護師によるライン確保は、全体の約 65%であった。

① 末梢確保

実施件数は 4930 件であった。

今年度、婦人科の末梢確保を開始し、実施している診療科は 5 科となった。

未実施の診療科からの依頼もあり、末梢確保の拡大に向けての検討が急務となっている。

② 中心静脈（CV）ポート

実施件数は 2690 件であった。

平成 24 年度から看護師による CV ポート穿刺を全診療科に拡大したが、今年度も投与に関するインシデントは発生していない。

2) 患者教育・支援

(1) センター利用オリエンテーション・薬剤オリエンテーション：560 件

薬剤師と協働で行う体制を整備し、教材を使用しながら実施した。

(2) 在宅抗がん剤治療のセルフケア

セルフケア教育手順、チェックリスト、教材 DVD「携帯型ポンプとポート針の取り扱いの実際」を用いて、セルフケア指導：684 件、自宅での自己抜針指導：115 件を実施した。

4. 学会等

- 1) 日本がん看護学会 3名参加（ポスター発表）
- 2) 「第2回・医療の質向上に関する活動報告会」にて発表

5. 研修等の受け入れ

- 1) 通年 東北薬科大学、東北大学薬学部学生研修
東北大学医学部保健学科見学研修
- 2) 平成27年1～3月 平成26年度・がん薬物療法研修×5回（10施設・29名）
- 3) 院内看護師の見学研修

Ⅲ 資料編

東北大学病院がんセンター内規

制定	平成18年	9月14日
改正	平成19年	4月26日
改正	平成23年	6月23日
改正	平成24年	4月1日
改正	平成25年	6月20日
改正	平成26年	12月11日

(設置)

第1条 東北大学病院に、がん医療の均てん化等に関する業務を行うため、東北大学病院がんセンター（以下「がんセンター」という。）を置く。

(組織)

第2条 がんセンターに、がんセンター長、副がんセンター長その他の職員を置く。

- 2 がんセンターの教授、准教授、講師又は助教は、病院長が指名する者をもって充てる。
- 3 がんセンター長及び副がんセンター長は、病院長が指名する。
- 4 センター長及び副センター長の任期は、1年とし、再任を妨げない。

(業務)

第3条 がんセンターは、がんに関する診療を行うほか、次の各号に掲げる業務を行うものとする。

- (1) がん医療従事者の研修、院内外の講師による公開カンファレンスに関すること。
- (2) 全県域における先進がん医療及び標準的がん医療普及に関すること。
- (3) 都道府県がん診療連携協議会の設置及び運営に関すること。
- (4) 院内がん登録に関すること。
- (5) がん相談支援事業に関すること。
- (6) 緩和ケアを推進すること。
- (7) 小児がん診療を推進すること。
- (8) 放射線治療における精度管理に関すること。
- (9) がんに対する普及啓発及び情報提供事業に関すること。
- (10) 腫瘍評議会の運営に関すること。
- (11) がん会議の運営に関すること。
- (12) その他がん医療の均てん化等に関すること。

(腫瘍評議会)

第4条 がんセンターに、前条各号に掲げる業務の総括、企画・立案及び自己評価を行うため、腫瘍評議会を置く。

- 2 業務を円滑に進めるため、下部組織として診療部会、研究部会、教育部会、相談支援・情報部会、がん登録部会を置く。
- 3 腫瘍評議会の構成員は、病院長が指名する者をもって充てる。
- 4 部会の構成員は、がんセンター長が指名する者をもって充てる。

(がん会議)

- 第5条 がんセンターに、腫瘍評議会から付託された個別の事項を行うため、がん会議を置く。
- 2 がん会議が行った個別の事項の対応は、逐次腫瘍評議会に報告するものとする。
 - 3 がん会議の構成員は、病院長が指名する者をもって充てる。

(内部組織)

- 第6条 がんセンターに、第3条各号に掲げる業務のため、次の組織を置く。
- (1) 化学療法センター
 - (2) 緩和ケアチーム
 - (3) がん診療相談室
 - (4) 院内がん登録室
 - (5) 先進包括的がん医療推進室
 - (6) 小児腫瘍センター
 - (7) 医学物理室

(院内の協力体制)

- 第7条 本院のがん対策に係る関連の委員会及び各部署等はがんセンターが行う業務に対して必要な協力を行うとともに、院内挙げてがん対策及びがん防止等に努めるものとする。
- 2 がん対策及びがん防止等に対応するため、研修センターを置く。

(雑則)

- 第8条 この内規に定めるもののほか、がんセンターの運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

- 1 この内規は、平成18年10月1日から施行する。
- 2 この内規の施行後最初にセンター長に指名される者の任期は、第2条第4項の規定にかかわらず、平成19年3月31日までとする。

附 則 (平成19年4月26日改正)

この内規は、平成19年4月26日から施行し、平成19年2月19日から適用する。ただし、第2条第2項の規定は、平成19年4月1日から適用する。

- 3 附 則 (平成23年6月23日改正)

この内規は、平成23年6月23日から施行する。

附 則 (平成24年4月1日改正)

この内規は、平成24年4月1日から施行する。

附 則（平成25年6月20日改正）

この内規は、平成25年4月1日から施行する。

附 則（平成26年12月11日改正）

この内規は、平成26年12月11日から施行する。

東北大学病院化学療法センター細則

制定 平成17年 4月21日

改正 平成19年 4月26日

平成20年 7月24日

（設置）

第1条 東北大学病院（以下「本院」という。）に、東北大学病院化学療法センター（以下「センター」という。）を置く。

（目的）

第2条 センターは、がん患者に対し快適な環境で安全に、且つ、効率的にがん化学療法を行い、併せてがん化学療法に関する教育及び研究を行うことを目的とする。

（組織）

第3条 センターに、センター長、副センター長及びその他の職員を置く。

2 センター長は、本院の専任又は兼務の教授の中から、病院長が指名する者をもって充てる。

3 副センター長は、本院の専任又は兼務の准教授又は講師の中から、病院長が指名する者をもって充てる。

4 センター長、副センター長の任期は2年とし、再任を妨げない。

5 センター長は、病院長の命を受け、センターの業務を掌理する。

6 副センター長は、センター長を補佐し、センター長に事故があるときは、その職務を代行する。

（小委員会）

第4条 センターに、その運営に関する重要な事項を審議するため、東北大学病院化学療法センター小委員会（以下「委員会」という。）を置く。

2 委員会は、委員長及び次の各号に掲げる委員をもって組織する。

(1) センター長

(2) 副センター長

(3) 副薬剤部長 1人

(4) 副臨床検査技師長 1人

(5) 看護師長 1人

(6) その他委員長が必要と認めた者 若干人

3 前項第2号に掲げる委員は、病院長が指名する。

(委員長)

第5条 委員長は、センター長をもって充てる。

2 委員長は、会務を総理する。

3 委員長に事故があるときは、あらかじめその指名する委員が、その職務を代行する。

(委員以外の者の出席)

第6条 委員会は、必要があると認めるときは、委員以外の者を委員会に出席させて説明又は意見を聴くことができる。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、医事課において処理する。

(プロトコール審査委員会)

第8条 センターに、化学療法プロトコール審査委員会（以下「審査委員会」という。）を置く。

2 審査委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

(化学療法センター事務局)

第9条 センターに、化学療法センター事務局（以下「事務局」という。）を置く。

2 事務局の運営に関し必要な事項は、別に定める。

(外来化学療法室)

第10条 センターに、外来化学療法室を置く。

(雑則)

第11条 この内規に定めるもののほか、センターの運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この内規は、平成17年4月21日から施行する。

2 東北大学病院外来化学療法センター内規（平成16年4月1日制定）は、廃止する。

附 則

この内規は、平成17年4月21日から施行し、平成17年4月1日から適用する。

附 則（平成19年4月26日改正）

この内規は、平成19年4月26日から施行し、平成19年2月19日から適用する。ただし、第3条第2項第2号の規定は、平成19年4月1日から適用する。

附 則（平成20年7月24日改正）

この内規は、平成20年7月24日から施行する。

東北大学病院化学療法センター事務局要項

制定 平成17年 4月21日

改正 平成19年 4月26日

平成20年 7月26日

(趣旨)

第1条 この要項は、東北大学病院化学療法センター細則（平成17年4月21日制定）第9条第2項の規定に基づき、東北大学病院化学療法センター（以下「センター」という。）に設置される東北大学病院化学療法センター事務局（以下「事務局」という。）の運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(設置場所及び目的)

第2条 事務局は、薬剤部内に置く。

2 事務局は、院内で実施される化学療法プロトコールの登録及びデータ管理を行うほか、化学療法プロトコールに関する窓口業務を行う。

(組織)

第3条 事務局は、事務局長及び事務局員をもって組織する。

2 事務局長は、薬剤部長をもって充てる。

3 事務局員は、事務局長が指名する。

附 則

この要項は、平成17年4月21日から施行する。

附 則（平成19年4月26日改正）

この要項は、平成19年4月26日から施行し、平成19年2月19日から適用する。

附 則（平成20年7月24日改正）

この要項は、平成20年7月24日から施行する。

東北大学病院化学療法プロトコール審査委員会要項

制定 平成17年 4月21日

改正 平成19年 4月26日

平成20年 7月24日

(趣旨)

第1条 この要項は、東北大学病院化学療法センター細則（平成17年4月21日制定）第8条第2項の規定に基づき、東北大学病院化学療法センター（以下「センター」という。）に設置される東北大学病院化学療法プロトコール審査委員会（以下「委員会」という。）の運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 委員会は、院内で実施される化学療法プロトコールについて、その質、安全性及び効率性

の観点から事前審査を行い、これに助言を与えることを目的とする。

(組織)

第3条 委員会は、委員長及び次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) センター長
- (2) 副センター長
- (3) 医師 若干人
- (4) 薬剤師 1人
- (5) 看護師 1人
- (6) センター事務局長
- (7) その他委員長が必要と認めた者

2 前項第3号、第4号及び第5号に掲げる委員は、病院長が指名する。

3 委員長は、委員の互選をもって選出する。

(委員以外の者の出席)

第4条 委員長は、必要があると認めるときは、委員以外の者を審査委員会に出席させて説明又は意見を聴くことができる。

(庶務)

第5条 委員会の庶務は、センター事務局において行う。

附 則

この要項は、平成17年4月21日から施行する。

附 則 (平成19年4月26日改正)

この要項は、平成19年4月26日から施行し、平成19年2月19日から適用する。

附 則 (平成20年7月24日改正)

この要項は、平成20年7月24日から施行する。

東北大学病院緩和ケアセンター運営内規

制定 平成12年 3月16日

改正 平成12年 7月19日

平成13年 2月 9日

(題名改称)

平成14年 2月21日

平成19年 4月26日

(趣旨)

第1条 この内規は、東北大学病院緩和ケアセンター病棟入退棟基準により入院した患者並びにその家族に対して、入院及び外来を含めた緩和ケアの高度なチーム医療を行うため、必要な事項を定めるものとする。

(治療の基本方針)

第2条 がん性疼痛並びに末期諸症状の緩和及び患者、家族の精神的ケア等を行い、延命のための
みの治療・検査は行わない。

(運営)

第3条 センターは次のように運営する。

- (1) 平成12年10月1日より、個室22床で運営する。入棟判定待機や在宅患者の急性増悪、センター入院患者の医療処置を要する場合のために、別に緩衝的病床（緩和医療病床4床）を充てることができる。
- (2) センターに係る患者の入退棟は、別に定める審査基準により、判定会議が当該患者に対する緩和的及び根治的な医療処置の必要性、妥当性を検討の上、決定する。
緊急の入退棟については、速やかに判定会議に報告するものとする。
- (3) 随時スタッフ・ミーティングを行い、患者情報とケア方針の共有に努める。兼任スタッフを含め、それぞれの立場から患者中心のケアを検討する。
- (4) 主治医は緩和医療部の医師が担当するが、前主治医による回診を妨げるものではない。
- (5) 患者の生活の場として可能な限りプライバシーに配慮し、意思を尊重する。
- (6) 職員、学生ほかの教育、見学は可能な範囲で受け入れる。
- (7) 医師、看護師、その他医療従事者並びに学生等に対して疼痛制御及び終末期医療の実践を通じて教育を行う。

(診療科との連携)

第4条 センターに関連する内科系・外科系の各診療科、麻酔科、精神科及び放射線治療科は、センターの要請により支援を行う。また、緩和医療部の医師による日直・当直が困難な場合にも、前述の診療科は、これを支援する。

(外来診療)

第5条 紹介医、患者からの入棟申込みの受付及び在宅となった患者の診療は、緩和医療科（外来）で行う。緩和医療部の医師をはじめとするスタッフが支援する。

(看護体制)

第6条 センターは次のように看護体制を敷く。

- (1) 勤務形態は三交替で準夜2人、深夜2人で夜勤回数月8日を原則とする。新人は配置せず、卒後3年以上を配置する。病棟のローテーションは年度始めの4月に行う。
- (2) 看護体制はモジュール型継続受持方式を原則とし、2つのモジュールに分けて行う。モジュールの交替は能力等を考え看護師長が決定する。日勤では原則としてプライマリー・ナースが受け持ち、夜勤では同じモジュールの看護師が患者のケアにあたる。
- (3) 看護記録は、POS方式を原則とする。

(ボランティア)

第7条 センターは次のようにボランティアを置く。

- (1) センター内に『社会的環境』、『温もりの空間』を創り出し、患者及び家族の家庭

的、人間的な関わりを保つためにボランティアを導入する。

(2) センターのボランティアは、東北大学病院ボランティア活動員受入れ、実施要項に基づく活動員で、センターが行う研修を受けた者のうち、緩和医療部長が適当と認めたものとする。

(3) センターのボランティアは、専らセンターで活動するものとする。

(運営内規)

第8条 この内規に定めるもののほか、必要な事項については、別に定める。

(運営内規の改廃)

第9条 この内規の改廃については、緩和医療部運営委員会で審議する。

附 則

この内規は、平成12年3月16日から施行する。

附 則 (平成12年7月19日改正)

1 この内規は、平成12年10月1日から施行する。

2 東北大学病院緩和ケアセンターで病棟入退棟判定委員会規程(平成11年11月18日制定)は、廃止する。

附 則 (平成13年2月9日改正)

この内規は、平成13年4月1日から施行する。

附 則 (平成14年2月21日改正)

この内規は、平成14年3月1日から施行する。

附 則 (平成19年4月26日改正)

この内規は、平成19年4月26日から施行し、平成19年2月19日から適用する。

東北大学病院緩和ケアチーム設置要項

制定 平成18年11月16日

改正 平成19年 4月26日

改正 平成24年 9月14日

(趣旨)

第1条 この要項は、東北大学病院がんセンター内規第6条2号の規定に基づき、緩和ケアチームの運営に関する必要な事項を定める。

(業務)

第2条 緩和ケアチームは、本院における悪性腫瘍の患者の疼痛・倦怠感・呼吸困難等の身体症状又は不安・抑うつ等の精神症状の緩和ケアを行う。

また、緩和ケアチームはコンサルテーション型として、当該診療科のサポートを行う。

(構成)

第3条 緩和ケアチームにチーム長を置き、身体症状の緩和を担当する医師がその任に当たる。

2 緩和ケアチームは以下の構成員で構成する。

- (1) 身体症状の緩和を担当する医師
- (2) 精神症状の緩和を担当する精神科医師
- (3) がん性疼痛看護認定看護師・緩和ケア認定看護師及びチーム長と看護部が相談の上必要と認めた関連領域看護師
- (4) 薬剤師
- (5) メディカルソーシャルワーカー
- (6) 管理栄養士
- (7) 事務
- (8) その他チーム長が必要と認めた者

(活動内容)

第4条 緩和ケアチームは症状緩和に係わるカンファランスを週1回程度開催するものとする。

また、必要に応じて主治医、看護師などが参加し、以下の活動を行う。

- (1) がん患者の緩和ケアの実践
 - ① 疼痛を緩和するための薬物療法のアドバイス
 - ② 精神症状を緩和するためのカウンセリングや薬物療法のアドバイス
 - ③ その他緩和ケアに関する相談
- (2) 社会的苦痛に関しての相談
- (3) 必要に応じての緩和ケアミーティングの開催
- (4) 院内スタッフへの緩和ケア勉強会の開催

2. 必要に応じ、緩和ケア病棟と連携し、症状緩和のケアを行うこと。

附 則

この要項は、平成18年11月16日から施行する。

附 則 (平成19年4月26日改正)

この要項は、平成19年4月26日から施行し、平成19年2月19日から適用する。

附 則 (平成24年9月14日改正)

この要項は、平成24年9月14日から施行する。

東北大学病院院内がん登録室細則

制定 平成20年 2月21日

改正 平成23年 7月28日

改正 平成27年 3月13日

(目的)

第1条 この細則は東北大学病院がんセンター内規第6条の規定に基づき、がんセンターに置く東北大学病院院内がん登録室（以下「院内がん登録室」という。）について必要な事項を定めるものとする。

(組織)

第2条 院内がん登録室は、次に掲げる者をもって構成する。

- (1) 室長 1名
- (2) 副室長 1名
- (3) 室長が指名する者 若干名

2 室長及び副室長は、それぞれ病院長が指名する者をもって充てる。

(業務)

第3条 院内がん登録室は、次の業務を行う。

- (1) がん治療成績データの集積・分析・管理に関すること。
- (2) がん患者登録データの研究利用に関すること。
- (3) 地域がん登録へのデータ提供に関すること。
- (4) 宮城県内におけるがん診療連携拠点病院等に対する精度管理指導に関すること。

(小委員会)

第4条 院内がん登録室に、その運営に関する重要な事項を審議するため、東北大学病院院内がん登録小委員会（以下「委員会」という。）を置く。

2 委員会は、委員長及び次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 院内がん登録室長
- (2) 院内がん登録副室長
- (3) メディカルITセンター副部長
- (4) 診療情報管理士
- (5) 地域医療連携室長
- (6) 医療情報室長
- (7) その他委員長が必要と認めた者 若干名

3 院内がん登録情報の外部提供については、がん登録部会において協議し決定するものとする。

(委員長)

第5条 委員長は、院内がん登録室長をもって充てる。

2 委員長は、会務を総理する。

3 委員長に事故があるときは、院内がん登録副室長がその職務を代行する。

(委員以外の者の出席)

第6条 委員会が必要と認めるときは、委員以外の者を委員会に出席させて説明又は意見を聴くことができる。

(その他)

第7条 この細則に定めるもののほか、院内がん登録室に関し必要な事項は、がんセンター長が定めることができる。

附 則

この細則は、平成20年2月21日から施行する。

附 則

この細則は、平成23年7月28日から施行し、平成23年7月1日から適用する。

附 則

この細則は、平成27年3月13日から施行し、平成27年3月13日から適用する。

東北大学病院院内がん登録実施要領

制定 平成20年 2月21日

(目的)

第1条 この要領は、東北大学病院院内がん登録室細則第7条の規定に基づき、院内がん登録業務に関し必要な事項を定めるものとする。

(登録対象と登録内容)

第2条 院内がん登録は本院で診断・治療を行った全てのがん患者について、その診断から治療、および予後に関する情報を登録する。

2 登録対象疾患は、上皮内がんを含む全悪性新生物及び良性を含む頭蓋内の腫瘍とする。

3 一人に複数の独立した腫瘍（重複がん）が診断された場合には、それぞれの腫瘍について登録する。

4 登録は、入院・外来のがん（疑診を含む）を問わず、病院における初回の一連の診断・治療情報とする。

5 登録項目は、「がん診療連携拠点病院院内がん登録標準登録様式」に従う。

6 病院として、独自に付加する情報については、院内がん登録小委員会において協議し決定する。

(登録の実施、手順)

第3条 院内がん登録は下記の手順により、診断、治療に関する腫瘍毎の登録を行う。

- (1) 腫瘍見つけ出し
- (2) 登録対象の確認
- (3) 登録情報の抽出及びコード化
- (4) 疑義照会

(予後調査の実施、手順)

第4条 登録患者について、次の手順により予後調査を行い、診断から3年目、5年目及び10年目の生死を明らかにし、併せて死亡者の死因を把握する。

- (1) 予後調査対象者ファイルを作成し、来院歴情報、死亡診断書情報と照合する。
- (2) 紹介施設に予後を問い合わせる。
- (3) 地域がん登録から届出患者について死亡情報の提供を受ける。
- (4) 第1号から第3号で予後が把握できない場合は住民票照会等を行う。
- (5) 死亡者については、法務省の許可を得て法務局に死因を問い合わせる。

(地域がん登録への提出)

第5条 院内がん登録情報から、地域がん登録において要請される情報を抽出・編集し、地域がん登録室へ届け出る。

(集計結果の作成・報告・公開)

第6条 集計結果はがん登録部会で承認を得た後、病院年報として取りまとめ、腫瘍評議会に報告するとともに病院外の関係機関にも公表する。

- 2 年報で得られた集計結果のうち、公開することによって公衆衛生の向上に寄与し、特定の個人に不利益を及ぼす可能性のない項目については、院内がん登録小委員会で承認後、施設に掲示、あるいは病院ホームページに掲載するなどして、成果の公表に努める。
- 3 公開した資料に対する問い合わせ、資料請求への対応は、院内がん登録室が担当する。問い合わせや資料請求の内容・件数について、院内がん登録小委員会及びがん登録部会に定期的に報告する。

(院内の情報サービス)

第7条 診療科が、その診療内容を把握・評価する目的で、院内がん登録資料を利用する場合、あるいは院内がん登録で把握している患者の予後情報を利用する場合は、利用希望者ががん登録部会長に所定の申請書を提出し、がん登録部会長の承認を得なければならない。

- 2 施設内部で、あるいは施設外の公的調査に協力するために、当該施設の診療機能に関する集計値が必要な場合にも、所定の申請書によりがん登録部会長に申請する。
- 3 院内がん登録室は、申請者と作業手順・時期などについて協議の上、登録情報の提供、集計値の作成にあたる。

(研究的利用にかかわる事務処理)

第8条 院内がん登録資料を研究目的で利用する場合は、別途定める病院院内がん登録における個人情報保護および利用に関する規定に基づき、利用希望者ががん登録部会長に所定の申請書を提出し、がん登録部会長の承認を得なければならない。

- 2 がん登録部会長の承認が得られた場合に限り、院内がん登録室は、必要なデータを登録資料に基づき作成し、利用希望者に提供する。

附 則

この要領は、平成20年 2月21日から施行する。

東北大学病院院内がん登録における個人情報保護及び利用に関する要領

制定 平成20年 2月21日

(目的)

第1条 この要領は、東北大学病院院内がん登録における個人情報の取り扱い及び院内がん登録情報の利用に関する必要な事項を定める。

(定義)

第2条 この要領における院内がん登録従事者とは、雇用形態にかかわらず東北大学病院において、院内がん登録に関する各種情報の収集、整理、登録、解析、報告等の業務に従事する者をいう。

(登録室管理者)

第3条 東北大学病院院内がん登録における個人情報の保護及び管理のため、登録室管理者を置く。登録室管理者は院内がん登録室長をもって充てる。

2 登録室管理者は、院内がん登録における個人情報の保護及び管理についての監督並びに必要な応じこれを向上させるための対策を講ずることを責務とする。

(個人情報保護の義務)

第4条 院内がん登録従事者及び院内がん登録従事者であった者は、業務上知り得た患者個人についての事項を他にもらしてはならない。また本要領を遵守する義務を負う。

2 登録室管理者以外のがん登録従事者は、登録室管理者の指導、監督に基づき、個人情報の保護及び管理対策の維持、向上に努めるとともに、業務を実施するに当たっては、登録資料の取り扱いに関し、紛失、破損を防止するとともに、資料ががん登録従事者以外の目に触れないよう十分な注意を払わなければならない。

(患者等への接触禁止)

第5条 がん登録従事者は登録情報の収集や確認のために、患者本人や患者家族に直接接触してはならない。

(登録資料の管理)

第6条 院内がん登録の作業上の必要により、登録資料を印刷すること及びフロッピーディスク等の磁気媒体に保存することは必要最低限に留める。登録資料を印刷したものは作業終了後裁断ま

たは溶解により廃棄する。磁気媒体に保存された記録は、当該業務が終了した時点で直ちに消去する。

- 2 登録室管理者が特に登録作業上必要があると認めた場合を除き、紙もしくは磁気媒体に記録された登録資料を院内がん登録室以外の場所に持ち出してはならない。

(入退室管理)

第7条 登録室管理者は、特に必要がある場合を除き、がん登録従事者以外の者を院内がん登録室に立ち入らせてはならない。

(院内がん登録情報の利用)

第8条 東北大学病院に所属する者が診療内容の把握、評価をする目的、東北大学大学院医学系研究科に所属する者（以下「研究者」と定義する）が研究を行う目的及び都道府県地域がん登録やがん診療連携拠点病院腫瘍データ収集調査へのデータ提供の目的で院内がん登録情報を利用することができる。

(院内がん登録情報の利用申請を行うことができる範囲)

第9条 東北大学病院、東北大学大学院医学系研究科の職員は、院内がん登録情報の利用申請を行うことができる。また、都道府県地域がん登録責任者は地域がん登録への登録を行う目的で院内がん登録情報の利用申請を行うことができる。

(院内がん登録情報を利用できる者の範囲)

第10条 院内がん登録情報のうち、公表された以外の集計値・生存率計算結果、個人識別情報を除いた腫瘍個票データを利用できる者は下記のいずれかに該当する者とする。

- (1) 本要領第9条により利用申請をし、承認を受けた者。
 - (2) 上記以外の東北大学病院、東北大学大学院医学系研究科に所属する者で利用申請者の管理下において情報を扱う者。
 - (3) 東北大学病院、東北大学大学院医学系研究科以外に所属する者で、利用申請者が共同研究者である者。
- 2 院内がん登録情報のうち、個人識別情報を含む腫瘍個票データを利用できる者は以下のいずれかに該当する者とする。
- (1) 本要領第9条により利用申請をし、承認を受けた者。
 - (2) 個人情報保護について医師と同様の守秘義務を負うことについての誓約を東北大学病院長に対して行い、かつ東北大学病院、東北大学大学院医学系研究科において利用申請者の管理下に情報を扱う上記以外の者。

(院内がん登録情報の利用申請)

第11条 院内がん登録情報の利用に当たっては、以下の各号に定める利用手続きを経なければならない。

- (1) 公表された以外の集計値及び生存率計算結果のみを利用する場合には「東北大学病院院内がん登録情報利用申請書」(様式1)によりがん登録部会長に利用申請する。
- (2) 個人識別情報を除いた腫瘍個票データの利用を希望する場合には、「東北大学病院院内がん登録情報利用申請書」(様式1)によりがん登録部会長に利用申請する。研究者が研究目的で個人識別情報を除いた腫瘍個票データの利用を希望する場合には、「東北大学病院院内がん登録情報利用申請書」(様式1)及び東北大学医学系研究科医学部倫理委員会の倫理審査承認書の写しによりがん登録部会長に利用申請する。
- (3) 個人識別情報を含んだ腫瘍個票データの利用を希望する場合には、「東北大学病院院内がん登録情報利用申請書」(様式1)及び「個人識別情報を含む東北大学病院院内がん登録情報利用に関する誓約書」(様式2)によりがん登録部会長に利用申請する。研究者が研究目的で個人識別情報を含んだ腫瘍個票データの利用を希望する場合には、「東北大学病院院内がん登録情報利用申請書」(様式1)、「個人識別情報を含む東北大学病院院内がん登録情報利用に関する誓約書」(様式2)及び東北大学医学系研究科医学部倫理委員会の倫理審査承認書の写しによりがん登録部会長に利用申請する。都道府県地域がん登録責任者が地域がん登録への登録目的で個人識別情報を含んだ腫瘍個票データの利用を希望する場合は本要領第11条第4項に定めた手続きに従うものとする。
- (4) 都道府県地域がん登録責任者が地域がん登録への登録目的で個人識別情報を含んだ腫瘍個票データの提供を希望する場合には、「東北大学病院院内がん登録情報提供申請書」(様式3)によりがん登録部会長に申請する。

(申請の承認)

第12条 がん登録部会長は、利用、提供の申請があった場合、申請内容を審査し、適当と認められる場合には情報の利用、提供を承認することができる。

(院内がん登録情報の提供)

第13条 がん登録部会長は「東北大学病院院内がん登録情報利用(提供)承認書」(様式4)を添え、申請を行った対象範囲及び項目についてのみ磁気媒体または出力帳票により情報を提供する。

(院内がん登録情報の受領)

第14条 第11条第2項から第4項に従って申請を行い、院内がん登録情報の提供を受けた者は、「東北大学病院院内がん登録情報受領書」(様式5)をがん登録部会長に提出しなければならない。

(個人識別情報を含んだ腫瘍個票データ利用者の責務)

第15条 個人識別情報を含んだ腫瘍個票データの利用者は、次の各号を遵守しなければならない。

- (1) 承認された目的、方法以外に資料を利用してはならない。また第三者に資料を譲渡、貸与、閲覧させてはならない。

- (2) 資料から得た患者個人の情報を他にもらしてはならない。
- (3) 資料の保管に最大限配慮しなければならない。
- (4) 利用期間が終了したとき、又は利用期間内であっても利用目的が完了したときは、提供を受けた資料の全てを、速やかに院内がん登録室に返却または消去し、「個人識別情報を含む東北大学病院院内がん登録情報返却・消去報告書」(様式6)を提出しなければならない。

(個人識別情報を含んだ腫瘍個票データの利用者への立ち入り検査等)

第16条 がん登録部会長は個人識別情報を含んだ腫瘍個票データの保管状況について、第11条第3項から第4項により個人識別情報を含んだ腫瘍個票データの提供を受けた者に対して、立ち入り検査、又は利用者から説明を求めることができる。

2 第11条第3項から第4項により個人識別情報を含んだ腫瘍個票データの提供を受けた者はがん登録部会長より求めがあった場合は前項の検査、説明に応じなければならない。

3 がん登録部会長は立ち入り検査等の結果、個人識別情報を含んだ腫瘍個票データの利用、保管状況に遵守事項の違反があった場合は直ちに提供した資料の返還を求めることができる。

附 則

この要領は平成20年2月21日から施行する。

東北大学病院がん診療相談室細則

平成21年3月制定

平成23年4月改正

平成23年12月改正

平成26年5月改正

(設置)

第1条 東北大学病院がんセンターがん診療相談室は、地域医療連携センター内に設置し、がんセンターと地域医療連携センターの協働のもと運営を行う。

(組織)

第2条 がん診療相談に関して次の部会を置く

相談支援・情報部会

- (1) 部会長 がん診療相談室長
- (2) 看護部から1名
- (3) がんセンターから1名
- (4) がん相談員から1名
- (5) 総務課(広報担当)から1名
- (6) 地域医療連携室から1名
- (7) その他部会長が認めるもの若干名

(がん診療相談実務者会議)

第3条 室長は業務を遂行するため、がん診療相談実務者会議を開催する。
会議は原則として月1回定期開催するものとする。

2. 実務者会議は次の者で構成される。
 - (1) 専従相談員1名
 - (2) 専任の相談員（看護師、MSW）
 - (3) 地域医療連携室から1名
 - (4) セカンドオピニオン担当者1名
 - (5) 兼務保健学科教員など

（業務）

第4条 所掌事項として当分の間は以下の通りとする

- (1) がんの病態、標準的治療法等がん診療およびがんの予防・早期発見等に関する一般的な情報の提供、およびがん関連図書等の管理運営に関すること
- (2) 診療機能、入院・外来の待ち時間および医療従事者の専門とする分野・経歴など、地域の医療機関および医療従事者に関する情報の収集、提供
- (3) セカンドオピニオンの提示が可能な医師の紹介
- (4) がん患者の療養上の相談
- (5) 地域の医療機関および医療従事者等におけるがん医療の連携協力体制の事例に関する情報の収集、提供
- (6) アスベストによる肺がんおよび中皮腫に関する医療相談
- (7) HTLV-1 関連疾患であるATLに関する医療相談
- (8) 就労に関する相談
- (9) 医療関係者と患者会等が共同で運営するサポートグループ活動や患者サロンの定期開催等の患者活動に対する支援
- (10) 相談支援センターの広報・周知活動
- (11) 相談支援に携わる者に対する教育と支援サービス向上に向けた取組
- (12) その他相談支援に関すること

（院内の協力体制）

第5条 がん相談に関する関連の診療科および部署は業務に対して必要な協力を行う。

（報告）

第6条 相談支援・情報部会及びがん診療相談室実務者会議での決定事項は腫瘍評議会、及び地域医療連携センター会議に報告し了承を得る。

東北大学病院小児腫瘍センター細則

制定 平成26年12月11日

(趣旨)

第1条 この細則は、東北大学病院がんセンター内規第6条第6号の規定に基づき、小児腫瘍センター（以下「センター」という。）の運営に関する必要な事項を定める。

(目的)

第2条 センターを総合的小児がん医療部門と位置づけ、小児系診療科及びそれ以外の診療科の小児がん患者に対し、効率的かつ安全で高度な小児がん診療を行うことにより、小児がんの治療成績向上と、患者及びその家族のアメニティと生活の質（QOL）の向上を図り、さらに退院後も長期的な医療と支援体制を提供することを目的とする。

(組織)

第3条 センターに、センター長、副センター長、及びその他の職員を置く。

- 2 センター長及び副センター長は病院長が指名する者をもって充てる。
- 3 センター長及び副センター長の任期は、1年とし、再任を妨げない。

(小委員会)

第4条 センターに、その重要事項を審議し、運営の円滑化を図るため、小委員会（以下「委員会」という。）を置く。

2 委員会は、委員長及び次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) センター長
- (2) 副センター長
- (3) 小児科及び小児腫瘍科の各病棟医長
- (4) 小児外科病棟医長
- (5) 小児腫瘍センターを利用する各診療科から選出された者 各1人
- (6) 薬剤部から選出された者 1人
- (7) 栄養管理室から選出された者 1人
- (8) 東・西5階各病棟看護師長
- (9) 小児科及び小児腫瘍科外来看護師
- (10) 医事課長
- (11) 地域医療連携室長
- (12) その他委員長が必要と認めた者

3 委員長は第2項第1号の委員をもって、副委員長は同項第2号の委員をもって充てる。

(委員長)

第5条 委員長は会務を総理する。

2 委員長に事故があるときは、副センター長が、その職務を代行する。

(委員以外の者の出席)

第6条 委員長が必要であると認めるときは、委員以外の者を委員会に出席させることができる。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、地域医療連携室において処理する。

(雑則)

第8条 この細則に定めるもののほか、センターの運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この細則は、平成26年12月11日から施行する。

宮城県がん診療連携協議会規約

(名称)

第1条 本会は、宮城県がん診療連携協議会という。

(目的)

第2条 本会は、県内におけるがん診療連携の円滑な実施を図るとともに質の高いがん医療の提供体制を確立することを目的とする。

(事業)

第3条 本会は、前条の目的を達成するため次の事業を行う。

- 1 会議の開催。
- 2 県内におけるがん医療情報の収集。
- 3 診療支援医師の派遣、研修計画の調整等。
- 4 その他本会の目的達成に必要な事業。

(事務局)

第4条 本会の事務局は、会長の属する病院内に置く。

(会員)

第5条 本会の会員は、厚生労働省の「がん診療連携拠点病院」の指定を受けた宮城県内の病院とする。

構成メンバーは、会員病院の院長等及び担当医並びに事務（局・部）長をもって構成する。

(役員)

第6条 本会に次の役員を置く。

会 長	1名
副会長	2名
監 事	1名

2 役員は総会で会員のうちから選任する。

3 役員の任期は2年とする。ただし、その終期は選任された年の翌々年の定期総会終結の日とする。

(作業部会)

第7条 本会に事業計画の詳細な検討を行うための必要な作業部会を置く。

- 2 作業部会の部会長は会長が指名する。
- 3 作業部会のメンバーは、会員病院の院長より推薦を受けた者によって構成する。
- 4 作業部会は部会長が必要に応じ招集する。

(顧問及び参与)

第8条 本会に顧問及び参与を若干名を置くことができる。

- 2 顧問及び参与は、本会に功労のある者、学識経験のある者、県内の関係機関並びに団体の役員の中より総会の承認を経て会長が委嘱する。

(総会)

第9条 定期総会は毎年1回、臨時総会は必要のある場合会長が招集しその議長となる。

(会費)

第10条 本会の運営のための会費は1病院あたり年1万円とする。

(会計)

第11条 本会の運営に要する費用は、会員の会費及びその他の収入をもってあてる。

- 2 本会の会計年度は4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

附 則

- 1 この規約は平成17年4月1日から施行する。
- 1 この規約は平成17年12月7日から施行する。
- 1 この規約は平成18年12月9日から施行する。
- 1 この規約は平成24年7月18日から施行する。

宮城県がん診療提供体制検討委員会内規

制定 平成26年2月10日

(設置)

第1条 宮城県がん診療連携協議会（以下「協議会」という。）に、宮城県がん診療提供体制検討委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(目的)

第2条 委員会は、宮城県におけるがん診療の質の向上及びがん診療連携協力体制の構築、PDC Aサイクルの確保などを目的とし、必要な事項の審議を行ない協議会に提案する。

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員で組織する。

- (1) 会員病院の院長等が指名する者（各施設1名ずつ）
- (2) その他委員会が必要と認めた者

(委員長)

第4条 委員長は、第3条（1）号委員のうちから互選する。

- 2 委員長は、会務を総理する。
- 3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名する委員が、その職務を代行する。

(任期)

第5条 第3条各号に掲げる委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 前項の委員は、再任されることができる。

(委員会の召集)

第6条 委員会は、委員長が召集する。

2 委員会は、委員長が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させ、意見を聴くことができる。

3 委員の総意がえられた事項に関しては電子メールなどを用いて審議をすすめることができる。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、協議会事務局において処理する。

(雑則)

第8条 この内規に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が定める。

附 則

この内規は、平成26年2月10日から施行する。

